

非正規職で働く、子どもを持たないシングルの方の状況

今回の新型コロナウイルス感染拡大が雇用や生活面で、特に女性に深刻な影響を及ぼしていることが指摘されている。

具体的には、外出自粛・休業要請により「ステイホーム」が促進される中、家庭内暴力や暴言、虐待、DV、モラハラといった様々な家庭内の課題を抱えていた女性にとって、逃げ場を失ったことで、それらの課題が深刻化している。また、雇用環境では、今回の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける飲食業や小売業といった業種に就く人材に女性が多いことから、女性の雇用悪化がより際立っている。

加えて、世界と比較した場合、日本では、就業上や家庭において、女性の役割に対する概念が固定化されていることに加え、上記のような職種の偏りが大きいことが雇用悪化の一因にあるとされている。

これまで、全国的には一般的な女性の就業支援事業で、支援ができていない層として「非正規職で働く、子どもを持たないシングル女性」の存在が浮かび上がってきている。

新型コロナウイルス感染症に関する様々な支援策についても、対象は一定の収入減少者、休業者、生活困窮者、子育て世帯が主となっている。無職ではないが、雇用の不安定な非正規職で働く、子どもを持たないシングルの女性の状況は見えづらく、支援の対象としては注目されていない状況がある。

社会の中には、支援を受けるまではないが、仕事や生活において不安やストレスを抱えているといった人、「支援が欲しい」と感じた人の中にも、日々の生活で精いっぱい、あるいは無力感から助けを求める活力のない人、「非正規で働くことや貧困に陥っている状況は自分の責任である」と捉える「自己責任論」や「自己肯定感の低さ」から、自らが社会から疎外されている存在だと感じる人たちもいる。そういった支援の届かない人々の「声なき声」をいかに拾い上げていくのが大きな課題である。

そこで、本調査では、非正規雇用で働く子どもを持たないシングル女性の実態を明らかにすることも主目的として、分析を行った。

非正規雇用で働く子どもを持たないシングル女性とは、現在配偶者がおらず、子どもを持たない人であり、仕事の状態が、新型コロナウイルス感染症拡大以前より非正規職で働き続ける人、または新型コロナウイルス感染症拡大期の仕事の変化により非正規職に就いた人、または以前は非正規職で、現在は無職で求職中の人と定義している。

本調査では、288人（全体の5.5%）が該当した。

さらに、現在非正規職で働き、配偶者がおらず、子どもを持たない人を対象に追加調査を行い、250人の方から回答をいただいた。

本調査、追加調査結果を合わせて538人についての結果をまとめる。

1. 非正規職・子どもを持たない・シングルの方の状況

(1) 仕事の状況

現在の仕事の状態は、「勤め人（非正規職）」（96.7%）あるいは、非正規職から「無職・家事専業で求職中」（3.3%）に変わった方である。

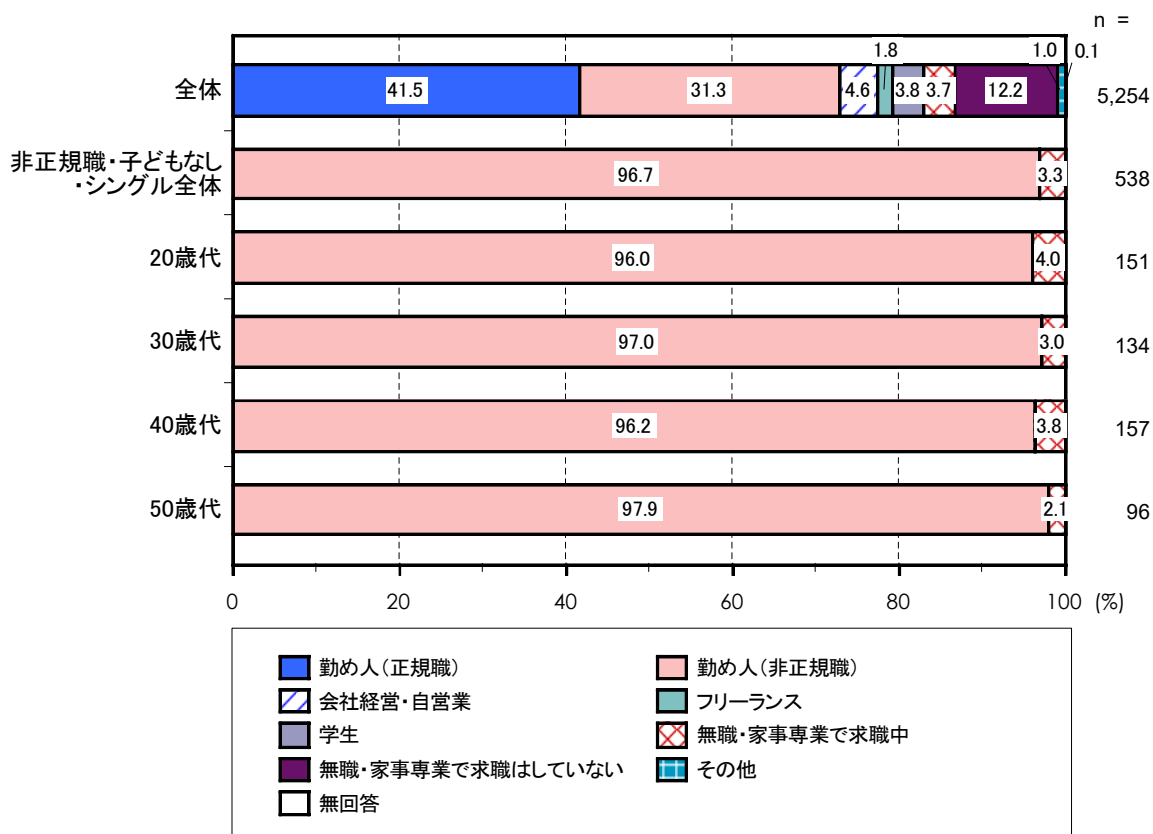
現在の仕事の業種は、「卸売業・小売業」15.8%、「飲食サービス業」12.7%、「教育・学習支援業」11.5%と続いている。

年齢別に仕事の業種をみると、「卸売業・小売業」は50歳代で高く、「飲食サービス業」は20歳代で高く、年齢が上がるにしたがって低くなっている。

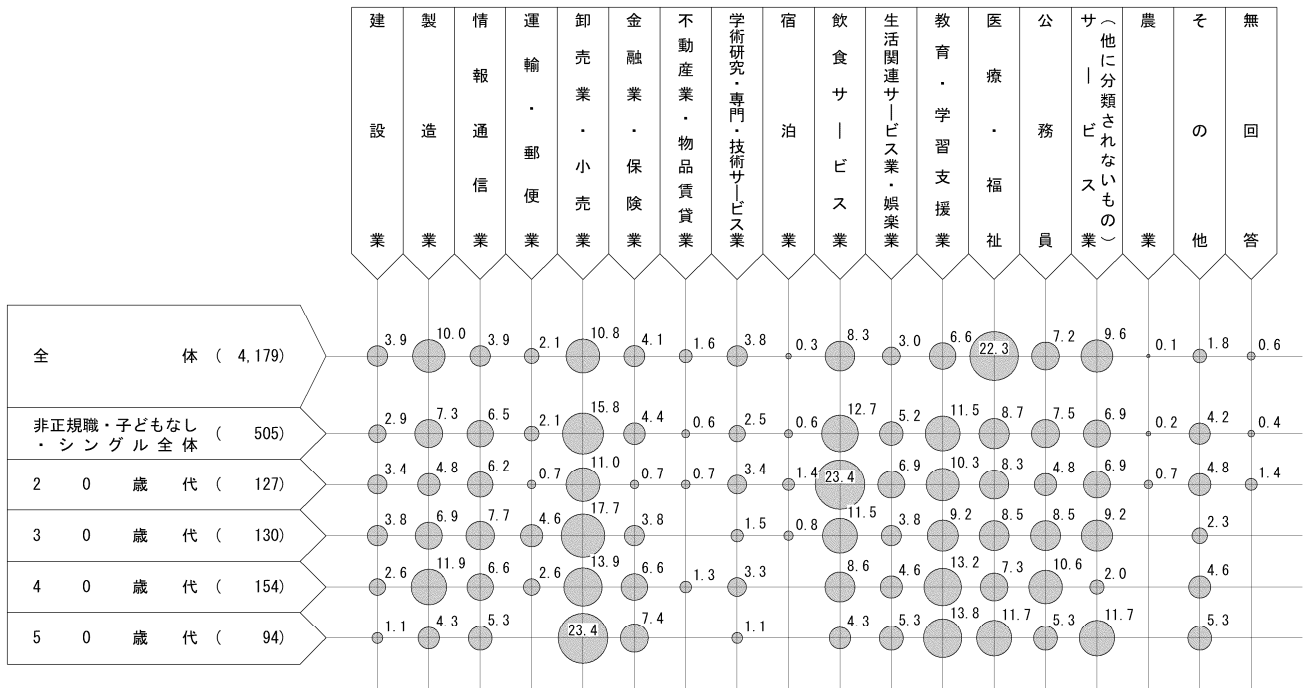
現在の仕事の職種は、「事務職」36.0%、「接客・販売」30.6%が高い。

年齢別に職種をみると、「事務職」は50歳代では45.7%と半数程度を占めている。飲食サービスの比率が高い20歳代で「接客・販売」が高くなっている。

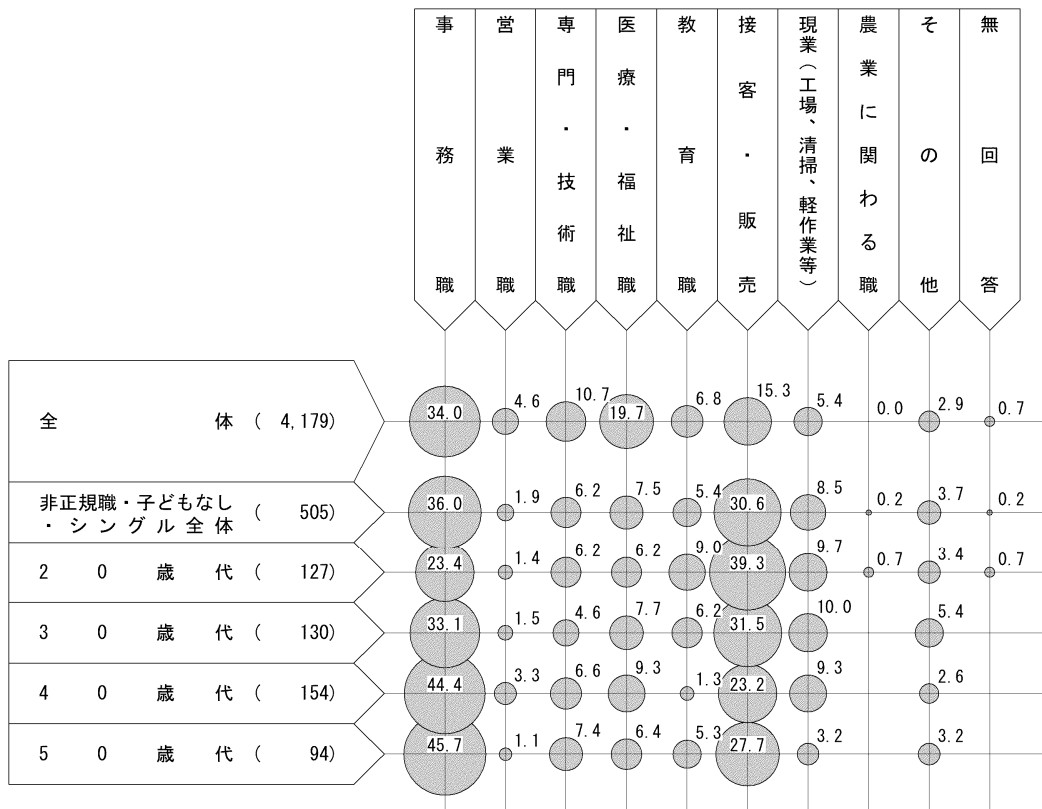
図表 非正規職・子どもなし・シングル「現在の仕事の状況」



図表 非正規職・子どもなし・シングル「現在の仕事の状況」



図表 非正規職・子どもなし・シングル「現在の仕事の状況」

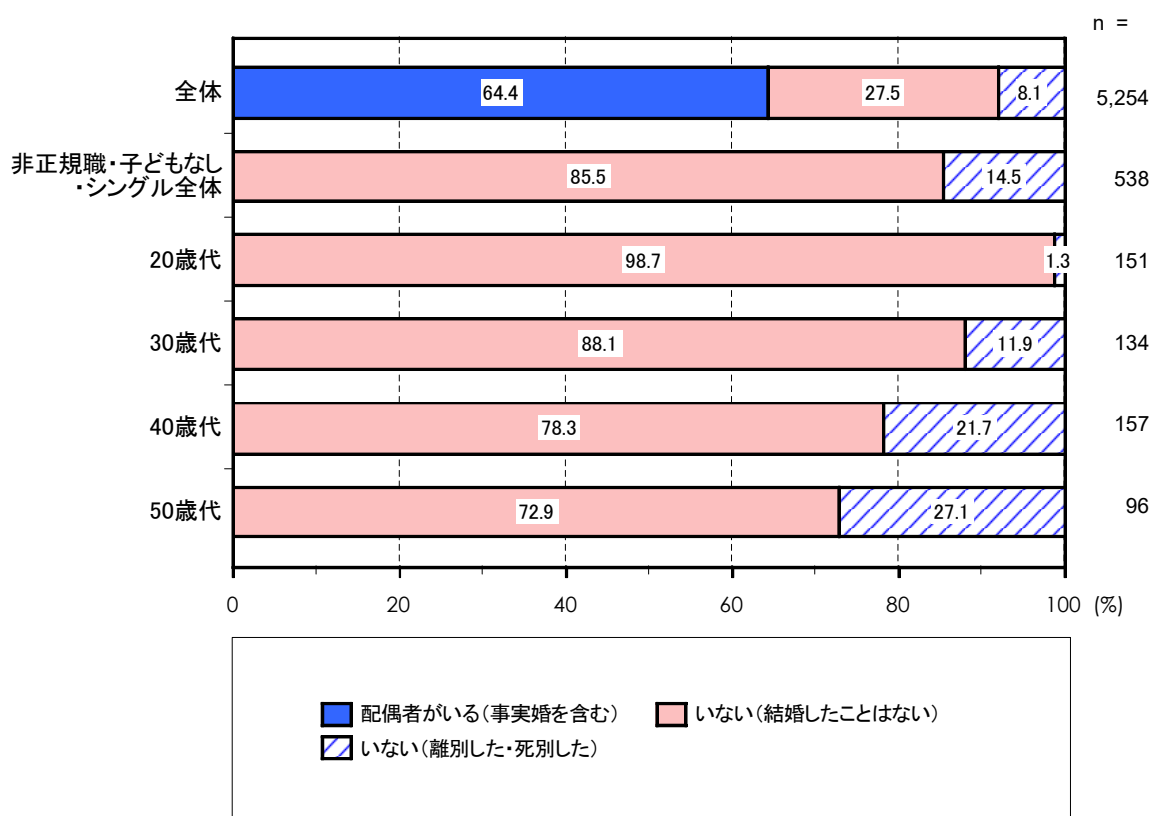


(2) 配偶者・パートナーの有無

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の配偶者・パートナーの有無は、「いない（離別・死別した）」が14.5%となっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「いない（離別・死別した）」は年齢が上がるにしたがって高くなり、50歳代では27.1%となっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「配偶者・パートナーの有無」



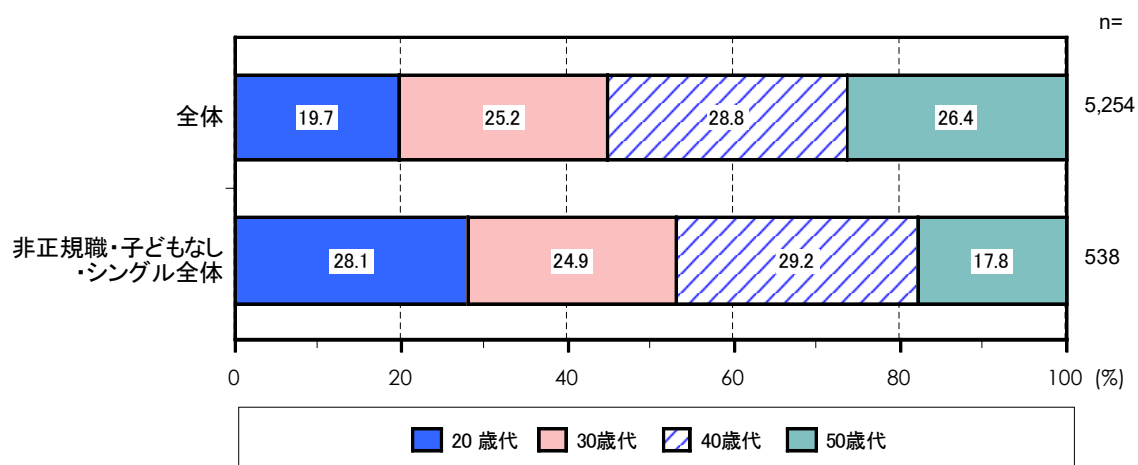
2. 非正規職・子どもを持たない・シングルの方の概要

(1) 年齢

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢は、「40 歳代」が 29.2%と最も高く、「20 歳代」28.1%、「30 歳代」25.2%、「50 歳代」17.8%である。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、20 歳代の比率が高く、50 歳代の比率が低くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングル「年齢」

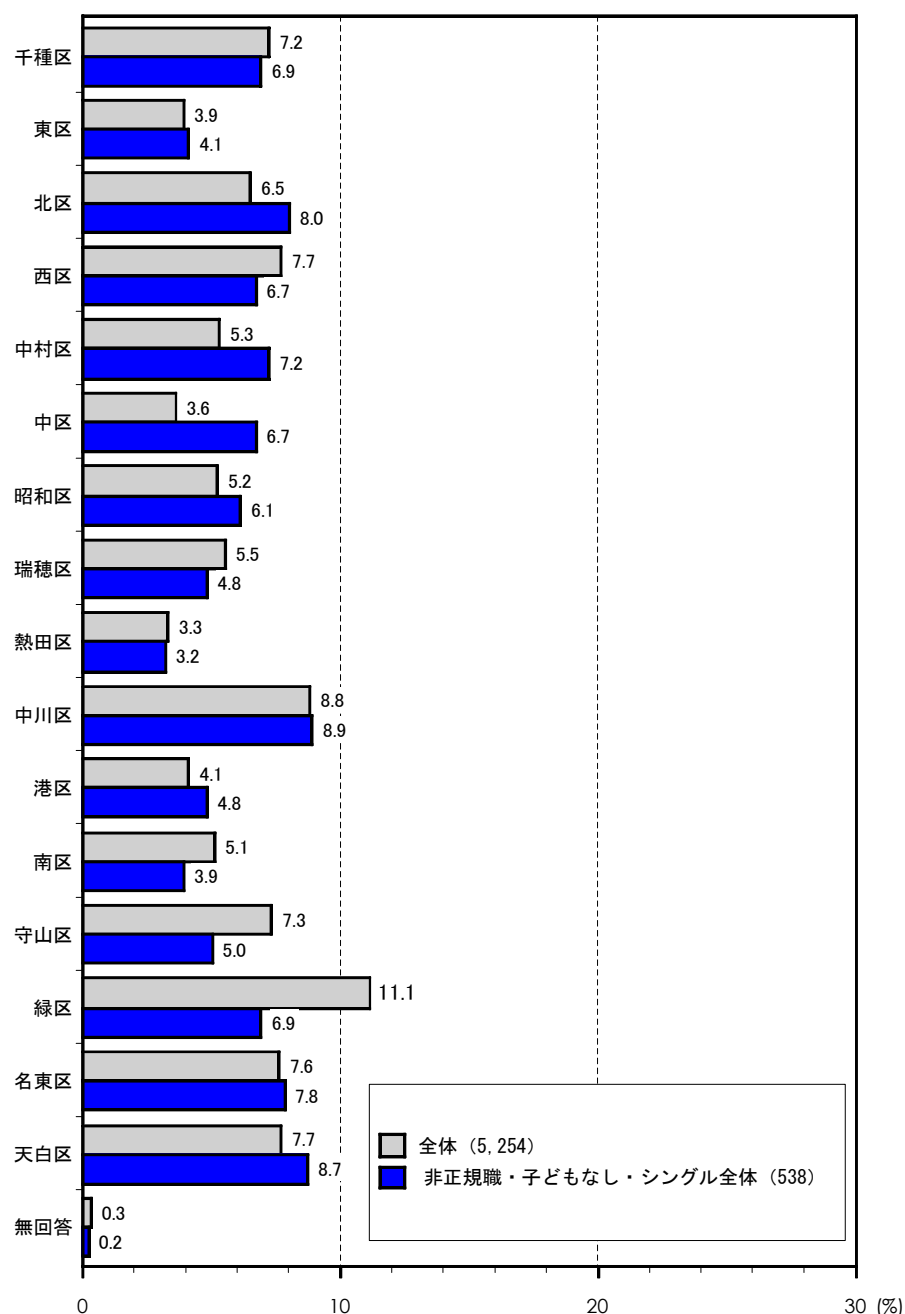


(2) 居住

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の居住区は、「中川区」「天白区」「北区」が高い。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、非正規職・子どもなし・シングル全体は「中区」「中村区」が高くなっている一方で、「緑区」「守山区」では全体に比べて低くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングル「居住区」



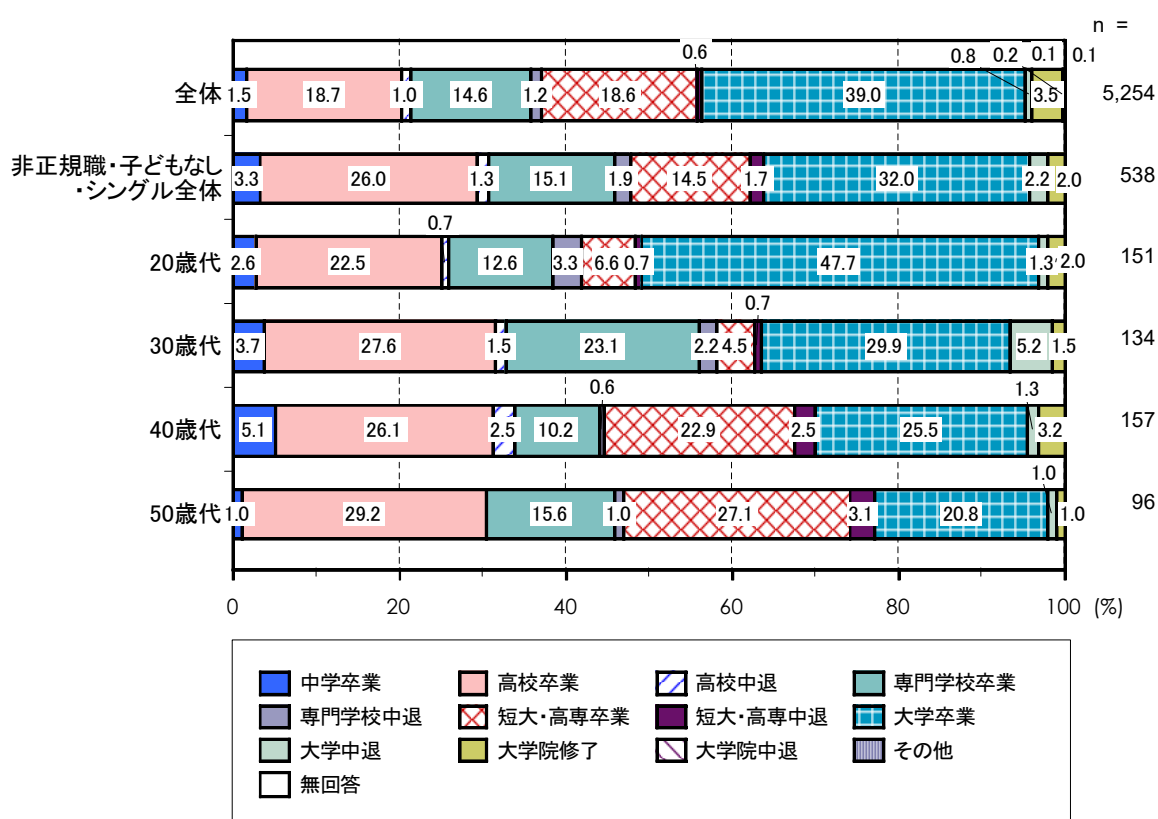
(3) 学歴

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の学歴は、「大学卒業」32.0%と最も高く、「高校卒業」26.0%、「専門学校卒業」15.1%、「短大・高専卒業」14.5%と続いている。

全体と比較すると、「大学卒業」の比率が低く、「高校卒業」が高くなっている。また、「短大・高専卒業」よりも「専門学校卒業」の比率が高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「大学卒業」は30歳代までは最も高いが、年齢が上がるにしたがって低くなっている。30歳代は「専門学校卒業」が他の年齢に比べて高く、40歳以上では、「短大・高専卒業」の比率が他の年代よりも高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「学歴」



(4) 家族構成

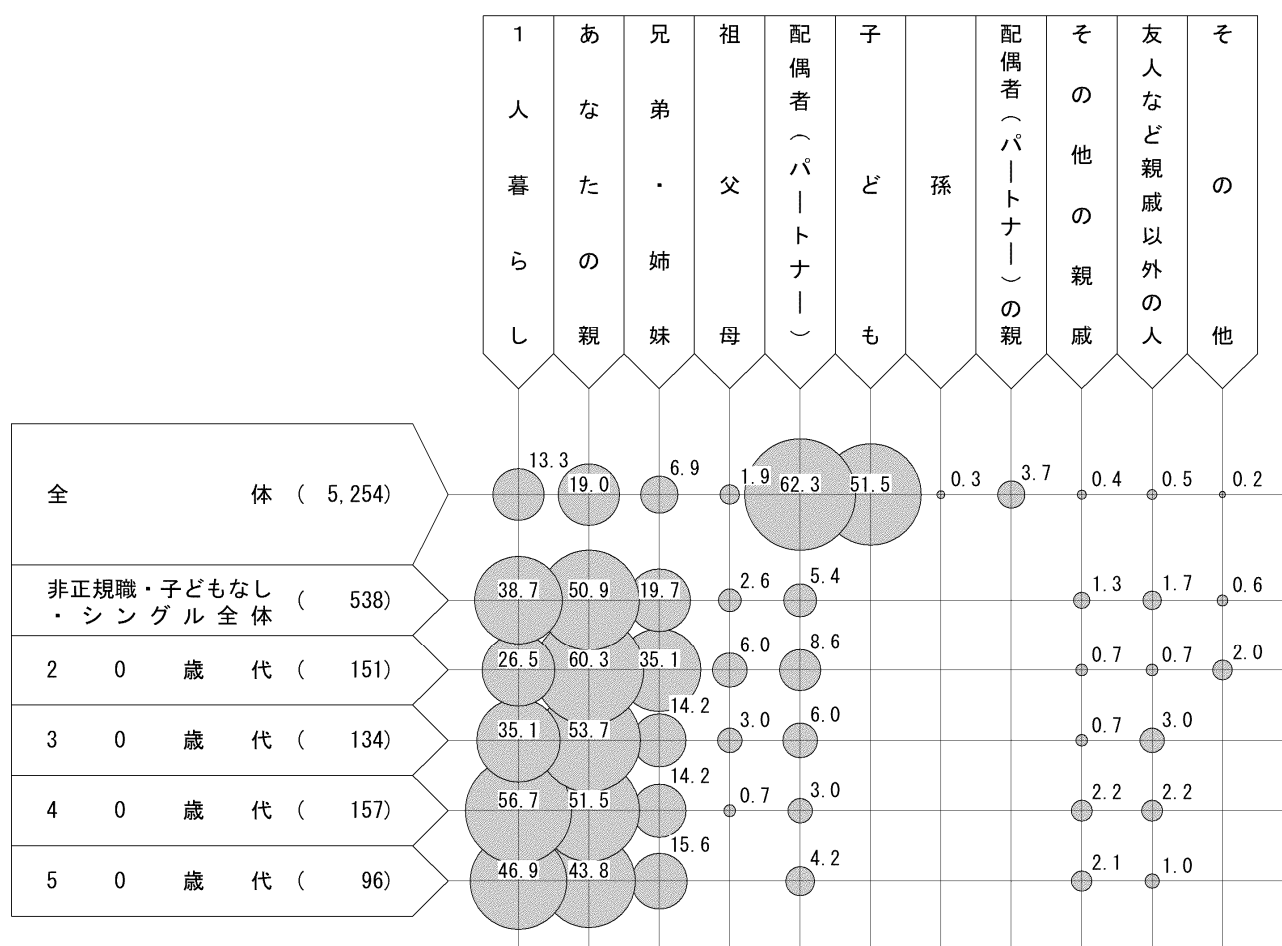
① 同居している人

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の家族構成は、「回答者の親」50.9%が最も高く、「1人暮らし」38.7%、「兄弟・姉妹」19.7%と続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「回答者の親」「兄弟・姉妹」「1人暮らし」がかなり高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代、30歳代は「回答者の親」が最も高く、40歳代、50歳代は「1人暮らし」が50%前後を占め、最も高くなっている。「回答者の親」は年齢が上がるにしたがって低くなるが、50歳代でも43.8%を占めて高い。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「同居している人」

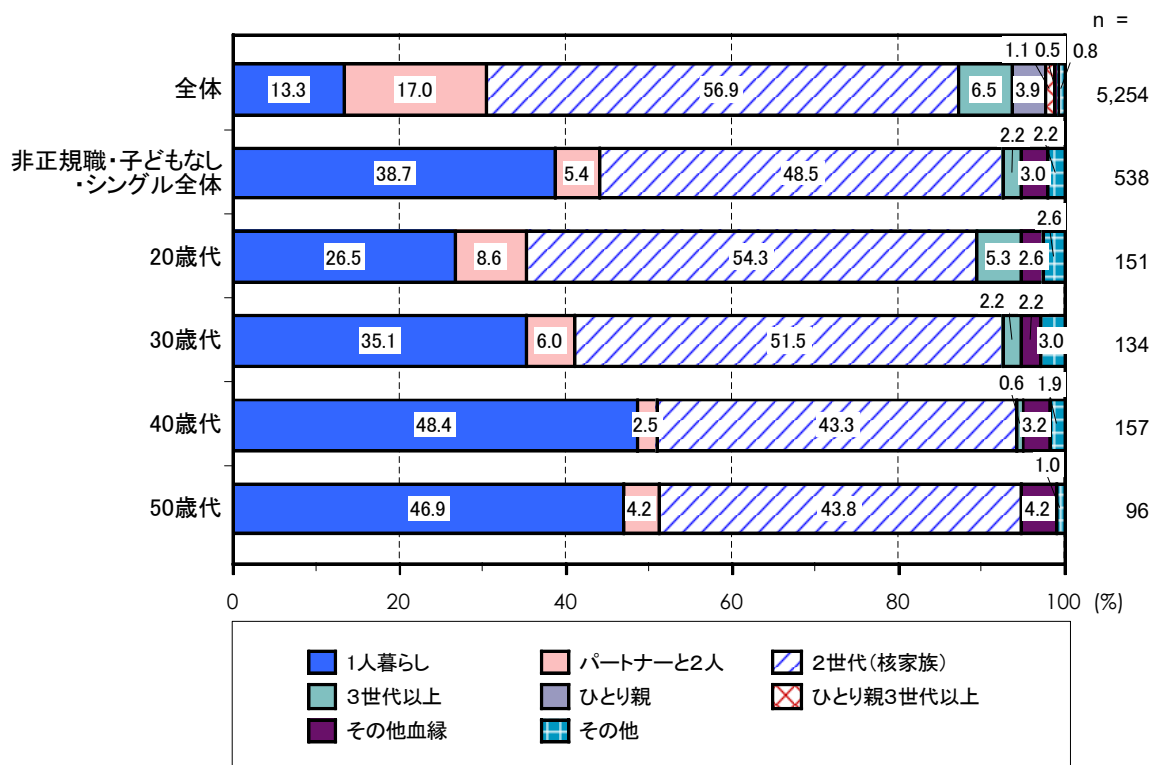


② 家族構成

非正規職・子どもなし・シングルの回答者について同居している人から家族構成をみると、「2世代（核家族）」が48.5%と最も高く、「1人暮らし」38.7%が続いている。事実婚以外のパートナーと暮らしている「パートナーと2人」も5.4%である。

年齢別にみると、30歳代までは「2世代（核家族）」が半数以上を占めるが、40歳代以上では「1人暮らし」の比率が最も高くなる。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「家族構成」



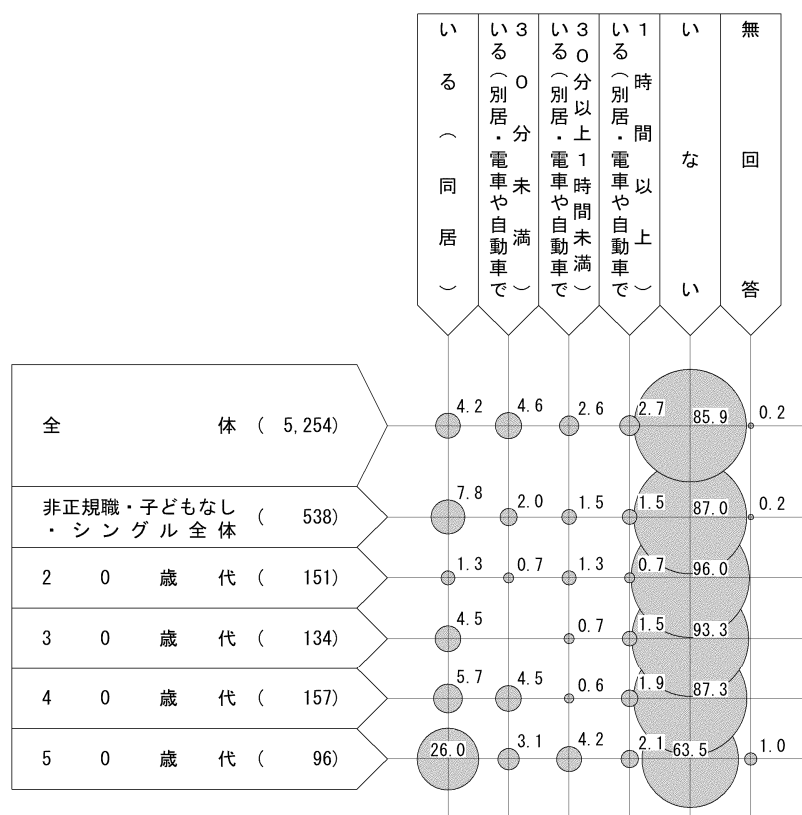
（５）介助・介護の状況

非正規職・子どもなし・シングルの回答者が介助・介護をしなければならない人の有無は「いない」が 87.0%であり、「いる」が 13.0%である。その内訳をみると、「いる（同居）」7.8%と高い。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「いる（同居）」はやや高く、別居はやや低い。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「いる（同居）」は50歳代では26.0とかなり高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「介助・介護の必要」



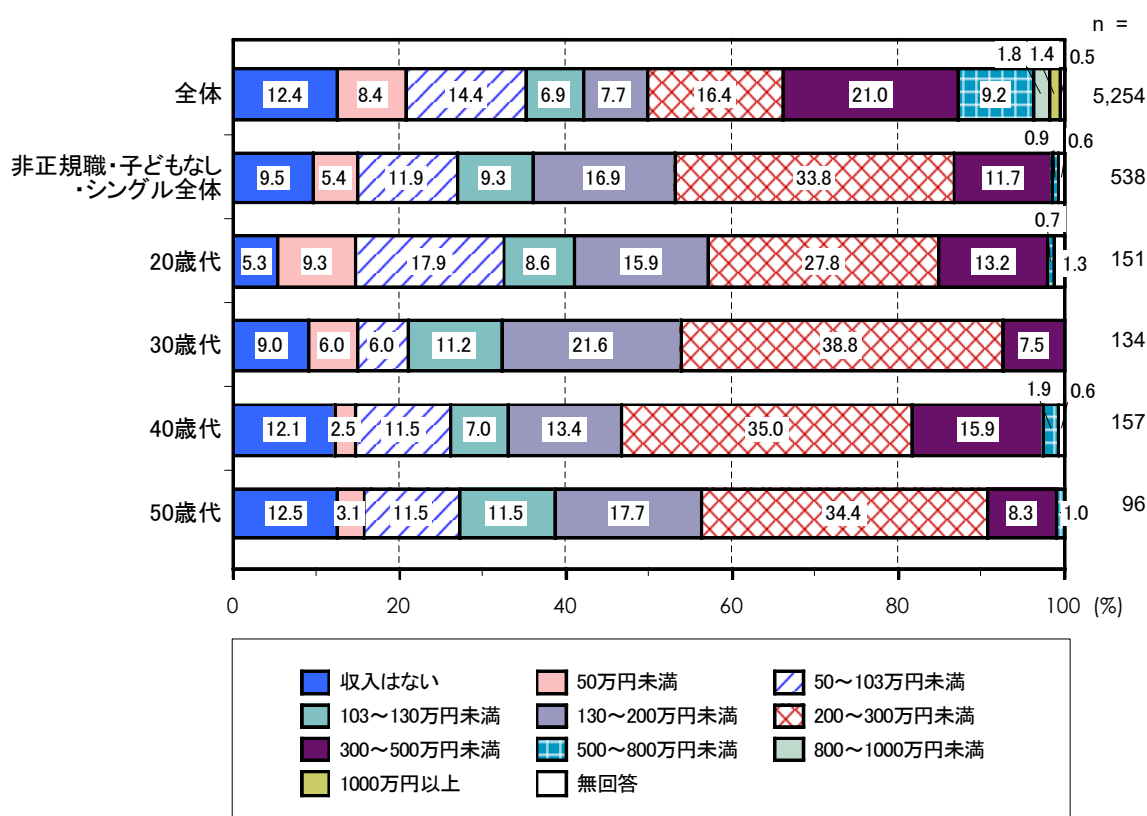
(6) 年収

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の令和2年の年収は、「200～300 万円未満」が33.8%と最も高く、「130～200 万円未満」16.9%、「50～100 万円未満」11.9%、「300～500 万円未満」11.7%と続いている。300 万円までが86%を占め、800 万円以上は少ない。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「収入はない」130 万円未満の扶養の範囲内の比率は全体に比べて低いものの 35.1%を占めている。また、「130～200 万円未満」「200～300 万円未満」が半数を占め、全体に比べてかなり高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、各年代とも「200～300 万円未満」が最も高くなっている。20 歳代は「50～100 万円未満」が高く、収入はないと 130 万円までの扶養の範囲内の比率が 40%を超える。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「年収」



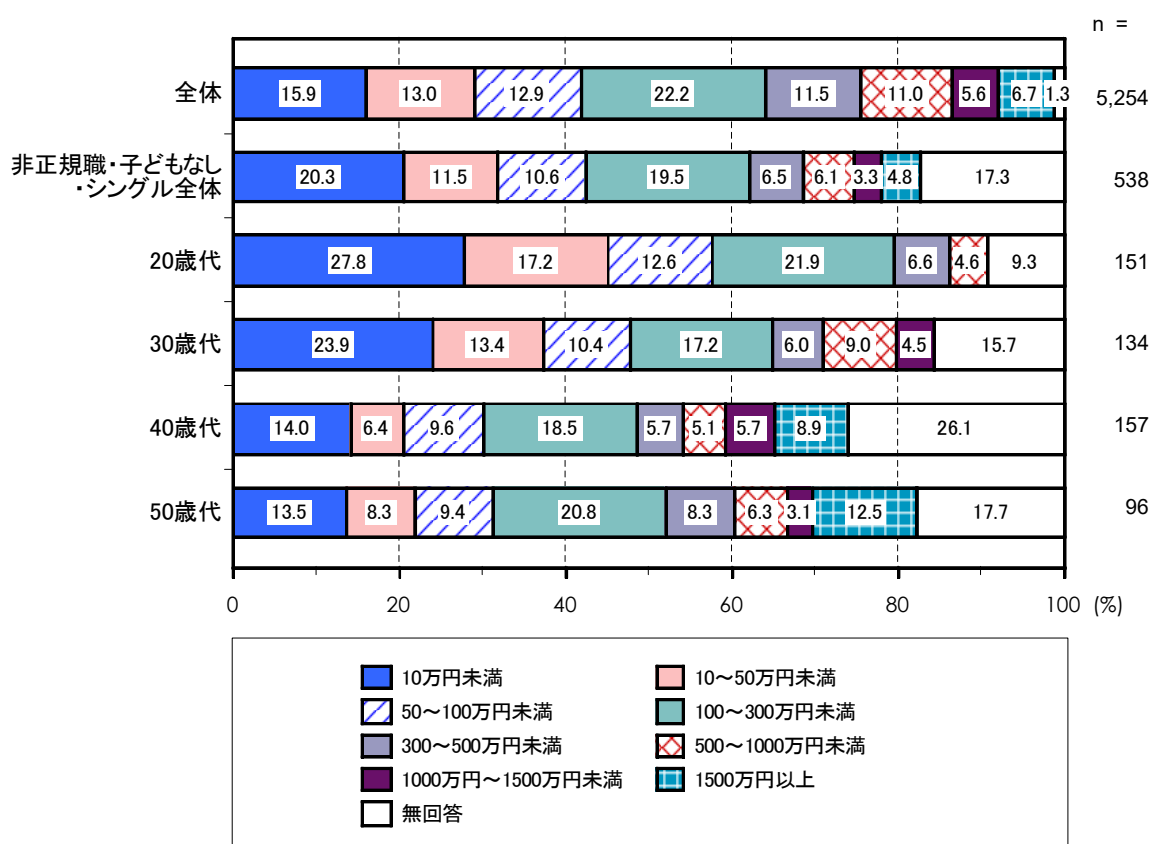
(7) 貯蓄

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の貯蓄額は、「10 万円未満」が 20.3%と最も高く、「100～300 万円未満」19.5%、「10～50 万円未満」11.5%と続いている。50 万円未満が 32%と貯蓄額の低い人の割合が高い。また、無回答 17.3%と高い。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「10 万円未満」がやや高く、「300～500 万円未満」「500～1000 万円未満」がやや低くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20 歳代、30 歳代は「10 万円未満」「10～50 万円未満」が他の年齢に比べて高い。40 歳代、50 歳代は、無回答の比率が高くなることと、「1500 万円以上」の比率が高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「貯蓄額」



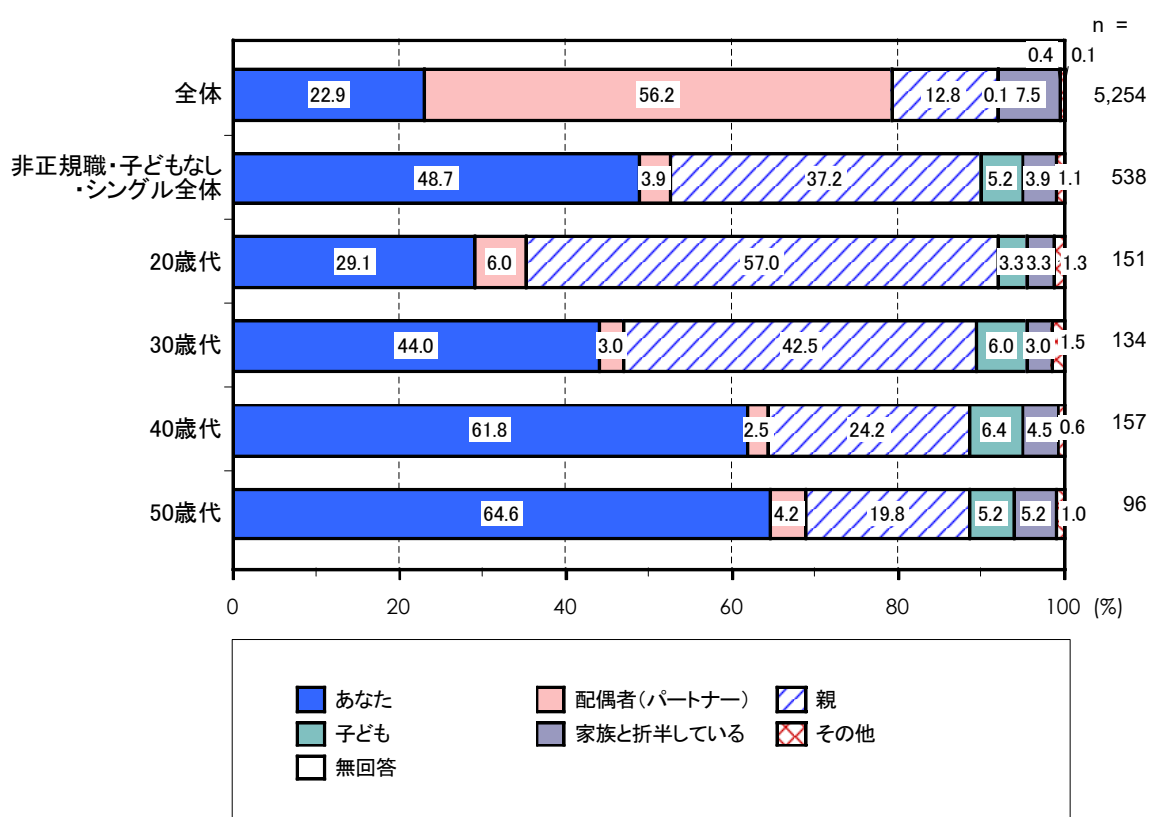
(8) 家計を支える主たる人

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の家計を支える主たる人は、「回答者自身」が48.7%と最も高く、「親」27.2%となっている。回答者自身が半数程度であるが、年収も300万円未満の人が多くことから、経済的な余裕が少ないことが推察される。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「回答者自身」「親」ともにかなり高い。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「親」は20歳代では半数を超え、年齢が上がるにしたがって低くなるが、50歳代でも19.8%を占めている。「回答者自身」は年齢が上がるにしたがって高くなり、40歳代、50歳代では60%を超える。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「家計を支える主たる人」



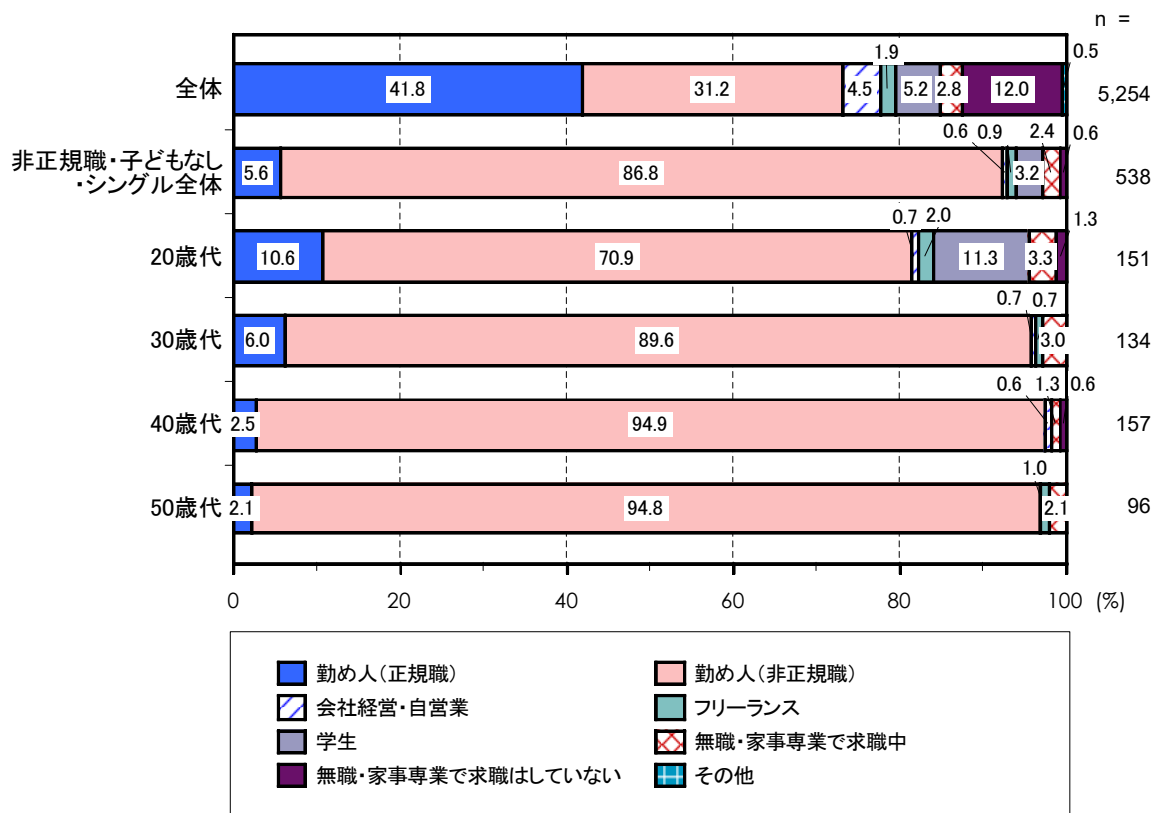
3. 新型コロナウイルス感染症拡大前後の仕事の状況について

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態は、「勤め人（非正規職等）」が86.8%と最も高く、「勤め人（正規社員・職員）」が5.6%、「学生」3.2%となっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は「学生」11.3%、「勤め人（正規社員・職員）」10.6%が高くなっている。40歳代、50歳代は90%以上が「勤め人（非正規職等）」となっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の状態」



（２）新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の就労者の仕事の内容

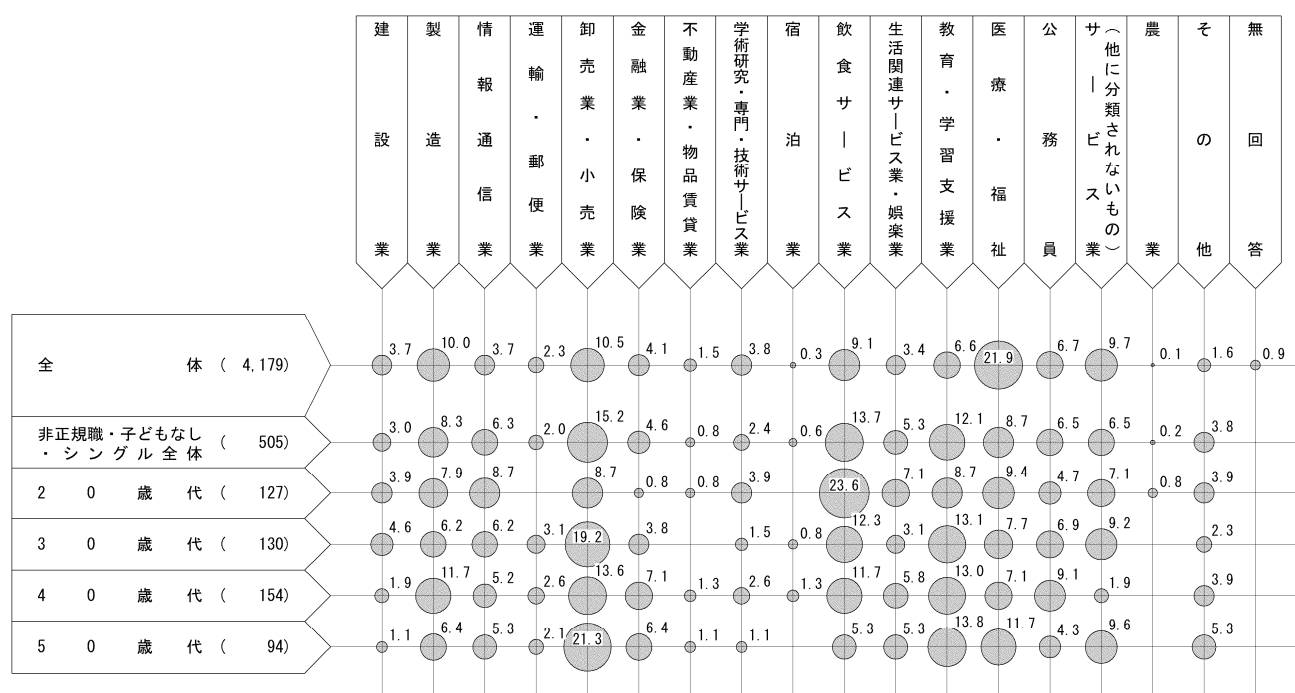
① 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の業種

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の業種は、「卸売業・小売業」が15.2%と最も高く、「飲食サービス業」13.7%、「教育・学習支援業」12.1%と続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「卸売業・小売業」「飲食サービス業」「教育・学習支援業」が高く、「医療・福祉」が低くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は「飲食サービス業」、30歳代以上では「卸売業・小売業」が最も高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大前の仕事の業種」



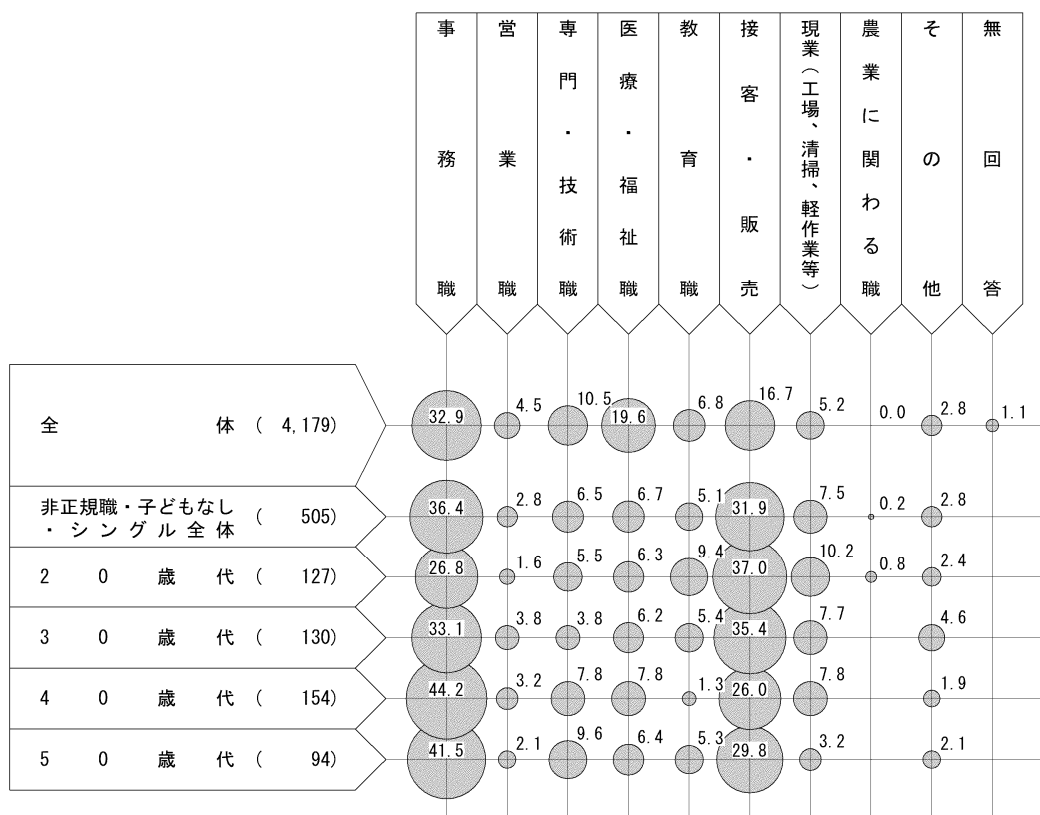
② 新型コロナウイルス感染症拡大以前の仕事の職種

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の新型コロナウイルス感染症拡大前の仕事の職種は、「事務職」36.4%が最も高く、「接客・販売」31.9%が高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「接客・販売」がかなり高く、「医療・福祉職」が低くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は「事務職」が他の年齢に比べてかなり低くなっている。40歳代、50歳代は「事務職」「専門・技術職」が他の年齢に比べて高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大前の仕事の職種」



(3) 新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化

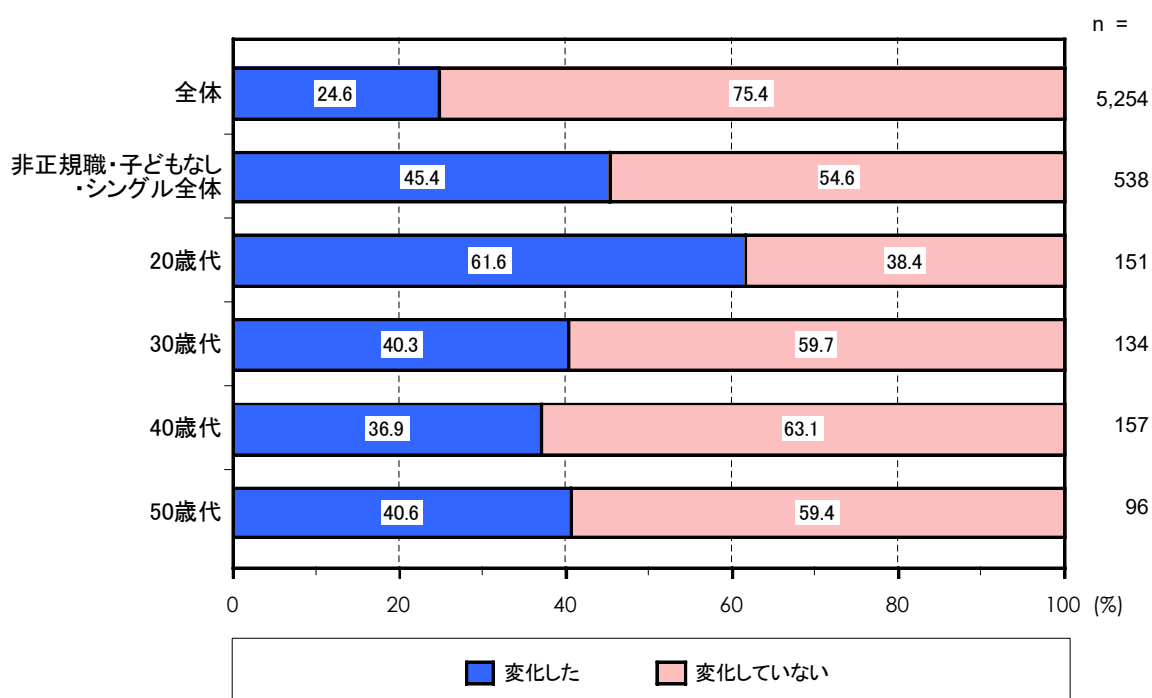
非正規職・子どもなし・シングルの回答者の新型コロナウイルス感染症拡大前から仕事の状態が変化したかどうかは、「変化した」が45.4%を占めている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「変化した」が20ポイント以上高く、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けていることがわかる。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は新型コロナウイルス感染症拡大以前は学生だった人が11.3%いたこともあり、「変化した」は61.6%と半数以上を占め、30歳代以上では40%前後となっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別

「新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化」



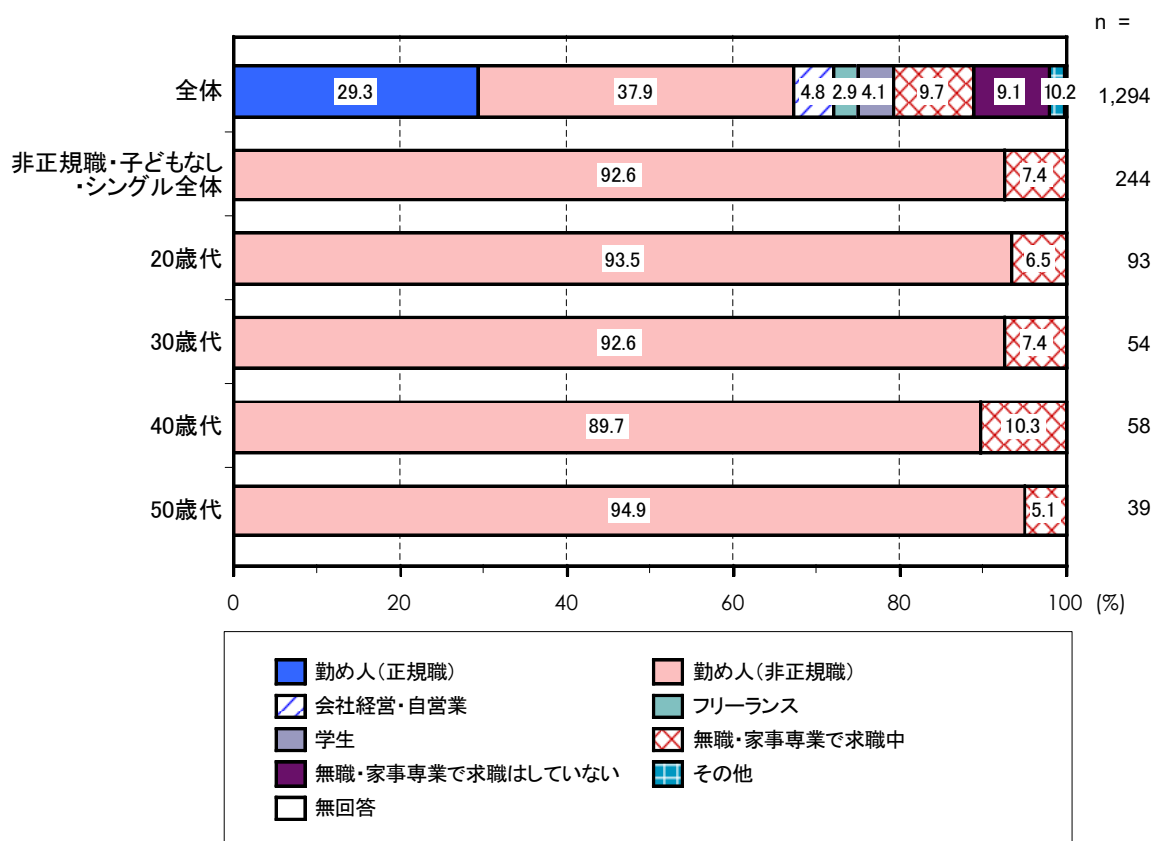
(4) 新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した人の仕事の状態

前問で、新型コロナウイルス感染症拡大以前から仕事の状態が変化したと回答した、非正規職・子どもなし・シングルの回答者の 244 人に変化した後の仕事の状態を尋ねたところ、「勤め人（非正規職等）」92.6%、「無職・家事専業で求職中」が7.4%となっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみても、年齢による大きな違いはない。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別

「新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した人の仕事の状態」



(5) 新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した人のうち就労者の仕事の内容

① 新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した後の仕事の業種

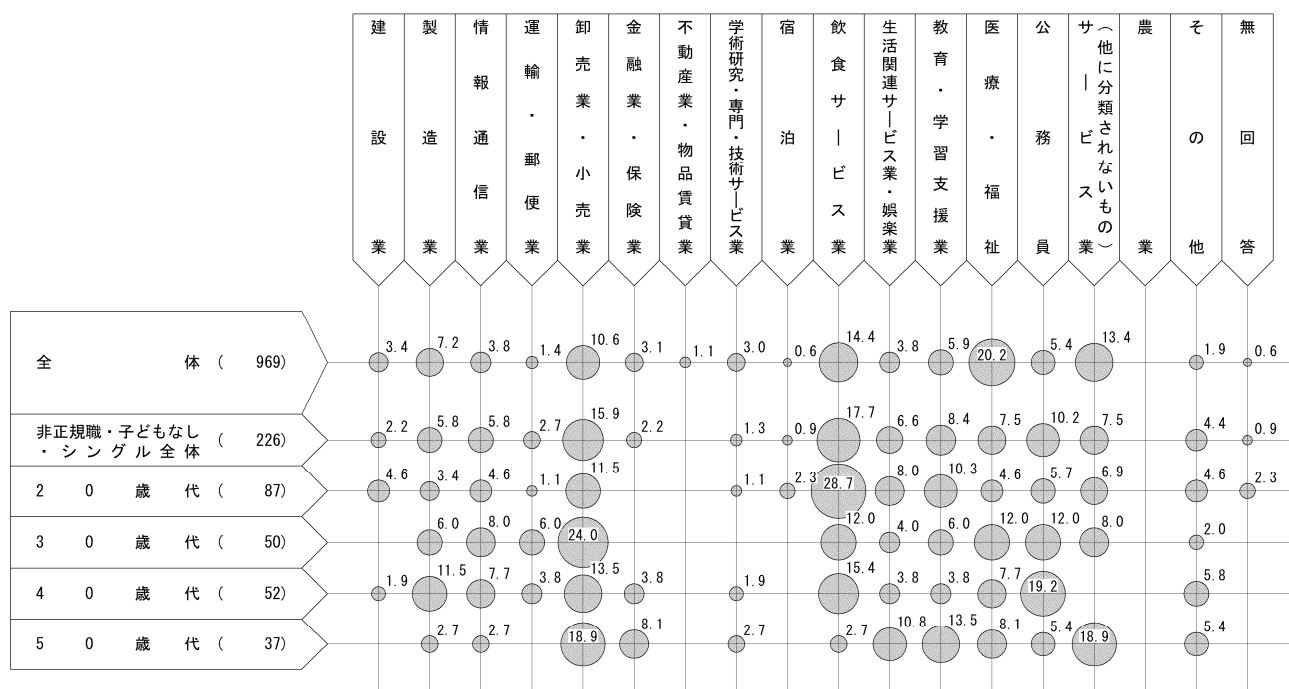
前問で、新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の状態が「勤め人（非正規職）」と回答した 226 人に、変化した後の仕事の業種を尋ねたところ、「飲食サービス業」が 17.7%と最も高く、「卸売業・小売業」15.9%、「公務員」10.2%と続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「卸売業・小売業」「公務員」が高く、「医療・福祉」「サービス業（他に分類されないもの）」がかなり低くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20 歳代は「飲食サービス業」、30 歳代は「卸売業・小売業」、40 歳代は「公務員」、50 歳代は「サービス業（他に分類されないもの）」が最も高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別

「新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した後の仕事の業種」



② 新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した後の仕事の職種

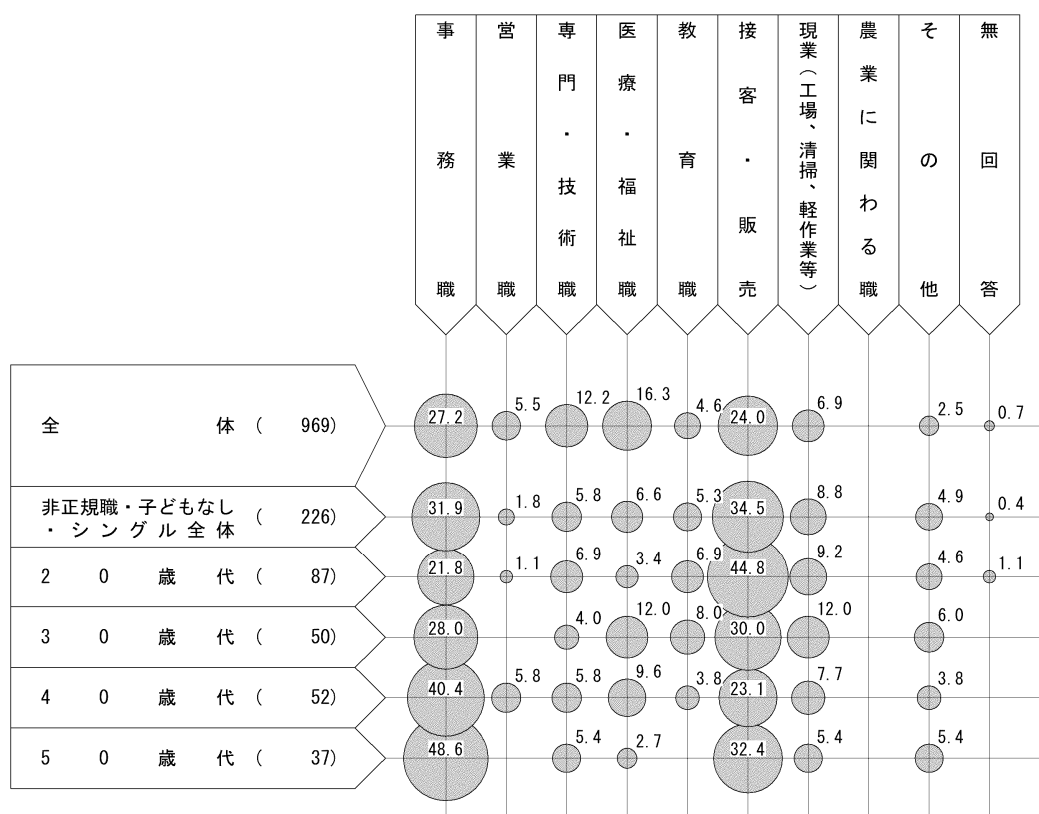
非正規職・子どもなし・シングルの回答者の新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の職種は、「接客・販売」が「接客・販売」34.5%と最も高く、「事務職」31.9%と続いている。コロナ後の業種・職種も「飲食サービス業」「卸売業・小売業」が高いことから、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた、「接客・販売」の業種での変化であることがわかる。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「接客・販売」が10ポイント以上高く、「事務職」も高くなっている。一方「医療・福祉職」「専門・技術職」の比率が低い。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は「接客・販売」が44.8%と最も高く、他の年齢と比べてもかなり高くなっている。「事務職」は年齢が上がるにしたがって高くなり、50歳代では48.6%とほぼ半数を占めている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別

「新型コロナウイルス感染症拡大時期に変化した後の仕事の職種」

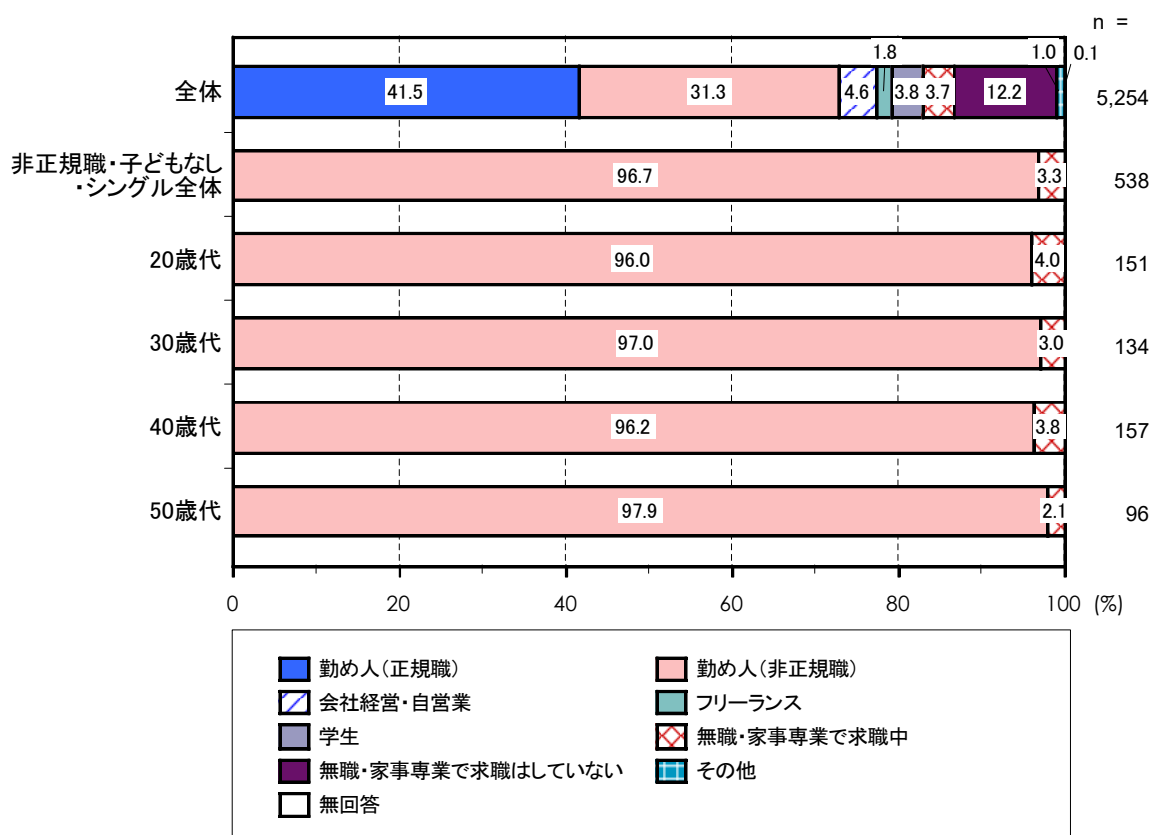


(6) 現在の仕事の状態

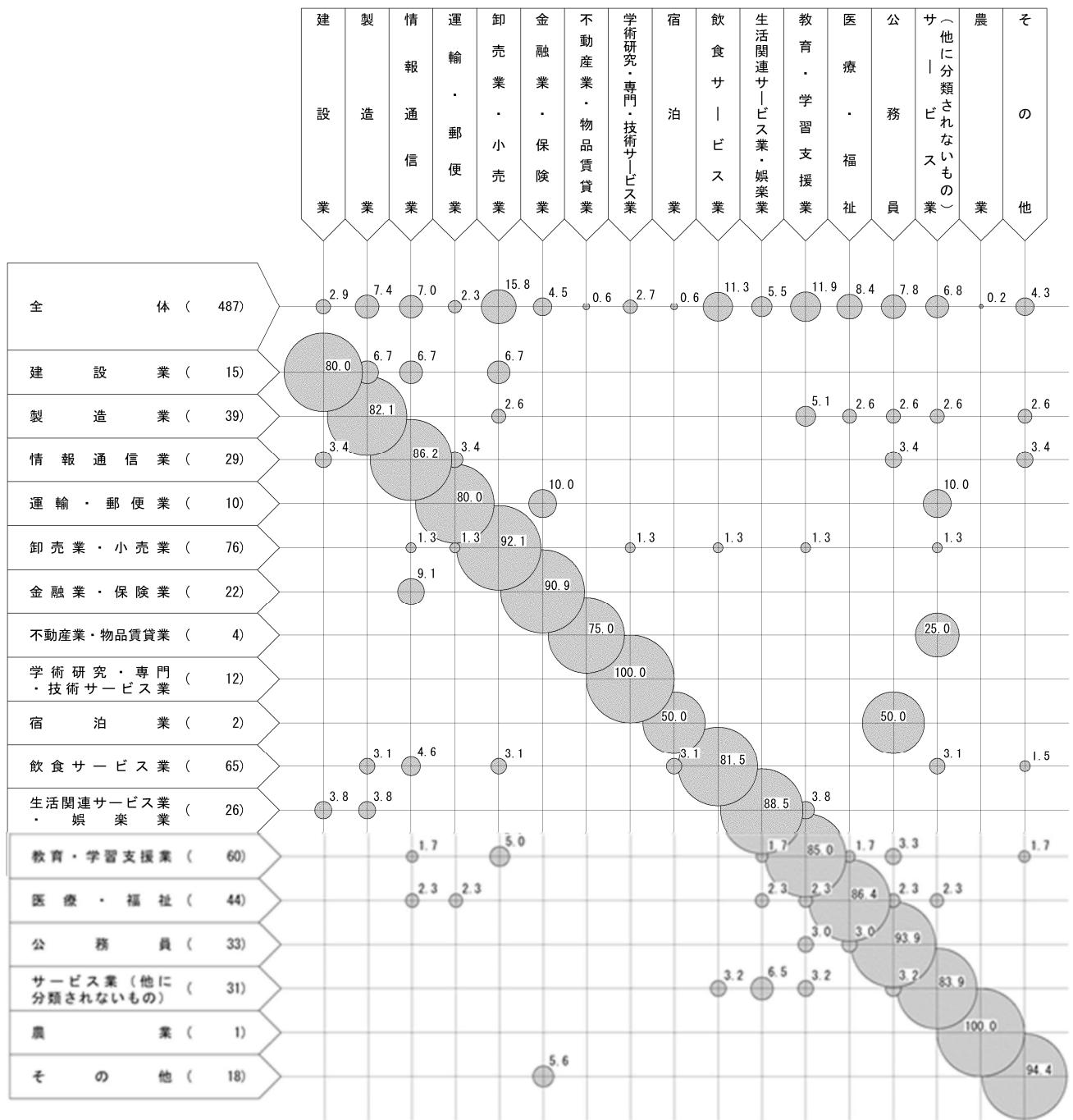
新型コロナウイルス感染症拡大以前から仕事の状態が変化していない人も含めた全体の現在の仕事の状態は、20歳代は、学生から社会人へと変化する時期でもあり、「学生」から、20歳代、30歳代では「勤め人（正規社員・職員）」から「勤め人（非正規職）」へと移行している比率がやや高い。

仕事の業種、職種をみても、新型コロナウイルス感染症拡大以前の業種、職種から大きな違いはない。新型コロナウイルス感染症拡大後に仕事の状態が変化している人がいても、全体の比率としては大きな傾向の差がない状況である。

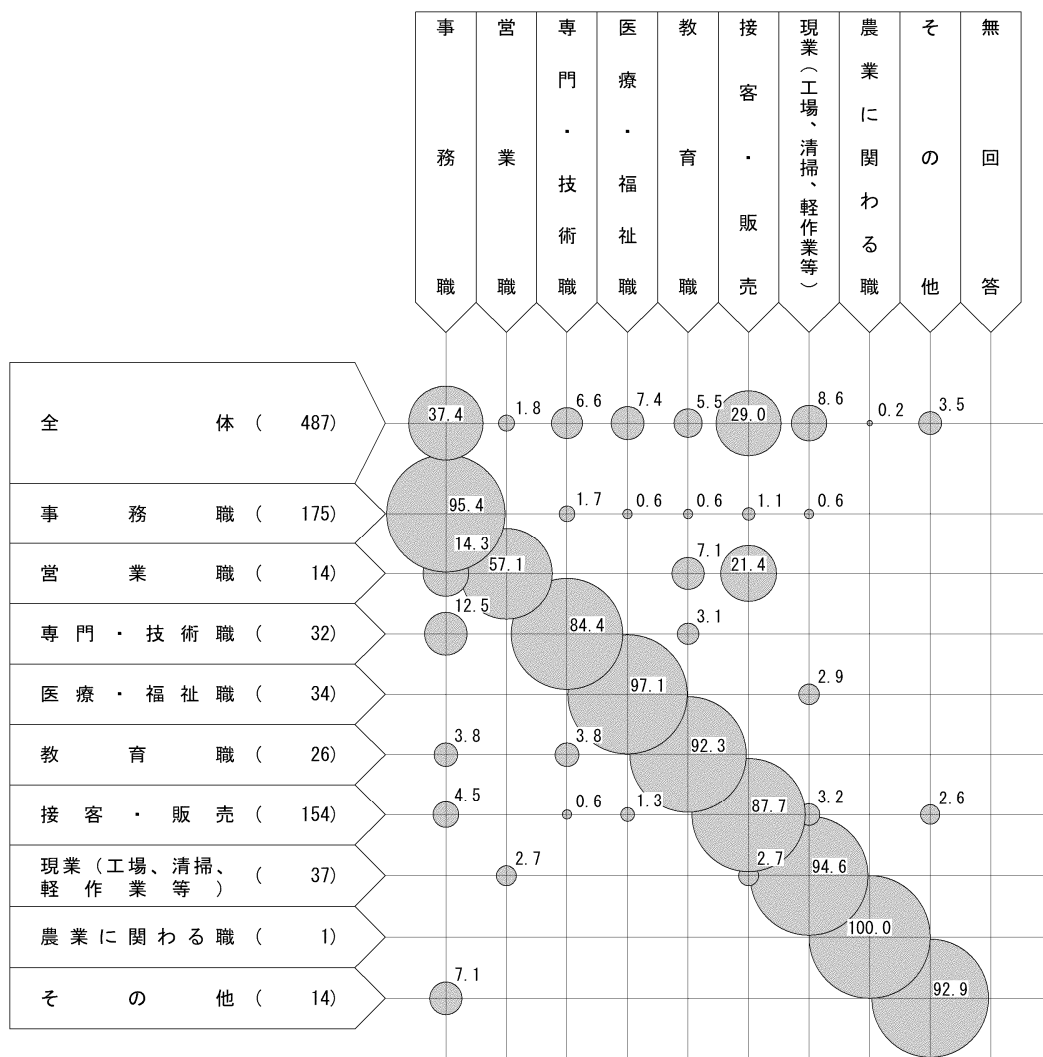
図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「現在の仕事の職種」



図表 非正規職・子どもなし・シングル「新型コロナウイルス感染症拡大前後の仕事の業種」



図表 非正規職・子どもなし・シングル「新型コロナウイルス感染症拡大前後の仕事の業種の変化」



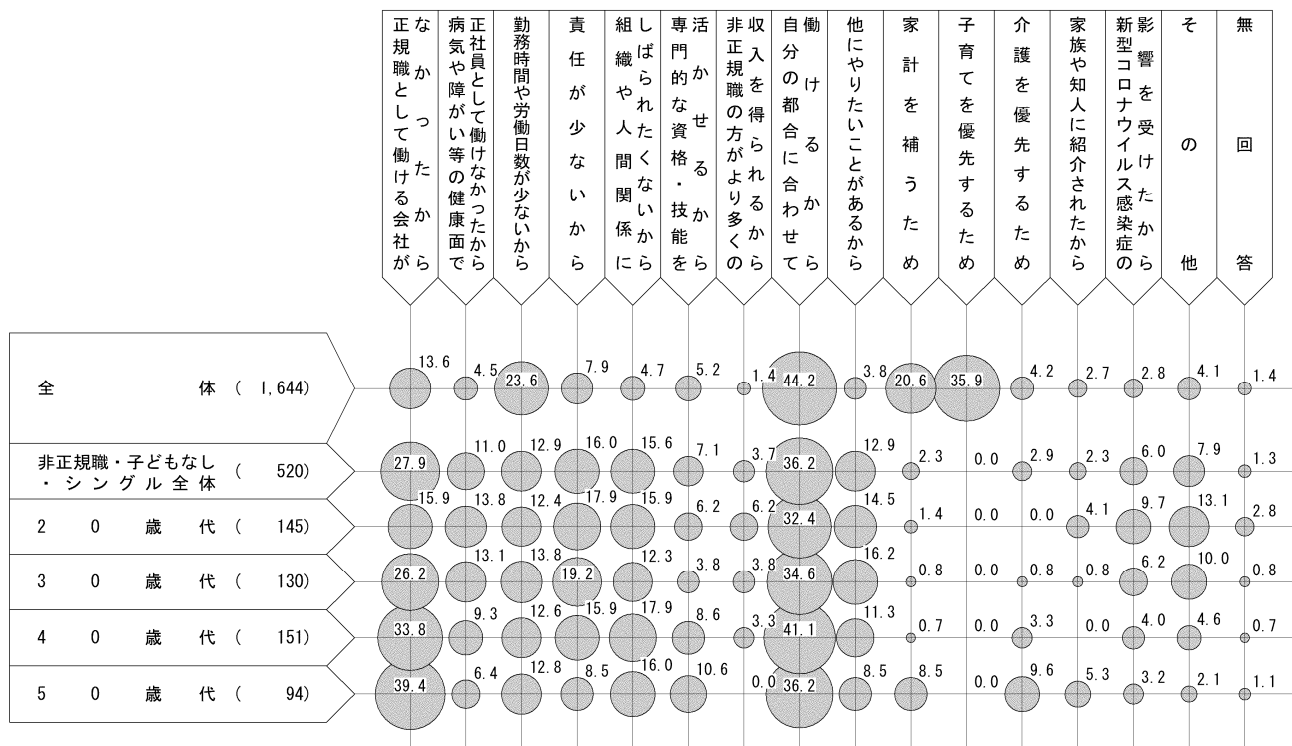
(7) 非正規職になった理由

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の非正規職になった理由は、「自分の都合に合わせて働けるから」36.2%と最も高く、「正規職として働ける会社がなかったから」27.9%、「責任が少ないから」16.0%、「組織や人間関係に縛られたくないから」15.6%が続いている。「自分の都合に合わせて働けるから」という積極的に非正規職を選択した理由とともに、「正規職として働ける会社がなかったから」も高くなっており、仕方なく非正規職を選んでいる人も多いことがわかる。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「正規職として働ける会社がないから」「責任が少ないから」「組織や人間関係に縛られたくないから」「他にやりたいことがあるから」が全体よりも高く、「自分の都合に合わせて働けるから」「勤務時間や労働日数が少ないから」「家計を補うため」「子育てを優先するため」は全体に比べてかなり低くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20 歳代から 40 歳代は「自分の都合に合わせて働けるから」、50 歳代は「正規職として働ける会社がなかったから」が最も高くなっている。「正規職として働ける会社がなかったから」は若い世代ほど低く、年齢が上がるにしたがって高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「非正規職になった理由」



（８）新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化

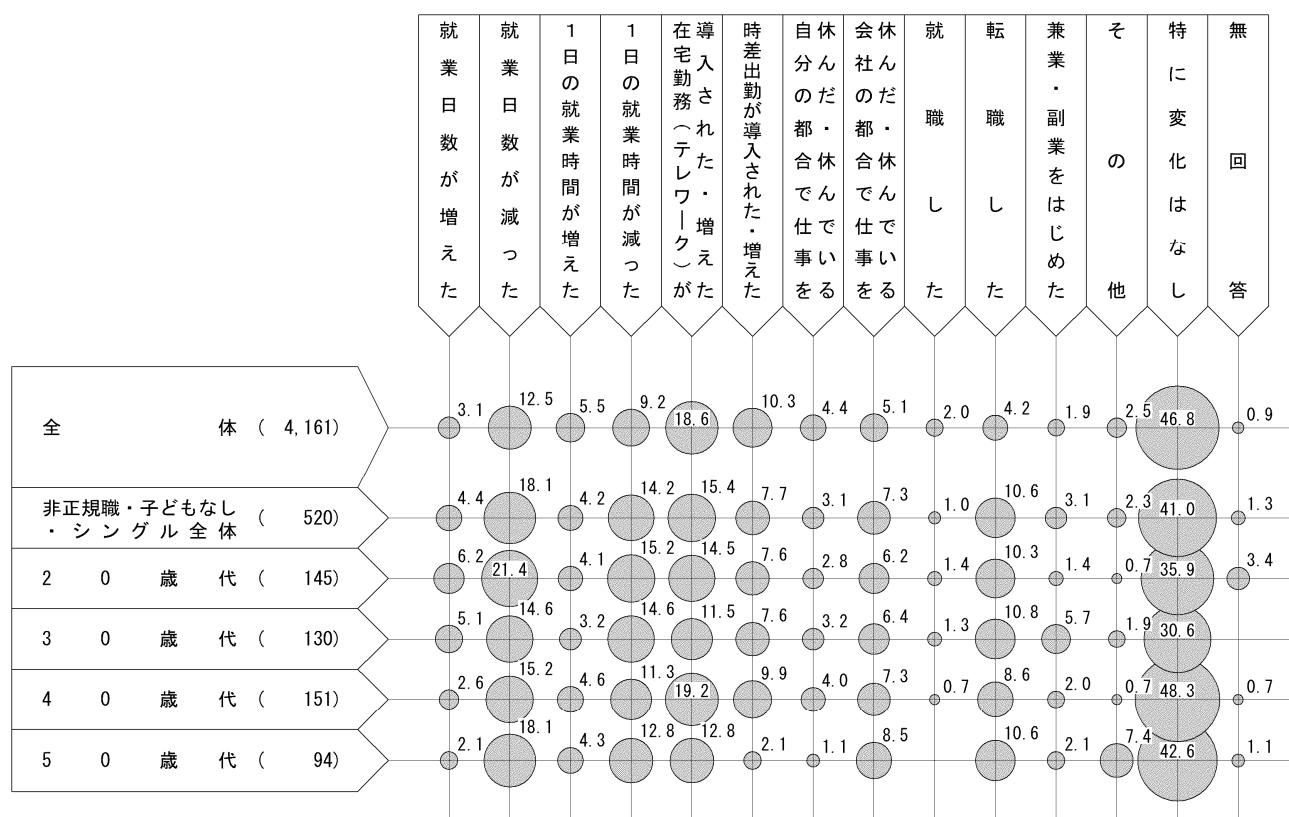
非正規職・子どもなし・シングルの回答者のうち、仕事をしている人に新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化について尋ねたところ、「特に変化なし」が41.0%と最も高い。新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の影響を受けた人は58.2%を占める。その内容は、「就業日数が減った」18.1%、「在宅勤務（テレワーク）が導入された」15.4%、「1日の就業時間が減った」14.2%と続いている。

働き方の変化内容は、「就業日数が減った」「1日の就業時間が減った」が高く、非正規職にとって収入に直結する変化が挙げられている。飲食サービス業に従事する人が多いことから、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けていることがわかる。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「就業日数が減った」「1日の就業時間が減った」「転職した」が全体よりも高くなっている。就業日数・時間といった調整の影響を受けている比率が高いことがわかる。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は「就業日数が減った」、30歳代は「就業日数が減った」「1日の就業時間が減った」、40歳代は「在宅勤務（テレワーク）が導入された」、50歳代は「就業日数が減った」が高くなっている。「特に変化はなし」がすべての年齢で最も高いが、40歳代、50歳代で高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化



（９）非正規職を継続している理由

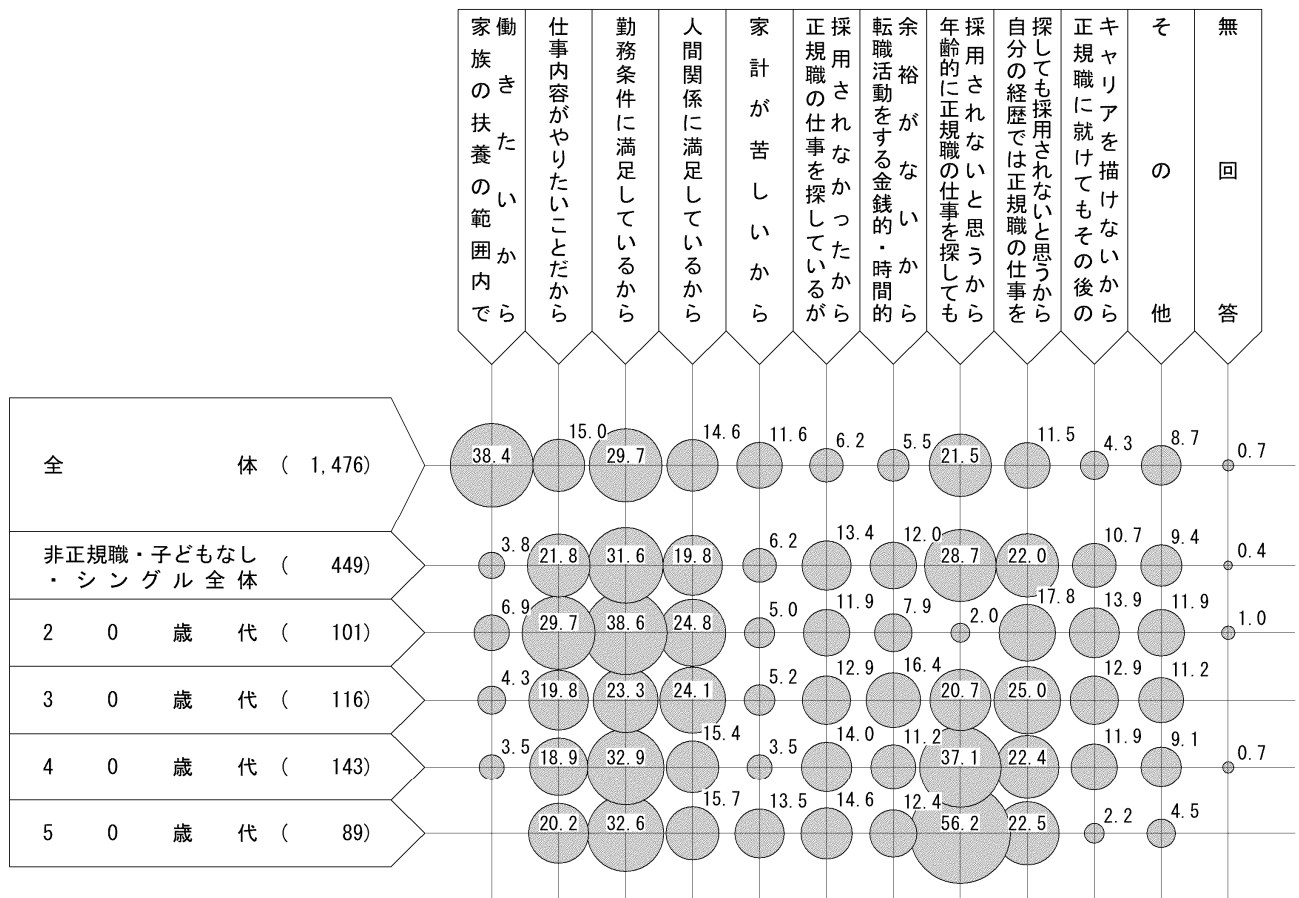
非正規職・子どもなし・シングルの回答者のうち、非正規職を継続している人にその理由を尋ねたところ、「勤務条件に満足しているから」31.6%が最も高く、「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」28.7%、「自分の経歴では正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」22.0%、「仕事内容がやりたいことだから」21.8%と続いている。

「勤務条件に満足しているから」「仕事内容がやりたいことだから」と積極的に非正規職を選択している理由が高い一方で、「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」「自分の経歴では正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」といった正規職に就きたいが、あきらめの意見も高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」「自分の経歴では正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」「仕事内容がやりたいことだから」「人間関係に満足しているから」「正規職の仕事を探しているが採用されなかったから」「正規職に就けてもその後のキャリアを描けないから」が全体よりも高くなっている。一方「家族の扶養の範囲内で働きたいから」「家計が苦しいから」は全体よりも低くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代では「勤務条件に満足しているから」最も高く、「仕事内容がやりたいことだから」が他の年齢に比べて高い。30歳代は「自分の経歴では正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」、40歳代、50歳代が「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」が最も高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「非正規職を継続している理由」



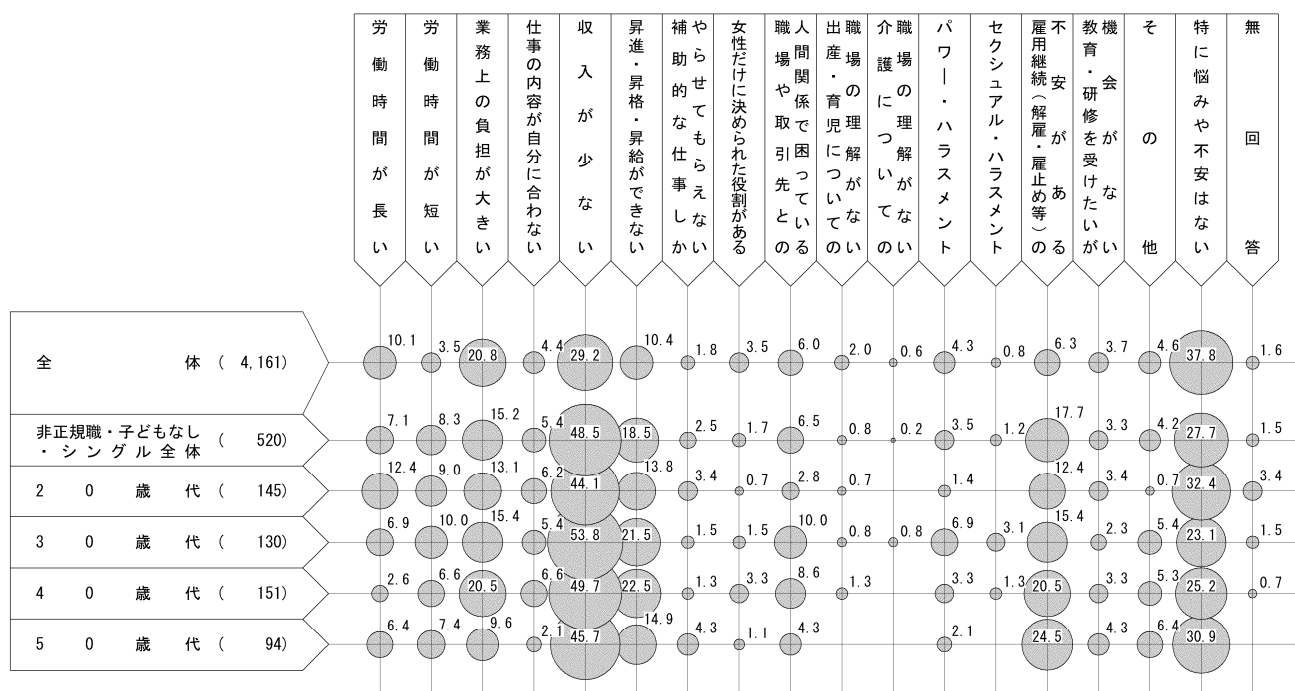
(10) 仕事に関して困っていること

非正規職・子どもなし・シングルの回答者のうち、仕事をしている人に仕事で困っていることを尋ねたところ、「収入が少ない」が48.5%と最も高く、「昇進・昇格・昇給できない」18.5%、「雇用継続の不安がある」17.7%が続いている。「昇進・昇格・昇給できない」「雇用継続の不安がある」といった非正規職ならではの悩みが高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「収入が少ない」「昇進・昇格・昇給できない」「雇用継続の不安がある」は全体よりもかなり高い。一方「業務上の負担が大きい」「特に悩みや不安はない」が全体よりも低くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「収入が少ない」が各年齢とも最も高く、特に30歳代では半数を超えている。「雇用継続の不安がある」は年齢が上がるにつれて高くなる。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「仕事で困っていること」



4. 新型コロナウイルス感染症拡大による生活や健康への影響

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの

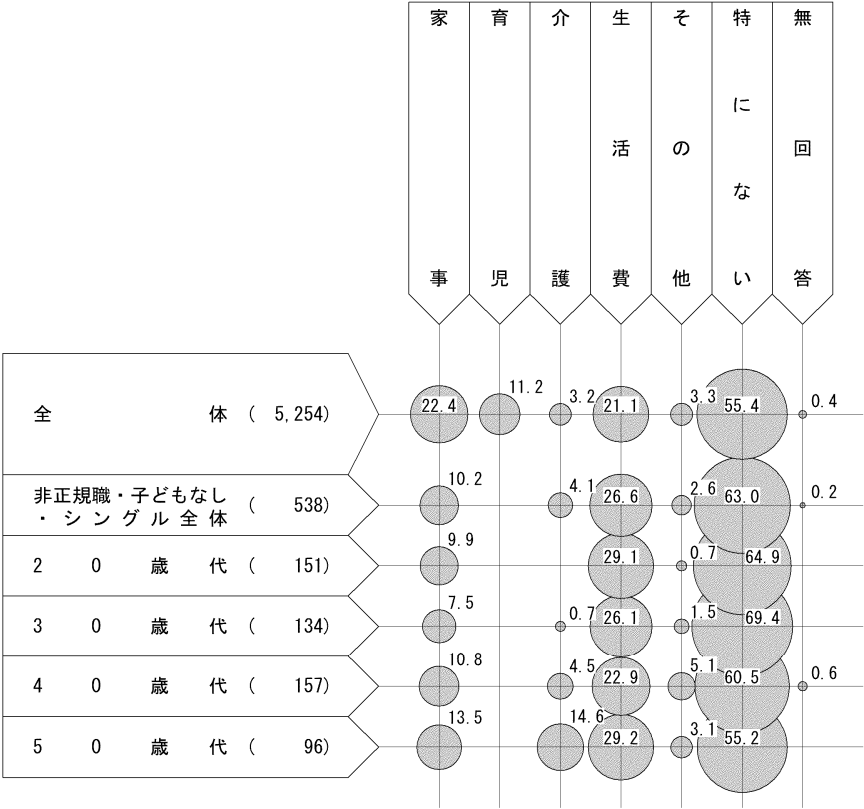
非正規職・子どもなし・シングルの回答者が新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたものを尋ねたところ、「特にない」が 63.0%と最も高く、続いて、「生活費」26.6%が高くなっている。

仕事や収入減少の影響で生活費を不安視する声は高いが、一方で、親との同居や 1 人暮らしの比率が高いことから、生活面での変化は少なかったことが推察される。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「生活費」が高く、「家事」「育児」は低くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「介護」は 50 歳代がかなり高くなっている。30 歳代は「特にない」が他の年齢よりも高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大で負担が増えたもの」



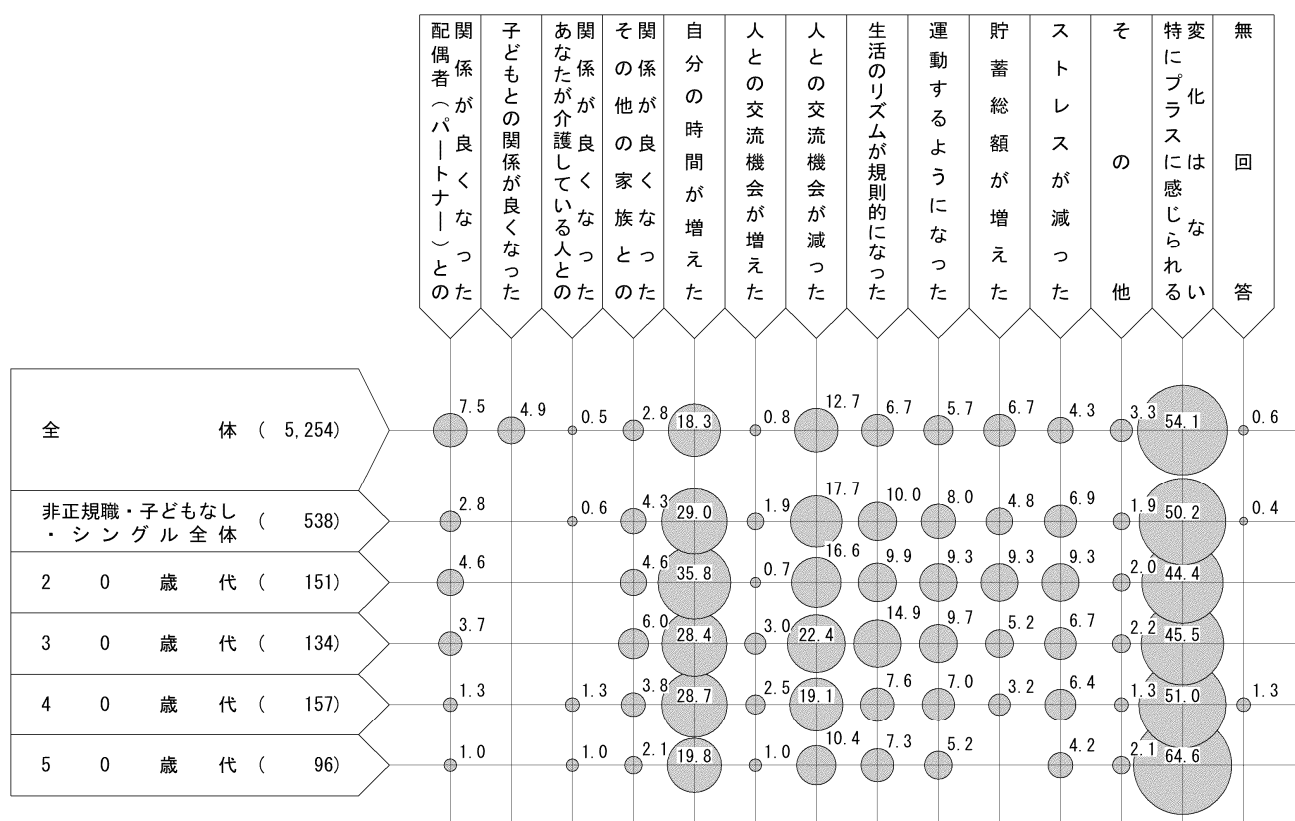
（２）新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化

非正規職・子どもなし・シングルの回答者が新型コロナウイルス感染症拡大でプラスと感じる変化を尋ねたところ、「特にプラスに感じられる変化はない」が50.2%と最も高くなっている。プラスの変化と感じる内容は、「自分の時間が増えた」29.0%、「人との交流機会が減った」17.7%、「生活のリズムが規則的になった」10.0%と続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「自分の時間が増えた」「人との交流の機会が減った」は全体よりも高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、50歳代では「特にプラスに感じられる変化はない」が他の年齢に比べて10ポイント以上高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大によるプラスの変化」



（３）新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナスの変化

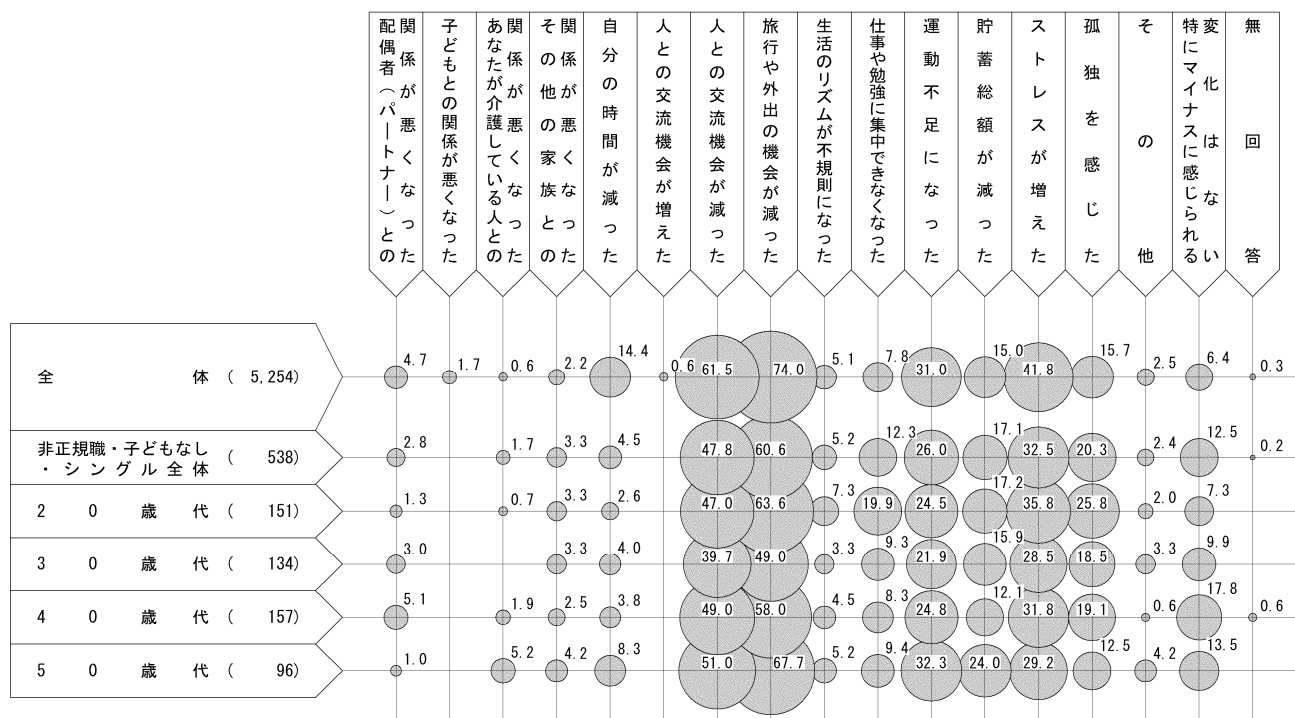
非正規職・子どもなし・シングルの回答者がコロナウイルス感染症拡大でマイナスと感じる変化を尋ねたところ、「旅行や外出の機会が減った」60.6%、「人との交流機会が減った」47.8%、「ストレスが増えた」32.5%、「運動不足になった」26.0%、「孤独を感じた」20.3%と続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「旅行や外出の機会が減った」「人との交流機会が減った」「ストレスが増えた」「運動不足になった」「自分の時間が減った」は全体比べて低い。「特にマイナスに感じられる変化はない」が全体よりも高い。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は「孤独を感じた」「仕事や勉強に集中できなくなった」、50歳代は「旅行や外出の機会が減った」「運動不足になった」「貯蓄総額が減った」が他の年齢に比べて特に高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別

「新型コロナウイルス感染症拡大によるマイナスの変化」



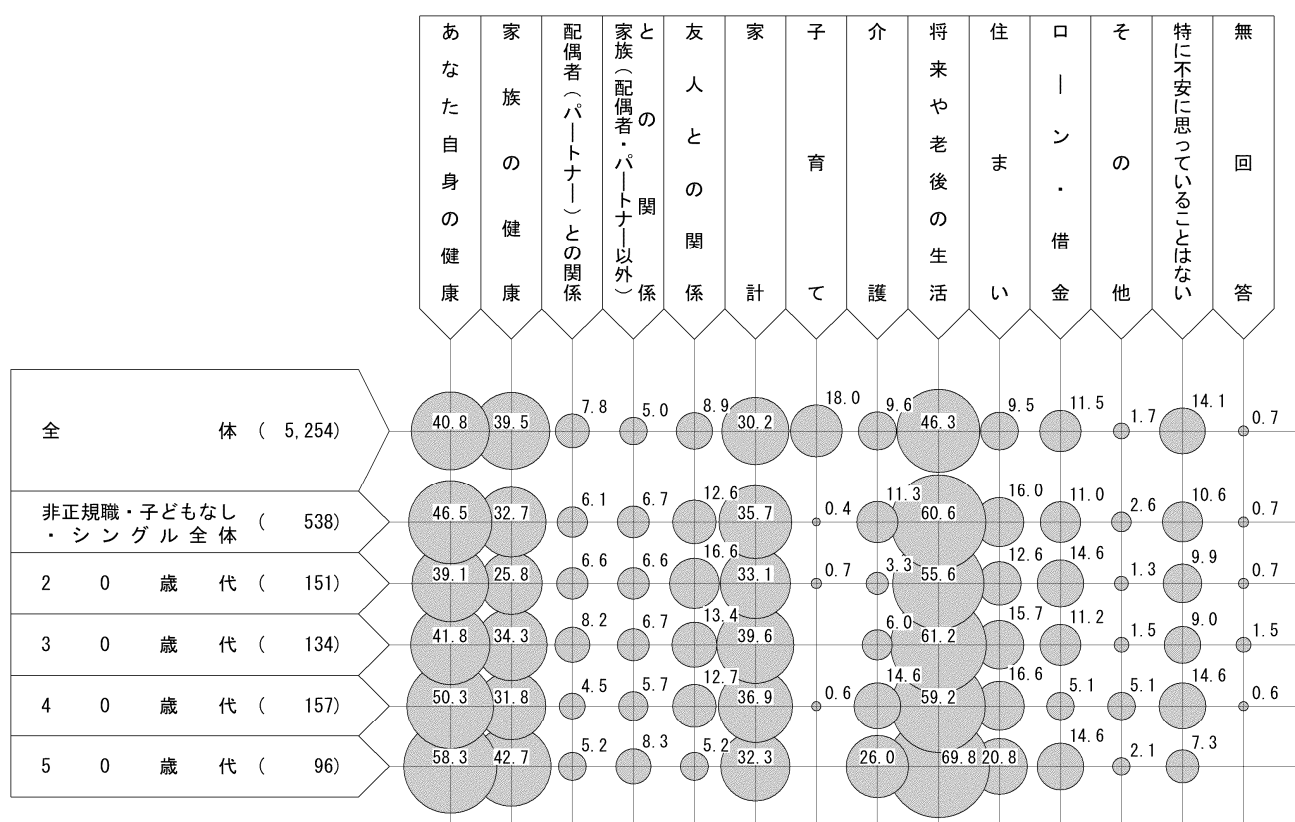
(4) 生活での不安

非正規職・子どもなし・シングルの回答者が現在の生活において不安に思っていることを尋ねたところ、「将来や老後の生活」60.6%が最も高く、「回答者自身の健康」46.5%、「家計」35.7%、「家族の健康」32.7%と続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「将来や老後の生活」「回答者自身の健康」「家計」「住まい」が全体よりも高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「将来や老後の生活」「回答者自身の健康」「家族の健康」「住まい」「介護」は50歳代で特に高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「生活の不安」



5. 今後の生活について

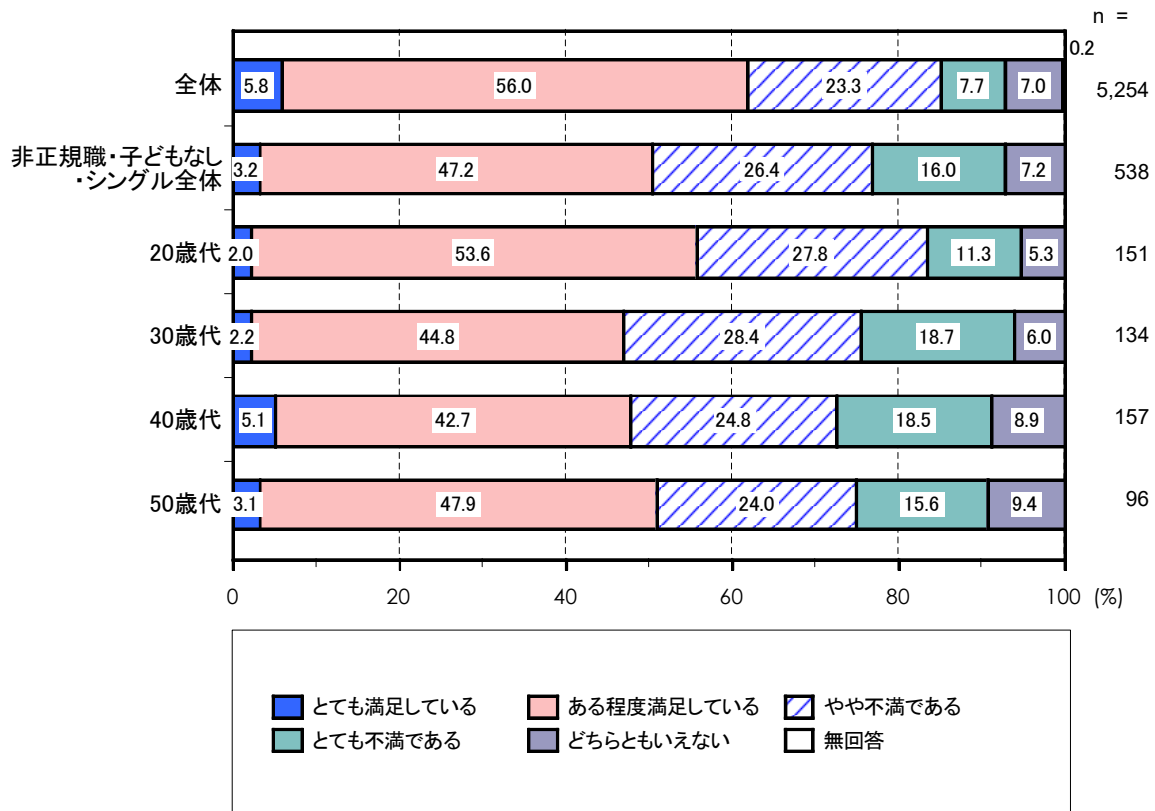
(1) 生活の満足度

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の生活の満足度は、「とても満足している」「ある程度満足している」を合わせた“満足している”は 50.4%、「とても不満である」「やや不満である」を合わせた”不満である“42.4%である。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、全体に比べて“満足している”が低く、“不満である”が高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20 歳代は“満足している”が他の年齢よりも高く、30 歳代は“不満である”が高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「生活の満足度」



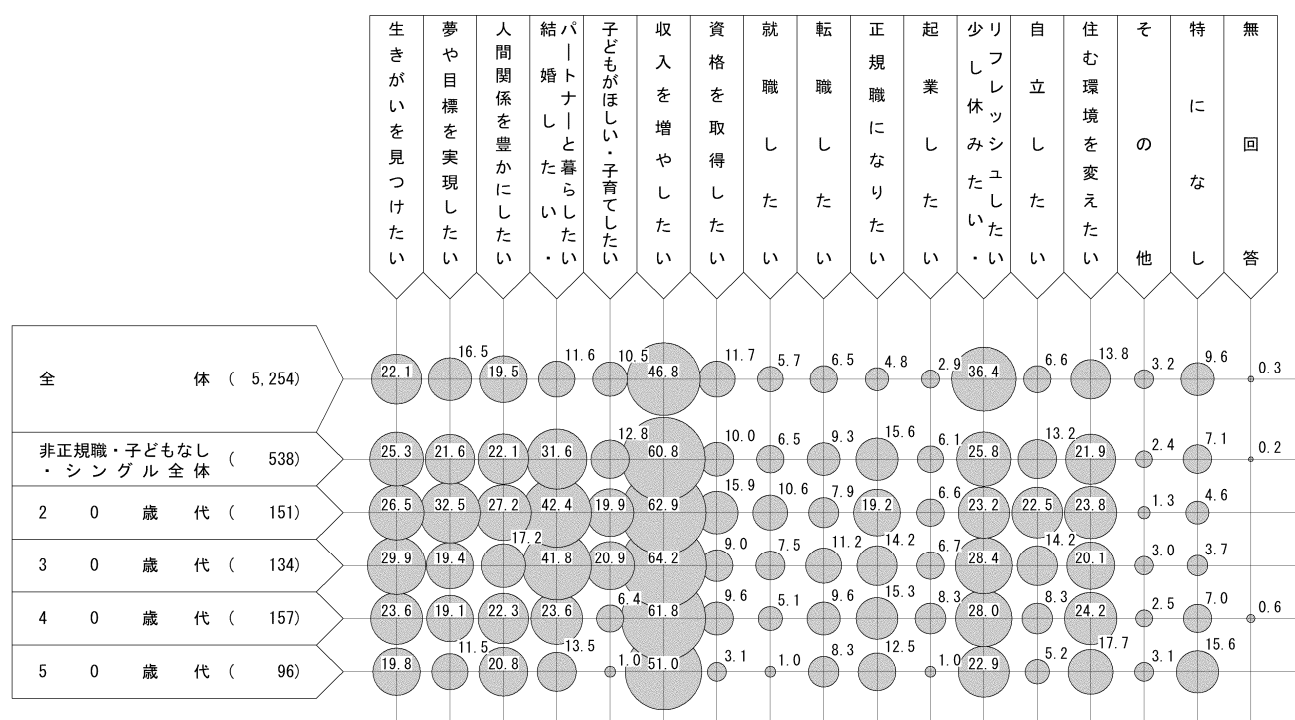
(2) 今後の希望・目標

非正規職・子どもなし・シングルの回答者が今、望んでいることを尋ねたところ、「収入を増やしたい」が60.8%と最も高く、「結婚したい・パートナーと暮らしたい」31.6%、「生きがいを見つけない」25.3%が続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「収入を増やしたい」は14ポイント、「結婚したい・パートナーと暮らしたい」は20ポイントとかなり高くなっている。一方で「少し休みたい・リフレッシュしたい」は10ポイント低い。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は「夢や目標を実現したい」「人間関係を豊かにしたい」「自立したい」「資格を取得したい」が他の年齢に比べて高い。「結婚したい・パートナーと一緒に暮らしたい」「子どもがほしい・子育てしたい」は20歳代、30歳代で高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「今後の希望・目標」



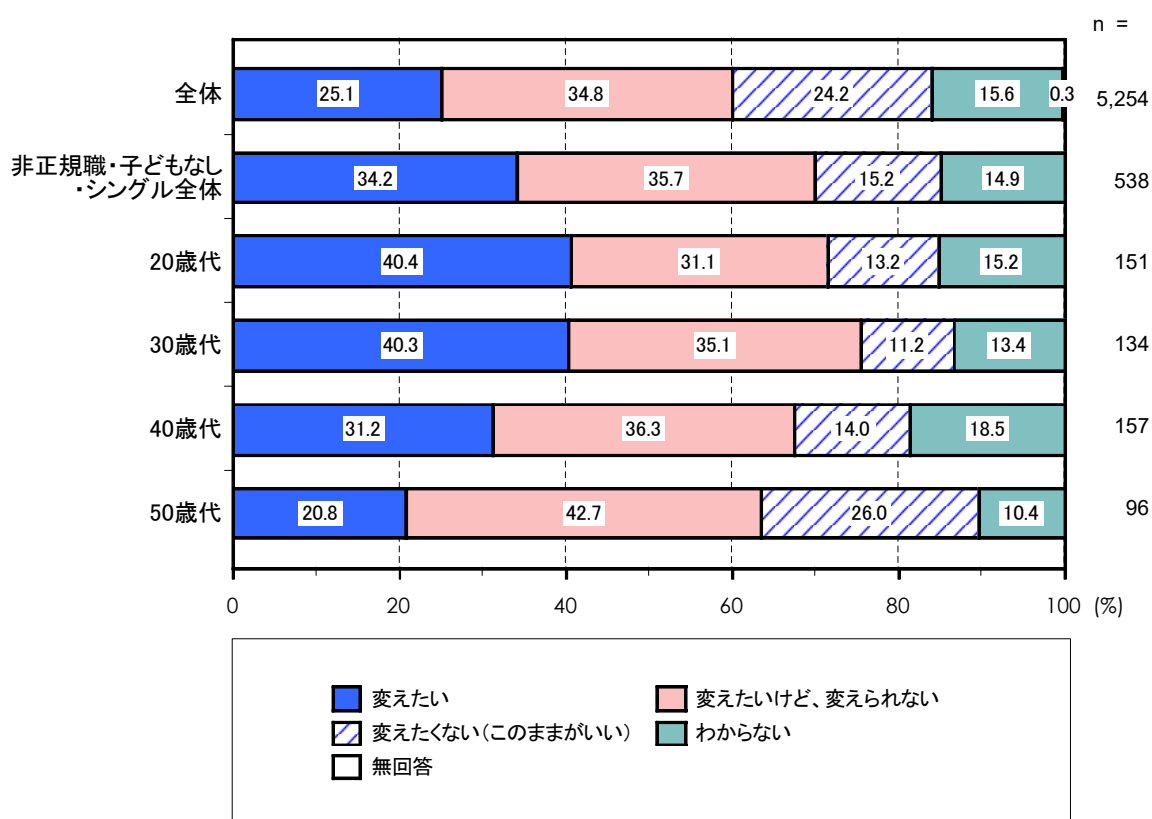
(3) 生活の変化意向

非正規職・子どもなし・シングルの回答者が現在の生活状況を変えたいと思っているかどうかを尋ねたところ、「変えたいけれど、変えられない」35.7%、「変えたい」34.2%、「変えたくない（このままがいい）」15.2%となっており、「変えたい」「変えたいけれど、変えられない」を合わせた69.9%が“変えたい”という意向を持っている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「変えたい」が高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代、30歳代は「変えたい」が40%を超えている。50歳代は「変えたいけれど、変えられない」が42.7%と他の年齢に比べて高く、「変えたくない（このままがいい）」も他の年齢に比べて10ポイント以上高い。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「生活の変化意向」



6. 女性に対する支援

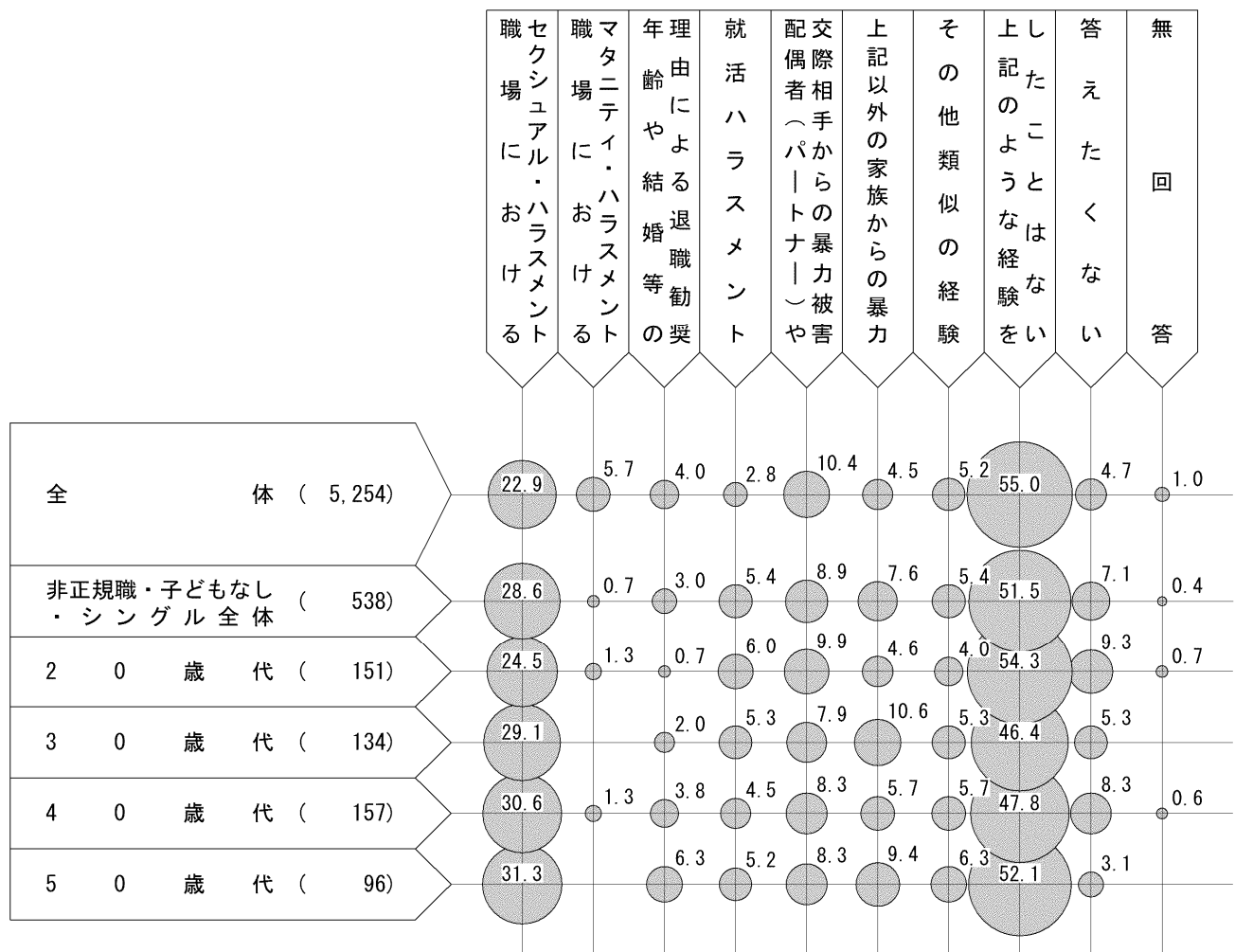
(1) 女性であるがゆえの暴力被害経験

非正規職・子どもなし・シングルの回答者がこれまでに、女性であるがゆえの暴力被害の経験の有無について尋ねたところ、「そのような経験をしたことはない」が 51.5%と最も高い。暴力被害の経験の内容は、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が 28.6%、「配偶者（パートナー）や交際相手からの暴力被害」8.9%、「配偶者（パートナー）以外の家族からの暴力」7.6%と続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が高くなっている。非正規職という立場が弱いことから受ける比率も高くなることが推察される。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」は 20 歳代がやや低く、「年齢や結婚等の理由による退職勧奨」は年齢が上がるにつれて高くなる傾向がある。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「女性であるがゆえの暴力被害経験」



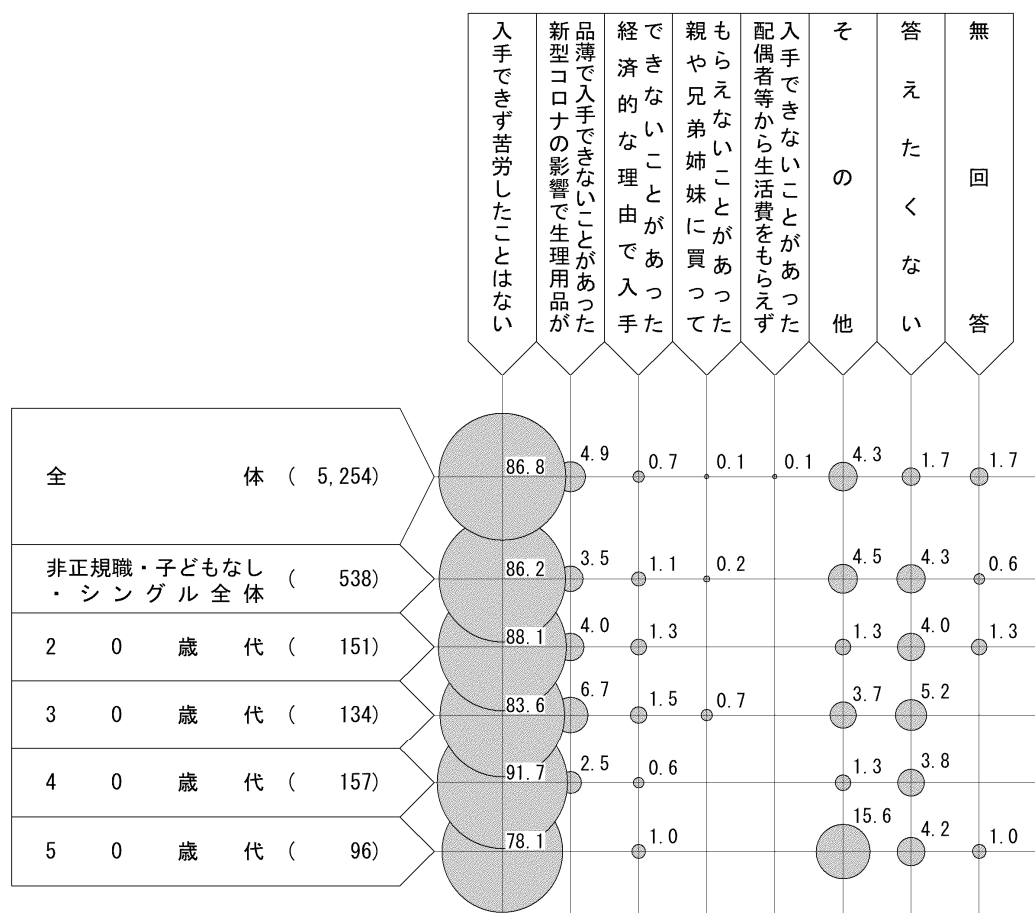
（２）新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験

非正規職・子どもなし・シングルの回答者のうち、新型コロナウイルス感染症拡大（2020年1月）以降で、生理用品の入手に苦労したことはあるかどうかを尋ねたところ、4.4%が生理用品の入手に苦労した経験があると回答している。その内容は「新型コロナ拡大の影響で生理用品が品薄で入手できないことがあった」3.5%、「経済的な理由で入手できないことがあった」1.1%、「親や兄弟姉妹に買ってもらえないことがあった」0.2%である。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別には大きな違いはない。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別

「新型コロナウイルス感染症拡大後の生理用品の入手に苦労した経験」



全体	5.5%
非正規職・子どもなし・シングル全体	4.4%
20代	5.3%
30代	7.5%
40代	3.2%
50代	1.1%

※全体から「入手できず苦労したことはない」「その他」「答えたくない」「無回答」を除いた比率

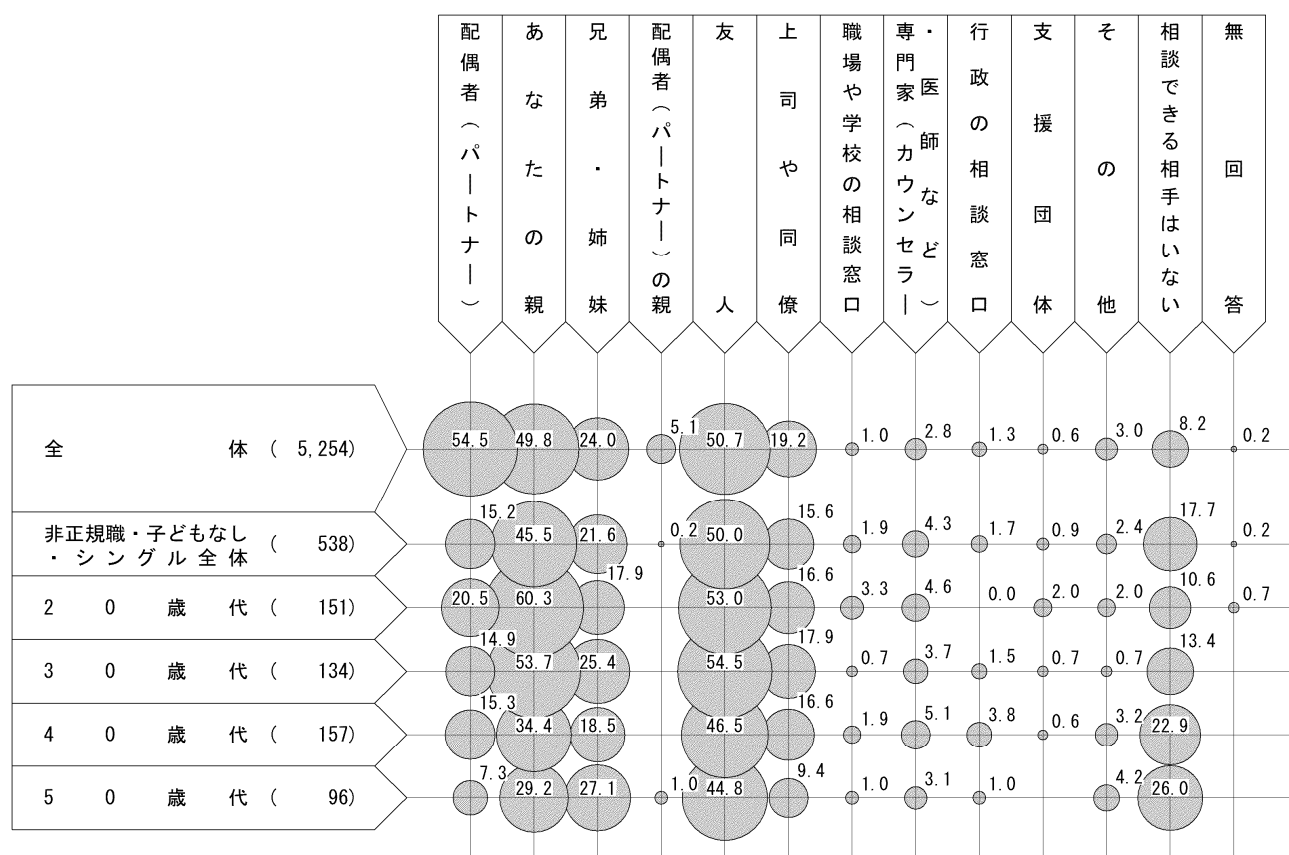
(3) 相談相手

非正規職・子どもなし・シングルの回答者が仕事や生活の困りごとについて相談する相手がいるかどうかを尋ねたところ、「友人」50.0%が最も高く、「回答者の親」45.5%、「兄弟・姉妹」21.6%が続いている。一方、「相談できる相手はいない」が17.7%である。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「配偶者（パートナー）」が全体よりも低く、「相談できる相手はいない」がかなり高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代、30歳代は「回答者の親」が高く、40歳代、50歳代は「友人」が最も高い一方で、「相談できる相手はいない」も高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「相談相手」



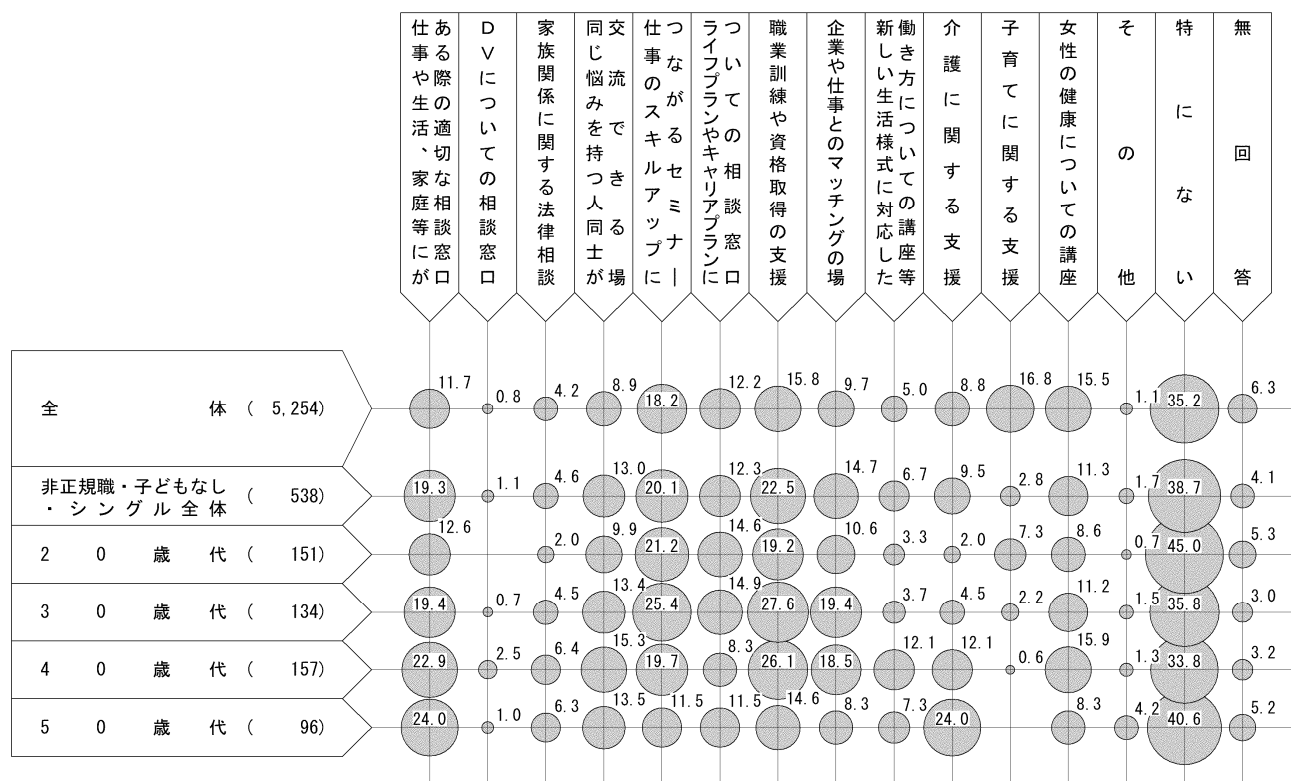
(4) 利用したい女性の支援施策

非正規職・子どもなし・シングルの回答者に利用したい、参加したい名古屋市が行う支援を尋ねたところ、「特にない」が38.7%と最も高い。利用したいと回答した項目は、「職業訓練や資格取得の支援」22.5%、「仕事のスキルアップにつながるセミナー」20.1%、「仕事や生活、家庭などに問題がある際の適切な相談窓口」19.3%と続いている。

非正規職・子どもなし・シングル全体と全体を比較すると、「職業訓練や資格取得の支援」「仕事や生活、家庭などに問題がある際の適切な相談窓口」「企業や仕事とのマッチングの場」が全体よりも高くなっている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、20歳代は「特にない」が他の年齢に比べて高くなっている。利用したい項目では20歳代は「仕事のスキルアップにつながるセミナー」、30歳代、40歳代は「職業訓練や資格取得の支援」、50歳代は「介護に関する支援」が最も高くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「利用したい女性の支援策」

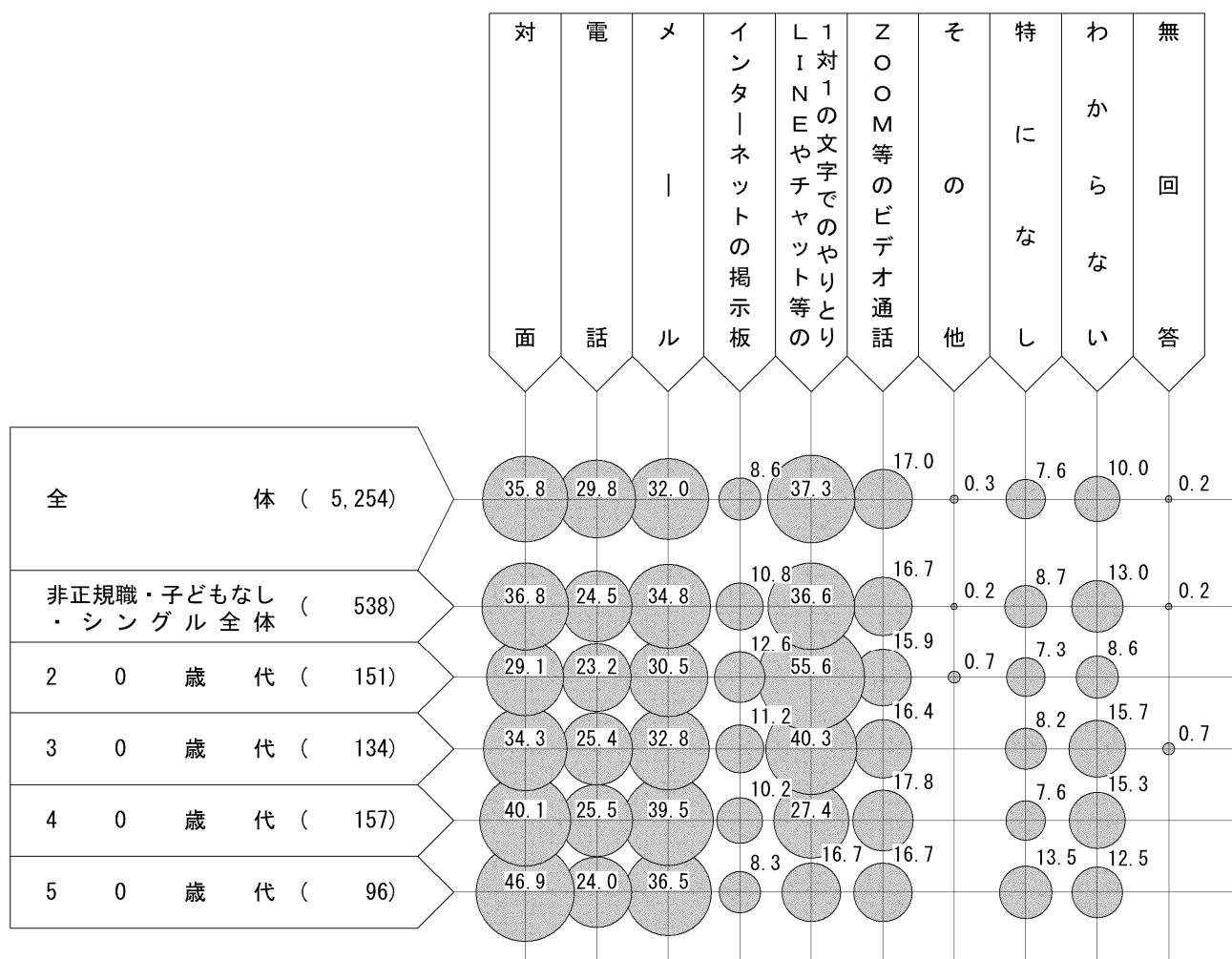


（５）相談方法

非正規職・子どもなし・シングルの回答者に、名古屋市が設置する相談窓口での期待する相談方法を尋ねたところ、「対面」が36.8%で最も高く、「LINEやチャット等での1対1の文字のやりとり」が36.6%、「メール」34.8%、「電話」24.5%が高くなっている。LINEやチャット、メールといったインターネットを使ったやり取りを求める意見が高くある。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、「対面」は年齢が上がるにつれて高くなり、50歳代が46.9%と最も高くなっている。一方「LINEやチャット等での1対1の文字のやりとり」は20歳代が55.6%と最も高く、年齢が上がるにつれて低くなる。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「相談方法」

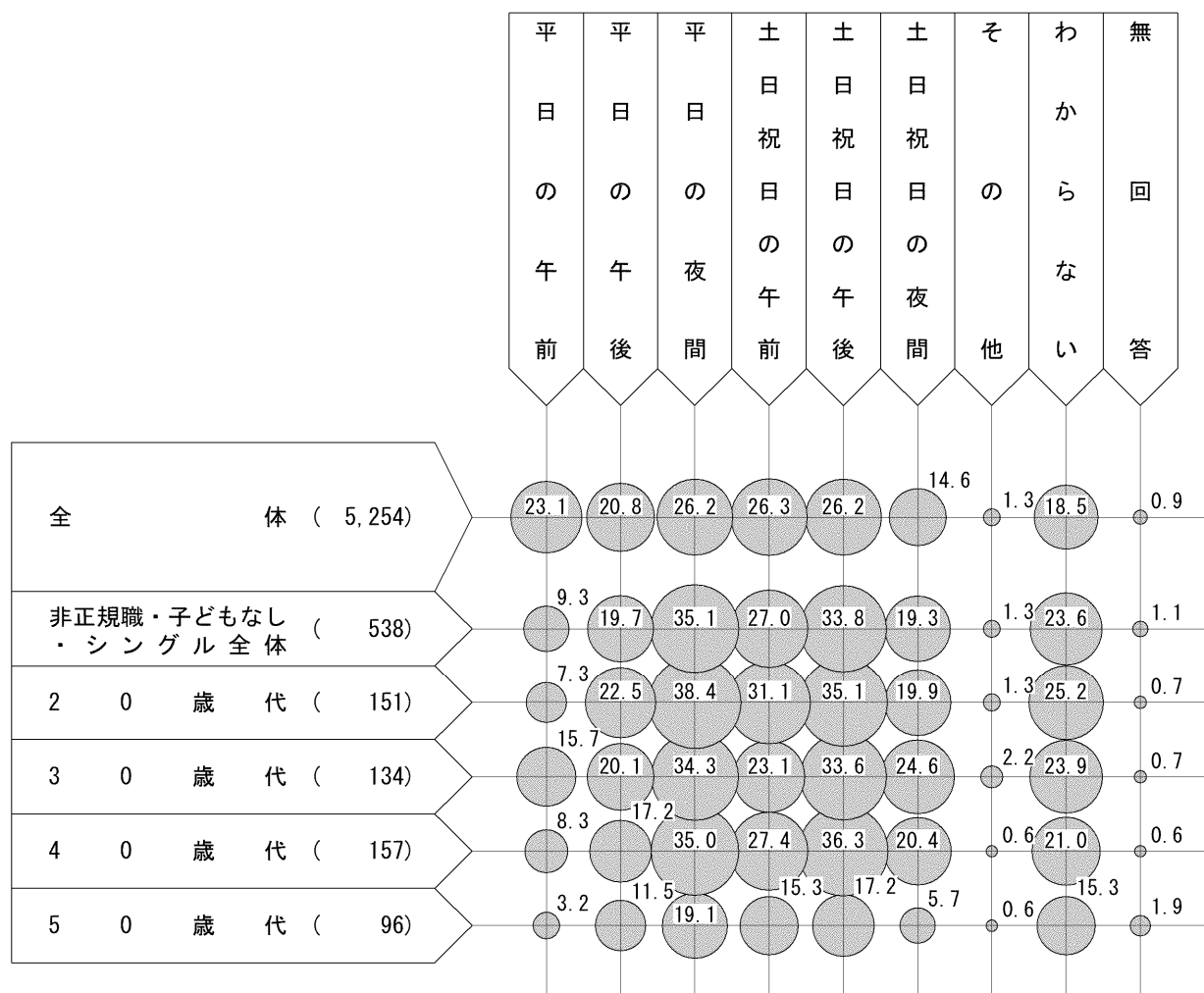


（６）利用しやすい曜日・時間帯

非正規職・子どもなし・シングルの回答者に、名古屋市が行う支援を利用したい曜日や時間帯を尋ねたところ、「平日の夜間」が 35.1%最も高く、「土日祝日の午後」33.8%、「土日祝日の午前」27.0%が続いている。

非正規職・子どもなし・シングルの回答者の年齢別にみると、ほとんどの項目で 50 歳代は他の年齢に比べて低くなっている。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「利用しやすい曜日・時間帯」



その他の調査結果

(1) 団体ヒアリング調査結果

○目的

女性に関する様々な支援を行う団体に、新型コロナウイルス感染拡大のなか、団体が関係する困難な状況にある女性の実態と課題、行政に期待されることを明らかにするためにヒアリング調査を実施した。

○団体一覧

	団体名		ヒアリング実施日
1	のわみ相談所	https://nowami.jimdofree.com/	2021年9月7日（火）
2	名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター	https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000061562.html	2021年9月8日（水）
3	名古屋ふれあいユニオン	https://nagoya-union.online/	2021年9月9日（木）
4	NPO 法人 BOND プロジェクト	https://bondproject.jp/	2021年9月15日（水）

○調査内容

- 女性や困窮者を支援している現場の状況
- 特に、非正規職、子どもなし、シングルの方の状況
- 行政（名古屋市）に期待される役割
- 支援方策のアイデア等
- その他

団体ヒアリング① のわみ相談所

【コロナ禍における状況】

- のわみが運営している女性のシェルターへの入居者数は、コロナ禍で 30 人から 60 人へ倍増した。シェルターの数も不足していたので、18 箇所まで増やした。名古屋にも 1 か所ある。
- 女性で居場所がない方が増加している。DV を受けて駆け込む人もいる。荷物と子どもを連れてくるが、お金は夫が管理しているため、長くシェルターにいと将来が不安になり、元に戻ってしまうこともある。半分くらいは元に戻っている。
- 若い人も多い。9 月の入居者では、19 歳の女性（江南市）、24 歳の男性（一宮市）が家を追い出されたため入居につながった。
- 食糧支援の受援者も急激に増えている。
- 休眠預金を活用した助成システムも活用しているが、3 か月までの期限付きの支援なので、短期での自立を目指すという面で難しい面がある。
- シェルターに駆け込んでくる人の 8 ～ 9 割は所持金 1000 円以下でやってくる。1 週間食事をとっていない人もいる。
- 当相談所が提供する、2 万円の貸付制度「のわみ基金」は、コロナ以前は、女性では約 5 割が自主返納してくれていたが、コロナ後は返納率が減っている。なお、男性は 1 ～ 2 割程度の返納率となっている。

【のわみの支援活動：シェルター支援】

- シェルター入居者が抱えている事情は本当に様々で複雑。多様な問題が重なり困窮している方も多い。共通してみられる傾向は、困れば困るほど「短絡的な思考」に陥る人が多い。言動も直接的で乱暴になることもある。将来を見通す力がない。そうすると風俗業などに消えていく人もいる。じっくり考えさせて将来の自立につなげていくことが重要である。そのためのベーシックハウジング（シェルター）と教育の確保が必要。

【行政への意見】

- 生活保護や社会福祉協議会の貸付などは、その場ではお金がもらえない。しかし、今日、お金が欲しい人がある。
- 生活保護は離婚していないと受給できない。DV から逃れてきても困窮して元に戻ってしまう。“生活保障”のための受給制度となるべく柔軟性をもたせてほしい。
- 困窮者の“即支援”につなげていくためには、多目的シェルターが必要だと考えている。ネットカフェや友人宅、車中などで生活する人が増えているが、安心して生活を送れる場所があることが次のステップにつながってくる。期間限定で旅館を提供するといった取組もあるが、本質的な支援にはならない。

団体ヒアリング② 名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター

【コロナ禍における相談状況】

- コロナ禍で相談件数は増えた。件数では一昨年と比較し、去年1年間で5倍に増加した。例年1,100～1,200件だが、昨年は6,000件だった。住居確保給付金、社会福祉協議会の貸付といった制度利用目的の方が多かった。相談が増えた世帯の内訳をみると、これまで相談の多かった「単身世帯」や「ひとり親世帯」、引きこもりの子をもつ「8050世帯」は2～3倍程度の増加にとどまった。他方、元の件数の少なかった父子世帯が15倍に増えた。これまで生活を送れてはいたものの、実はギリギリだったということだと思う。
- コロナ禍で求められていたのは、長期的な生活再建ではなく、「今すぐ助けてほしい」という声だった。他方、行政の窓口では、話は聞いてくれるが緊急支援はできない。基金を設け、貸付やフードバンクなどを行っているNPOがある。当センターでもフードバンクの食料を置いて、相談に来た人に渡している。たったそれだけだが、本人にしてみたら「何かを得られた。明日を迎えられる」という気持ちを持てることは大きい。
- コロナ禍で、水商売の方の相談がすごく増えた。これまでに先々を見通す経験をしてこなかったため、そのような力が備わっていないように感じる。例えば、仕事を辞めたら失業給付金がもらえるとといった一般的な制度・手続きの認知が低い。「何が問題なのか」に気が付いておらず、知らないことでデメリットを被っていることが多い。そのような方が、これまでは若さでなんとかなっていた部分が、年齢が上がってくるにつれ、はじめて行き詰まるということだと思う。生きていく上で知っておいた方がよいこと、知らないリスクになるようなことは、義務教育で教えてもよいのではないか。
- また、コロナ禍では、男性も同様にしんどい状況である。職種を変えようと、新しい環境に飛び込んでいくことはハードルが高い。飛び込んで挫折する方も多くいる。頑張ってきたことが結果につながらないというしんどさ・傷つき体験から、元の職種に戻る方もいる。企業も余裕がなく即戦力を求めている。このギャップが大きい。

【相談者の状況】

- これまでの相談者の中で、非正規・シングル女性に該当する方の特徴としては、40代で行き詰りを感じ、不安を抱えているが、現状を変えられる要素がないことが多いように感じてきた。現在シングルの方でも、元々主婦で、その後離婚された方は、結婚生活の時の生活水準と比べてしまい、路線変更が難しいようにも感じる。やり直しがきかないしんどさがある。
- 就労支援を希望する方の中には、生活基盤が脆弱で綱渡り状況の方が多く、全てのことを1人で抱え込んでいる方も多い。
- 相談者の中には、メンタルヘルスの問題を抱えている方も多く、単にキャリアアップのチャンスがあるというだけでは、状況の改善にはつながらない。
- また、自分の悩みを話す相手がいない方も多い。不安を共有できる相手などが必要だと思う。ただし、単純に話を聞いてもらえるだけではなく、自分が見落としていることを助言してもらうことが重要。
- 周囲の方がつなごうとしてくれるが、本人の気持ちが向かないときは支援できないときもある。

【行政の支援について】

- 最初のハードルをいかに下げるか、アクセスのしやすさが重要。本人が、ふと思いたった時に行動でき、それを受け止める体制が必要。メールそのものでは具体的な相談ができなくても、本人が発信してくれたときにキャッチし、電話などで繋いでいくことが必要。当センターでもメールでの受付をしているが、メールはあくまで入口として捉えている。
- 生活保護を含め、「制度を利用することが特別なことではない」という情報発信が極めて重要。住居確保給付金は国が力を入れて宣伝したので申込みが殺到した。そのような発信をすれば利用される。今回は、テレビや新聞だけではなく、Twitter で情報が回った。若い人は Twitter でみたという人も多かった。行政は、必要のない人まで利用するのではないかと警戒するが、本当に必要な人ほどためらう傾向にあるので、積極的に発信するくらいがちょうどよいと思う。
- 窓口対応への研修・教育も必要。窓口相談に来た方が、正規雇用を望んでいなかったり、求人はあるのに応募しないといった場合、それを本人の自覚の問題にするのは危険。もう二度と相談に来ない。当事者がどういった状況に置かれているのか寄り添い・理解するための研修・教育を進めてほしい。
- 当事者同士の横のつながりが足りないと感じている。
- ひとり親の支援ではアウトリーチ型の支援ができている。困窮者支援も同様にやりようはある。
- 隙間の問題について、これまで隙間に置かれていたものは、社会の問題を個人の問題にすり替えていただけたと思う。
- 制度を作るにあたって必要なことは、いかに制約を少なくするかである。そうしないと隙間がどんどん増え、支援の対象ではない人が生まれ続ける。自分たちは支援の対象者ではないと逆のスティグマをもってしまう。制約があると制度自体が硬直化していく。

団体ヒアリング③ 名古屋ふれあいユニオン

【登録者・相談者の状況】

- ユニオンの組合は 470 人で、うち 4 割は外国人労働者。半分は女性。外国人労働者の婚姻率は高い傾向にあり、「非正規・子なし・シングル」はほとんどいない。470 人の組合員のうち、「非正規・子なし・シングル」の日本人女性は 7～8 人。年齢層は、40 歳前後の方が多い。

【コロナ禍の女性の状況について】

- 名古屋の特徴は、自動車関連産業に大きく左右される点である。令和 2 年度は、特に外国人労働者の非正規の雇止めが多く発生した。特に自動車産業が厳しかった 4～6 月がひどかった。2 次・3 次下請け企業に勤務している非正規女性の方が多く、部品の供給先がなくなると、非正規雇用から切られていった。ただし、2020 年 6 月までは自動車産業が厳しかったが、7 月からは雇用も回復基調である。秋以降はコロナに直結した労働問題は減ってきた。
- 雇止めは、男女関係なく発生していた。ただし女性は、コロナ禍以前より「妊娠雇止め」が多かった。妊娠が発覚すると、育休や産休に入ってしまうと法律上切れなくなるので、発覚した時点で、「職場の人間関係を乱した」「上司の指示を守らない」といった別の理由をつけて解雇されてしまうといった実態がある。
- コロナ禍に限らず、工場のライン勤務での不当解雇も多い。ライン勤務は日勤夜勤 2 交代制が多く、子どもがいる方で、保育園の送り迎えがあると、夜勤が厳しく、日勤でも時間帯の調整が難しい場合もある。派遣労働者が多い環境で、ある派遣の方は、次の派遣先を紹介するかどうかの時に、夜勤に対応できるなら紹介するが、夜勤は難しいと返答すると本人が断ったとして雇止めされたといったパターンもあった。
- コロナと直接は関係ないハラスメントの相談も多い。例えば、会社である問題がおき、「いまの環境では働きにくいから改善してほしい」と訴えたと、改善を求めたことが問題視され、解雇されるような扱いを受けたといったこともあった。
- コロナ以前は生活保護への同行はほとんどなかったが、コロナ禍では労働問題が生活困窮に直結した問題として、生活保護の手続きに同行するなど対応せざるを得なかった。
- コロナ以前は、会社から不当な解雇にあった場合も、次の仕事を探すなど先を見通しながら支援ができたが、コロナ禍では次の就職先が確保できるのかなど、全く先が見えない中で、生活を支える上での生活保護など対処療法的なことしかできなかった。
- 今回のコロナ禍では、今まであった問題が表面化したのは間違いない。非正規職が首を切られる構造になっているのがそもそもの問題。正社員とは全く別扱いで、契約期間がきまっており、あくまで非正規は調整要員である。当然こういう状態になれば雇止めすることが想定された上で、雇われている。

【支援につなげる方法】

- 日本人は、インターネットで情報を調べて、ユニオンを見つけて相談にくる場合が多い。労働局や労働基準監督署に相談した後にここに来る人も多い。労働局や労働基準監督署は、労働基準法の範囲内

では対応できるが、それ以外の部分では、例えば「解雇が正当か不当か」といった相談は対応できない。

- 外国人は SNS を通じた口コミで知った人が多い。日系ブラジル系は Facebook、中国人は Weibo など国籍別の SNS を利用している。
- 困窮者の特徴として、自身の客観視ができていないことを感じる。ユニオンに労働相談に来て、これまでに数回生活保護の申請手続きをしたことがある方でも、「生活保護まではまだ受けなくていい」「まだ自分は大丈夫」と言う傾向がある。客観的な見え方と自身の意識がずれていることを感じる。そういった方には、相談会を開いても繋がりがよくない。感覚的に訴えると「自分はそうではない」となるので、収入などの客観的な指標を示しながら、この条件に当てはまる人は支援の対象になり得ると具体的に明示した上で呼びかけ、自分が対象だと認識してもらう必要がある。呼びかけの方法もちゃんと目に留まる方法でアピールするとよい。

【支援の在り方】

- ふれあいユニオンでは、労働問題に特化して相談・支援を行っている。支援団体は多くあり、それぞれの得意の分野がある。その多様な支援を行政側で具体的にとりまとめてワンストップの相談会を開いていただけると、相談する側からすると非常に使いやすい。
- 困窮者支援では、生活保護の制度自体も問題がある。財産を処分しないといけませんが、車やスマホは生活保護から抜け出すためにも必ず必要になる。財産は認めるなど、しっかり実態をみてほしい。
- 外国人労働者は、行政の相談先がわからないことが多い。不当解雇されたときにハローワークに行く人も多く、それでは何も解決できない。分かりやすい環境を作ってほしい。窓口には通訳が必要である。

団体ヒアリング④ NPO 法人 BOND プロジェクト

【コロナ禍の若者の状況】

- 2020 年 6 月に「10 代 20 代女性における 新型コロナ感染症拡大に伴う影響についてのアンケート調査」を実施した。BOND プロジェクトの LINE に登録している若年女性 9,500 人に配信し、950 人から回答を得た。うち愛知県在住の方は 47 人であった。回答者は、学生が 54%（510 人）と半数強を占め、学生以外は、46%（440 人）であった。学生以外では、非正規職は 34%、正規職は 28%、無職は 25%であった。
- 全国に、生きづらさを抱えている人が非常に多くおり、その理由は、家族のことや学校のこと、体や心のこと、お金や暮らし、望まない妊娠など多岐にわたる。コロナ禍では、家族に関する相談が増えた。相談案件は、コロナ以前も含めてこれまでに 4 万 6,000 件にもなるが、対応できているのは 1 万 9,000 件程度。支援から漏れている人がいる。名古屋の方を支援者に繋いだこともある。
- コロナ禍で、若年女性の自殺率が増加している。就職難に陥り、死にたいと声を挙げる方を多くみってきた。夢を描くことができず、これまでとは同様に考えられることができなくなっている。
- 家族との同居がリスクになることもある。コロナ禍で性的被害も増えている。
- コロナ禍では、行政の相談室も閉じていたこともあり、BOND に電話がきたこともあった。
- SNS など情報発信をしているが、あくまで入口である。必要な支援はアウトリーチで、こちらから会いに行くなどアプローチが必要である。
- 支援にあたって重要なのは、「聞く」「伝える」「つなげる」の 3 点。当事者の中には、うまく相談できない方がいる。体調が悪かったり、メンタルも弱っており、窓口に行くと言えだしたり、どうしてよいのか本人もわからない状況に陥っている。だけど聞いてほしいと望んでいる。そのような状態の方に対して、行政の窓口の担当者は、「どうしたいの？」と畳みかけるように話を切り出す。行政は、法的根拠がないと動けない。つまり、何かしらの「理由」がないと支援の受け皿がない状態である。それでは絶対に当事者に寄り添うことはできない。やっと窓口に来られてもそのような態度で「またおいで」と言われると、もう二度と訪ねることはない。そこでつながりが切れてしまう。よっぽど元気があるか、自己肯定感のある方は別だが、支援を要している方は、そういったハードルの高さがある。
- 困窮者はメンタルヘルスに問題を抱えてる場合が多いが、その要因は家族のこと、体調や貧困、家がない、携帯電話がないなど様々である。傷ついたメンタル面の治療のためには、回復支援が必ず必要である。それには、まず安定した暮らしを保持するためにシェルターが必要である。
- これまでの支援制度は、民がまず取り組み、後追いで制度が付いてきた。行政ありきで始めても何も始まらない。

（２）当事者ヒアリング結果

調 査 目 的：「非正規職・子どもなし・シングル」の方を対象に、アンケート調査で把握した内容の詳細とその理由について、意見を聞いた。

調査対象者：「ウィズコロナにおける女性の生活・就労等実態調査」のアンケート調査に協力していただき、ヒアリング調査への協力意向を示した方のうち、「非正規職・子どもなし・シングル」の方 88 名に改めて協力依頼を行った。そのうち協力の回答をしていただいた 7 名。

調 査 方 法：対面またはオンラインでの、個別のヒアリング調査

調 査 時 期：令和 3 年 11 月 3 日～11 月 6 日

調 査 項 目：・ご自身の職歴・その職を選んだ理由
・コロナ禍での生活、就労の状況
・生活・就労に関する不安等について
・今後の生活・就労に関する意向とその理由
・「非正規職・子どもなし・シングル」への行政施策に関する情報提供方法について
・「非正規職・子どもなし・シングル」の女性への支援について
・その他

◆ヒアリング対象者一覧

対象者	インタビュー方式	年齢	コロナで前後の仕 後の仕事の 変化	コロナ前後の職歴
A 氏	対面	50 歳代	有	コロナ前：コールセンター／事務職（派遣社員） コロナ後：コールセンター／事務職（パート）
B 氏	対面	50 歳代		大学／事務職（契約社員）
C 氏	オンライン	50 歳代	有	コロナ前：旅行会社／事務職（契約社員） コロナ後：公的機関／事務職（派遣社員）
D 氏	対面	50 歳代		コールセンター／事務職（派遣社員）
E 氏	オンライン	30 歳代	有	コロナ前：英会話スクール講師（契約社員） コロナ後：学校運営／事務職（契約社員）
F 氏	対面	30 歳代		工場（派遣社員）
G 氏	オンライン	20 歳代	有	コロナ前：塾講師（正社員） コロナ後：高校教師（非常勤）

＜非正規を選んだ理由＞

- 短大卒業後、正社員として保険会社で30年間勤めた。ハードな職場で、異常残業も多く大変だった。定年まで働く予定だったが、50歳を過ぎると昇格しなければ肩たたきにあうような環境だった。自身は上に行きたいとは思っていなかったため、昇格試験はうけなかった。そんな時、介護の仕事をやりたくなって、会社の「セカンドキャリア支援制度」を使い退職した。しかし、介護職は体力的に厳しかったため、現在は、コールセンターを続けている。(A氏)
- 30半ばで息切れし、きつくなって正社員を辞め、それ以降非正規で働いている。(B氏)
- 大学中退後、自身の夢だった観光関係の仕事に打ち込んでいたが、結婚を機に退職。その後、契約社員として再び観光関係の仕事に勤めていたが、正社員にはなれそうにないことやコロナの影響を受け、自ら退職。(C氏)
- 大学卒業後、正規職として2年間勤務。その後、結婚・離婚を経て、派遣社員として働き続けている。40歳を超えると正規職、契約社員での就職が難しくなり、派遣社員でも事務職での求職が難しくなったため、電話応対をするようになり、自分には合っていた。(D氏)
- 大学卒業後、大阪の企業で正社員で入社したものの6か月で退職。その後、東京での勤務等を経て、地元である名古屋に帰省し、契約社員として働いている。仕事とは別に音楽を特技としており、音楽と仕事の両立のため非正規を続けている。(E氏)
- 高校を中退し、その後アルバイトでフリーターとして働いている。正社員になれる機会はあったが、当時は、正社員のメリットが分からなかったため、正社員にはならなかった。フリーターだと働いた分だけ稼げるし、自分の時間も持てた。年齢を重ねるうち、正社員が良かったと思うようになってきた。現在34歳で、次の雇用契約が切れる3年後に、また新しい仕事を覚えるのは厳しい。なので、今の職種で正社員になれるならなりたい。(F氏)
- 私立高校で教員(正社員)として3年勤務したのち、体調を壊し転職。その後塾講師(正社員)として勤務したものの、再び体調を崩し、非常勤講師に転職。体調を崩したことをきっかけに整体に興味をもち資格を取得。副業として整体をやっていきたいと考えている。(G氏)

＜コロナの影響＞

- 親の介護をしているが、デイサービスの受け入れをしてもらえないなど、介護ではコロナの影響が大きかった。(A氏)
- 在宅勤務制度・PCの貸し出し制度があるが、デジタルが苦手で、1人だと不安。紙処理も多いので自身は出勤していた。(B氏)
- コロナの受け止め方に個人差があり、多少の私語でも敏感になる人もいたため、職場の雰囲気が悪くなり辛かった。(B氏)
- コロナで観光業界への深刻な影響があった。会社の状況が悪くなければ、正社員の登用も夢ではなかったのではないかと。ただし、年齢の面でも落とされていたのかもしれない。(C氏)
- 仕事上ではコロナの影響は感じていない。(D氏)
- 英会話スクールがコロナで休みになり、3か月仕事がなかった。給料は最低限保証で時給分だけ支給されたが、1か月5万円程度だった。そこで、登録していた派遣会社へ電話をしてGWやイベントなど短期の仕事をしてみたい。(E氏)

- 仕事面ではコロナの影響は全くなかった。職場では、噂で感染者が出たと聞いたが、朝礼などでの報告は何もなかった。構内の消毒をしたかどうかなどもよくわからない感じであった。生活面では、コロナ以前は、よく飲みに行っていたので、飲みに行けなくなったのがストレスではある。いまだにいけない。一方、飲食費が抑えられるのでその面はプラス。(F氏)

＜家族等の状況＞

- 両親・独身の弟も同居している。弟は、引きこもりで、介護含めて家のことは一切に何もしない。親がいなくなったあと、弟をどうしたらよいのか不安である。弟は社会が全部敵だと思っている。(A氏)
- 実家の持ち家で、母と姉と3人暮らし。母は、やや認知症が入っている。姉は、留学関係の仕事で正規で働いている。コロナ禍で休職となっている。「子供部屋おばさん」と呼ばれるが、自分はまさにそのとおり。住む家には困っていないが、老後に備えて貯金を貯めている。預金を減らさないこと、健康でいることが一番大事だと感じる。(B氏)
- 父を一人で介護している。非正規では、休んでしまうとお金が減ってしまうし、介護休暇を取ると言える雰囲気でもないため、難しい。(C氏)
- 結婚を考えているパートナーがいる。(D氏)
- 現在は、実家で母と二人暮らし。母は小さいころ自分に迷惑をかけたと感じているため、自由にさせてくれている。今は何も言われない(E氏)
- 関東出身。一人っ子で、両親との関係は良好といえば良好。両親が年を取ることは不安に感じている。(G氏)

＜不安や不満など＞

- 貯金を切り崩して生きているため、不安は大きい。命に定年制があればいいが先は見えない。これから生活できるのか。年金も少ない。誰も見てくれない。(A氏)
- 面接をいくつ受けても事務職は絶対無理と言われる。資格ではなく、実務経験が問われる。(A氏)
- 女性雇用が叫ばれているが、非正規から正規職になるのは、事務職も研究職もハードルが高い。転換できる仕組みはあるが間口が狭い。若い人も「私なんて・・・」とあまりチャレンジはしていない。(B氏)
- 夫を3年前に亡くしており、一人で生きていくにもご飯を食べられない。(C氏)
- 格差がだいぶ広がっていると感じる。非正規をなくそうとか、同一労働・同一賃金を言いつつも、現状は達成できているのは一部の会社。その背後にはたくさんの女性が支えている。(C氏)
- 独身に対する不安がある。今は周りの友人は独身が多いが、もし、周りの友人が結婚していき、ひとりぼっちになったらと思うと不安。ただし、焦りにも波があり、現状のように周りに独身が多いととまあいいかと思ってしまう。(F氏)
- 10年後の家族の不安はある。姉は結婚しており、親の面倒を見ることができるのは自分だけのため不安。(F氏)
- 中卒だと、仕事も見つかりづらく、転職に苦労するのが目に見えているので現状の変えづらさを感じる。履歴書に中卒とは書けない。ただし、改めて高卒認定を取得するか問われたら、職を探す以外では困ることではないため、取得しないと思う。(F氏)

＜今後のこと・夢＞

- 働くことは好きだが、正社員はもういい。(A氏)
- もしお金を残せるなら、寄附したり、子どもたちと一緒に遊べる老人ホームに入居したい。(B氏)
- ファイナンシャルプランナーや社会保険労務士などがあると給与ベースが高いのでチャレンジしてみたい。定年も70歳までで資格があると強い。(C氏)
- 3年が満期となる派遣法については改悪だと感じている。その時に派遣社員の限界を感じた。元々法学部出身で、司法書士の資格を取って、独立を考えている。(D氏)
- PC、ビジネスマナーなどを学びたい。最初の会社では、研修がなく、しっかりマナーを習ったことがない。(E氏)
- 夢を持つことによって夢以外の可能性をつぶしている気がする。1つの夢を追いかけるのは今の時代に合っていないと感じる。柔軟な未来を考えるのが今の時代に合っている。(E氏)
- 違う職種になるために資格をとりたい。ネイルの資格やパソコン検定など。できれば気軽に軽い気持ちで始めたいが、どの資格もお金がかかってしまうのがネック。OLに憧れてやってみたいが、パソコンが全くできないので落とされたことがある。本格的じゃなくてもいいけど試してみたい。(F氏)
- 家庭を持ちたい。これまでにチャンスはあったかもしれないが、当時は友達が多かったため家庭に入るより自由を選びたかった。今思えばあの時結婚しておけばよかったと思う。特に今はコロナ禍で、周りの夫婦が仲良く家族で過ごしている様子を聞くと、そう感じるようになった。落ち着きたい。(F氏)
- 30歳までには結婚したい。子どもも1～2人欲しい。郊外でもいいから副業できるスペースがとれる一軒家に住みたい。(G氏)

＜困難の乗り越え方＞

- 境遇が似ていないと苦労は分からない。子育て世代とかに自分の悩みを話しても分かち合えない。(A氏)
- 法テラスなど専門家までいくと敷居が高いので、気軽に行ける法学部の無料相談などあればいい。自分が気が付けなかったことをアドバイスしてもらいたい。(B氏)
- 1年弱くらい引きこもりのときもあった。正規職を探そうと思っていたが、うまくいかなかった。引きこもりの本もたくさん読んだ。そこで、とにかく外に出なければと思った。仕事自体は嫌いじゃないので、派遣でもいいからと思って外にでたことが良かった。(B氏)
- 愛犬を亡くしてすぐにコロナが始まり、精神的に参っていた。前職の同僚が話を聞いてくれたり、コロナ禍でも家に様子を見に来てくれたりメッセージをくれてとてもありがたかった。12年ずっと一緒だった犬なので、とにかく家族がいなくなり、生きる理由を見いだせずにいた。(C氏)
- 金銭面ではすぐに支援ができるわけではないと思うが、人が話を聞いてもらうだけでも違うため、そうした支援があると良い。自分はどん底だった時スーパーのレジの人とたわいもない一言の話をしたときに救われた。それだけなんだと思う。(C氏)
- 困難があると、落ち込むが立ち向かっていく。インターネットで、情報を集めて、今何をしなければ考えて、行動する。自分を客観的にみて考える。(D氏)
- ラジオをつけて好きな音楽を聴くと回復する。(E氏)

- 友達はいないが、仕事仲間はある。仕事仲間の中に、腹を割って話せる人が何人かいる。コロナ禍では、同じ個人事業主として頑張っている人がいると思い、励みになった。(G 氏)

＜行政の支援について＞

- 何にしてもお金がいる。生計が建てられるくらいのお金が必要。(A 氏)
- 民生委員はいるが、実際は必要なレベルまではやりきれていない。もっと、よりパーソナルな部分まで面倒見てくれる、アウトリーチしてくれる人として、公的な支援があるとよい。マンション暮らしでは誰とも話せない。(A 氏)
- 相談したくても、行政書士・弁護士などは敷居が高い。気軽に司法制度を使えるような仕組みがあれば良い。(A 氏)
- 子育て世代への支援は手厚いが、独身で、子供は育てていないものの、親を2人も看ている人もいる。シングル〇〇になるのではないか。(A 氏)
- 役場に行けば、ハザードマップなどもみられるが、元から知らない人には届かない。自分を取りに行くのではなく、何かしら与えてもらえる方がよい。デジタルよりは、紙がよい。(A 氏)
- 今は、時間がないため利用はできないが、時間ができれば習い事などしてみたい。(A 氏)
- 行政にどこまで頼っていいのかわからない。自己責任と言われると違うとまでは言い切れない。普通のルートを辿る人への支援はあるように感じるが、そこから一步外れると支援がない。しかし、現実には、普通のルートを辿れない人は多くいて、外れる人が特殊ではないのではないか。外れたときのセーフティーネットも人によって本当に異なる。きめ細かい支援が必要ではないか。(B 氏)
- 生活保護はハードルが高い。生活保護の相談に行くまでに手助けする窓口などもう一段階あってほしい。「こういう状況の場合はこういった手段がある」といった案内をしてほしい。(B 氏)
- 数か月だけでもいいから、貸付制度があると良い。さらに、住む場所は重要で、家族で泊まれるシェアハウスやホテル。さらに職の斡旋まで一緒にやってくれると良い。(B 氏)
- 今の仕事を続けながらステップアップできるような講座があると良い。(B 氏)
- 発信はしていると思うが、我々の目についていない。市のHPにも用がないとなかなかいかない。(C 氏)
- 自身の年代でもスキルを高めたい希望はあるため、そういった支援があるといい。若い人向け、エルダー向け、シニア向けなど、均等な支援をしてほしい。(C 氏)
- 働くシングル女性への支援をしてほしい。40歳以上のシングルには何の支援もなく自分で何とかするしかない。若い人や子どものいる人に比べて、何もなく腹立たしい。年齢別の就業支援が必要。(D 氏)
- 生活支援（食料に代わる何かがもらえる、家賃補助、職の斡旋など）(E 氏)
- 子供がいる人だけの10万円支援は、「なぜ？」と感じる。自分で望んで生んでいるのに。子供を産む余裕があるのに。子供を持たない人でも困っている人は多くいる。(E 氏)
- スキルアップ（役に立つ職業訓練、就職に直結するスキル）(E 氏)
- コロナの給付金が、母子家庭にはあるのに、独身世代にはないのが気になっている。平等に全世帯に給付金を配布してほしい。(F 氏)
- もし自分が病気になった場合は、家族に相談したり加入している保険でやりくりできたらいいなと

考えている。行政が何かしらの支援をしていることを知らなかった。今困っているというわけではないが、お金はもらえるなら欲しい。(F氏)

- 生理用品の設置は実施してほしい。以前、生理現象なのに何故生理用品を自分で買わないといけなのかという記事を見て、そう言われればそうだと共感した。そういう小さな支援をしてほしい。(F氏)
- 支援の場所としては、暇だなと感じた時にふらっと立ち寄り、ちょっと聞いてよ！と世間話できるような場所であれば利用したい。(F氏)

＜支援の対応日時＞

- 講座などは、夜間（18：30～や 19：30～）がよい。ただし人によって異なるので、日中も夜間も両方あると良い。(B氏)
- もう少し夜の時間帯や土日などに相談できる窓口が月 1 回でもいいのであるといい。今回のように自宅でもオンラインで相談できるようなものがあるといい。(C氏)
- 土日祝日、匿名での対応もあるとよい。LINE での対応があるとよい。(D氏)
- 行政の支援を利用するなら、土日祝なら終日利用したい。金曜の夜などでもよい。平日は次の日の仕事があるので基本的に直帰したい。どんな職業の方も行けるように時間帯などを幅広に設定してほしい。(F氏)

ウィズコロナにおける女性を取り巻く就労と生活に関する課題と女性の支援策について

(1) 女性のライフステージの状況

今回の調査結果から名古屋市の女性のライフステージの状況をまとめてみる（P125 図表参照）。

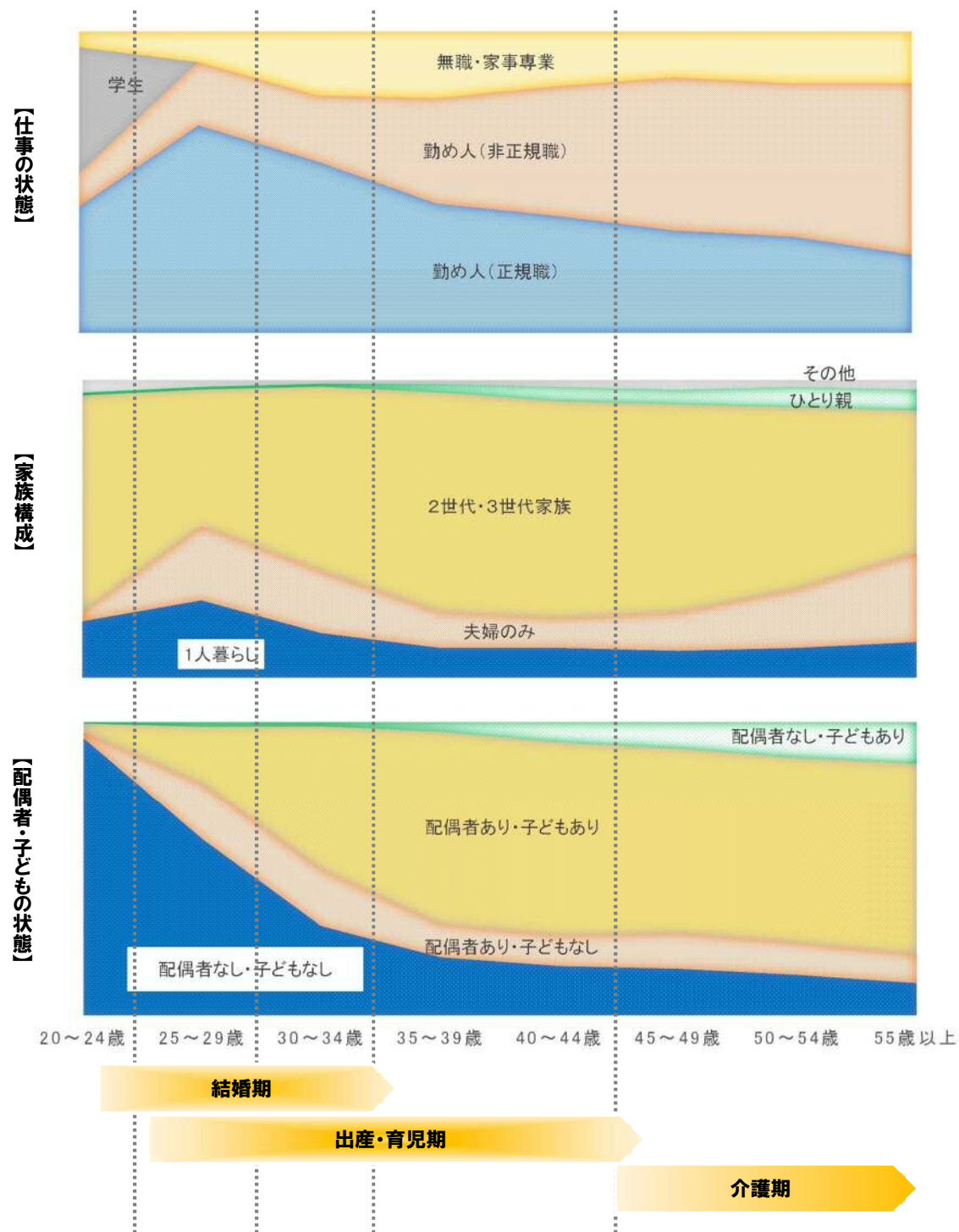
仕事の状態は、いわゆるM字カーブと言われるように、子育て期の25～34歳の「勤め人」の比率はやや低く、その後35歳以上で高くなる傾向はある。M字の底は浅いが、その内訳は大きく異なっている。「勤め人（正規職）」は25～29歳をピークに年齢が上がるにつれて減少し続け、代わりに「勤め人（非正規職）」の比率が上がることによって推移している。

家族の状況は、2世代・3世代家族が大半を占め、1人暮らしは、25～29歳が最も高く、35歳以上では、ほぼ一定の比率で推移している。

配偶者と子どもの状況をみると、「配偶者なし・子どもなし」は年齢が上がるにつれて比率が下がっているものの、年齢が上がっても比率が一定あることがわかる。

図表からは、上述したような、仕事の状態や家族構成、配偶者・子どもの状態による、おおまかな名古屋市の女性の主流なライフコースを読み取ることができる。他方で、主流なライフコースとは異なる人、あるいは、主流なライフコースをたどってきたものの、途中で主流とは異なるライフコースに変更した人、また、一見主流なライフコースには見えるものの、実態は葛藤を抱えながら生活している人など、当然、個人によって就労と生活の実態及び課題は様々である。つまり、主流なライフコースを想定した上での支援だけでは、支援が必要な人を見落とすことにつながりかねない。そこで、女性を取りまく多様な実態を想定しながら、支援を検討していく必要があると考える。

図表 女性のライフステージの状況（仕事・家族・配偶者と子ども）



（２） 仕事

女性の仕事

女性の仕事の状態は、女性全体では、正規職の勤め人が 42%、非正規職の勤め人が 31%、無職・家事専従が 12%である。業種は「医療・福祉」「卸売業・小売業」が多く、このコロナ禍で仕事の状態が変化した人は 25%と 4 人に 1 人であった。仕事に変化した人は、38%が非正規職の勤め人になり、「医療・福祉」「飲食サービス業」「サービス業（他に分類されないもの）」といった新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた業種へと転職している。

今回の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた業種は、元々非正規職で働く女性が多いといわれており、今回の調査では雇用調整や就業調整をされている人が多いことを裏付ける結果となっている。

非正規職・子どもなし・シングルの場合は、変化があった人は 45%とかなり高く、飲食サービス業」「卸売業・小売業」で、「接客・販売」が高いことから新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた業種での変化であることがわかる。

非正規職

非正規職を選択している理由として、女性全体では、「自分の都合に合わせて働ける」「勤務時間や労働日数が少ないから」「子育てを優先」といった家事や育児と仕事を両立するために積極的に選択している理由が挙げられている。

一方、非正規職・子どもなし・シングルをみると、「自分の都合に合わせて働けるから」とともに、「正規職として働ける会社がなかったから」も高くなっており、消去法的に非正規職を選択していることもうかがえる。さらに、非正規職を継続している理由では、「年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」「自分の経歴では正規職の仕事を探しても採用されないと思うから」といった正規職に就きたいと思っているものの、“諦め”の意見も高くなっている。また、仕事での不安として「雇用継続の不安」も高くなっていることから、年齢に関わらず、雇用が不安定な非正規職から正規職へ転換できる制度や支援、非正規職であったとしても安心して働き続けられるための制度や支援が求められている。

（３） 生活

生活の満足度をみると、女性全体では「満足」が 62%、「不満」が 31%であった。非正規職・子どもなし・シングルでは「満足」50%、「不満」42%と、全体に比べて満足が 12 ポイント減少し、不満が 11 ポイント上昇している。

生活の変化意向は「変えたい」が女性全体では 60%に対して、非正規職・子どもなし・シングルでは 70%と 10 ポイント高くなっている。

生活の不安要素として「将来や老後の生活」「自身や家族の健康」「家計」といった項目は共通して高いが、非正規職・子どもなし・シングルでは、同項目は特に値が高く、加えて、「住まい」についても不安項目として挙げられている。

新型コロナウイルス感染症拡大の生活への影響

新型コロナウイルス感染症拡大の生活への影響を見ると、女性全体では「家事」「育児」「が高くなっている」「自分の時間が減った」14%、「ストレスが増えた」42%といった意見もあり、家事や子育てを担う女性の負担が増えていることがわかる。

さらに「配偶者（パートナー）との関係が良くなった」8%がある一方で、「配偶者（パートナー）との関係が悪くなった」5%といった意見もあり、家庭内での人間関係が変化していることも明らかとなった。

また、「人との交流機会が減った」ことをプラスにとらえる人が13%いる一方で、「孤独を感じた」も16%あり、人によってさまざまなとらえ方がされていることも明らかになっている。

経済的負担

新型コロナウイルス感染症拡大の影響として「生活費」の負担が増えたという意見が高く上がっている。女性全体に比べて非正規職・子どもなし・シングルはさらに高くなっている。雇用調整を受け、就業日数や就業時間が減少し、収入の減少がある中で生活費の負担が高まったことが推察される。

もともと収入や貯蓄に余裕がない中で、生活費の負担感増は、心理的なゆとりのなさにもつながっていく。困難な状況乗り越えていく、あるいは、将来のことを考えるためには、収入の安定は欠かせない。住まいや生活費、仕事、育児や介護といった個人が抱える諸課題について、寄り添いながら支援できる体制作りが必要である。

（４）まとめ

困りごとを持つ人へのアプローチ

困りごとの相談相手としては、女性全体では「配偶者」「親」「友人」といった身近な人が挙げられている。専門家や専門的な窓口等は1～3%程度とかなり低い。一方で、「相談できる相手はいない」が、女性全体は6%、非正規職・子どもなし・シングルでは18%であり、年齢が上がるにしたがって高くなっている。さらに、利用したい支援に「相談窓口」「同じ立場の人の交流の場」が挙げられている。身近に相談相手がいらない人に対応した気軽に相談や話ができる場所が求められている。

支援情報の提供や使用ツールの検討

名古屋市への期待は、「仕事のスキルアップにつながる支援」、「職業訓練や資格取得等ステップアップにつながる支援」「子育て支援」「健康に関する講座」への期待が高い。一方で、「特にない」の比率も高い。

今回のアンケート調査でも、調査協力依頼時に市の相談窓口や情報などを添付するなどして、情報を届けた。ヒアリング調査時に確認をすると、個人宛に届けられるものに情報が付加されていることを評価する声も聞かれた。様々な機会を通じて、必要とする人が情報を獲得

できるよう、情報発信をする必要がある。

相談窓口などの手段として、若い世代は「LINE やチャット等での1対1の文字のやり取り」が高く、年配の世代では「対面」「電話」での意向が高かった。情報を伝えたい対象によって、ツールを使い分けることも必要である。

また、対応時間については、平日夜間や土日祝日の午前午後を希望する意見が多かった。特に仕事を持つ人、非正規職に就いている人には平日日中のみの対応では利用できないという声が聞かれた。

就労に関する支援

就労に関する支援は、本市をはじめ、ハローワーク等様々な機関での取り組みがあるが、若い世代向けの支援が多い。他方、非正規職での就労者は、先行きへの不安もあり、スキルアップへの意欲も高くあるが、年齢が上がるにしたがって、新しい業種、職種への転換が難しくなり、採用も困難になっていくという実態が確認できた。資格の取得や年齢やニーズに応じたきめ細やかな講座の開催等の就労支援が求められている。

若い世代で、非正規職で働く人は、正規職への転換意向を持ちながら、早々に諦めてしまっている状況もある。長期的なキャリア形成をめざせるように、当事者に寄り添いながら支援していくことも重要である。

生活に関する支援策

今回の調査では、生活での不安の中でも家計や生活費といった経済的な課題が多く上がっている。ヒアリング調査でも、生活費の不安がある場合、心のゆとりがなくなり、不安感が増大する、明日のこと、将来のことが考えられないという声も聞かれた。

経済的な安定、住まいをはじめとする生活の基盤が安定していれば、明日のこと、将来のことを考え、行動を起こすことができる。

非正規職・子どもを持たない・シングルの方のヒアリングでは、問題を一人で抱え込んでいる状況にある方もいた。何気ない会話が息抜きになったという意見も聞かれた。同じような立場の人同士で話ができる、気軽に立ち寄れる場を設け、併せて、そこからさらに具体的な支援へとつないでいく必要がある。

業種、職種により異なる影響を考える

梶山女学園大学 非常勤講師 乙部由子

1. はじめに

2020年1月15日に、国内初の新型コロナウイルス感染者が発生した。日本では、新型コロナウイルス感染症の以下、「新型コロナ感染拡大」とする）を防止するために、緊急事態宣言の発令、対人接触機会の軽減、飛沫感染防止等、様々な対策がとられ、行動指針が示された。その結果、多くの産業において労働者が過剰となり、非正規雇用者の削減が行われた。総務省の「労働力調査（2020年）」によれば、雇用者1月あたり平均の前年同月差（2020年6月から12月）をみると、「宿泊業、飲食サービス業」で働く女性の人員削減率はマイナス18.0と、もっとも高かった。

名古屋市は、令和3年度に市内に居住する満20歳以上60歳未満の女性を対象に、「ウィズコロナにおける女性の生活・就労等実態調査」を行い、特に非正規雇用で働く子どもを持たないシングル女性の実態を把握することも目的の1つとして、実施した。

本稿では、「非正規職で働く子どもを持たないシングル女性」（以下、「非正規職・子どもなし・シングル」とする）について検討する。

調査内容が、多岐にわたるなか、「新型コロナ感染拡大」防止に向けた対策において、仕事に関して、何か変化があったならば、どのような変化があったのかを取り上げる。なぜ、仕事に関することなのかといえば、働いて収入を得ることは、イコール生きていくために必要なことであり（生命維持のためには、食することが必要であり、食を得るためには、その媒介物である貨幣、つまりお金が必要である）、仕事を奪われることは、生きていくための重要な手段を奪われることにつながると考えるからである。仕事について、どのような変化があったのかを詳細に検討した上で、今後、必要な支援を考察する。

2. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置・対策の影響

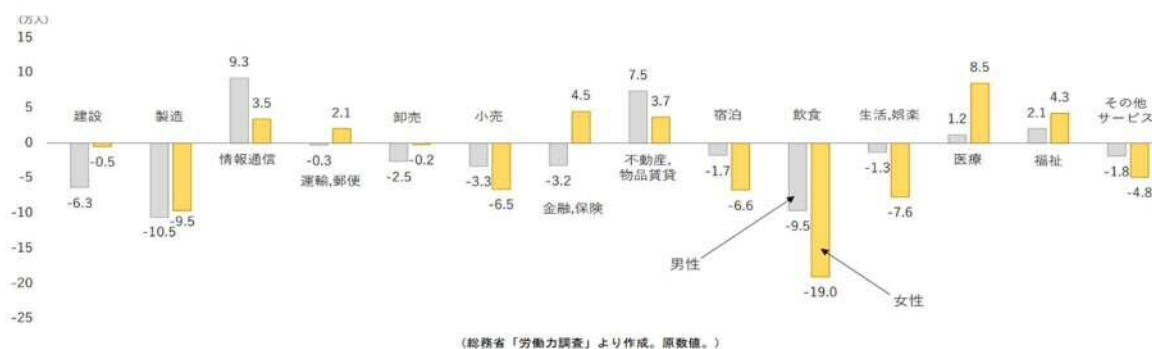
私たちの生活は、「新型コロナ感染拡大」防止措置・対策のために、今まで社会の常識とされていた多くのことが変化した。人々の生活は、「ニュー・ノーマル」といわれる新たな生活様式に準じた生活、行動変容を求められた。これまでの生活パターンを新たに、それも自身の意志というよりも外からの要因（国からの要請）で変更を迫られた。はじめは、誰もが戸惑いながらも自身の感染リスクを低減するために、行動を変えた。日常生活のなかにおける行動変容のなかで、人々の生活にとって重要なのは、仕事に関することであり、仕事における様々なこともできるだけ変更した（出勤者7割削減、大人数での会議の削減、寡食等）。

なかでも、人々が生きていく、生活していくために必要な仕事をして賃金を得ることに対する行動制限は、経済的に大きな打撃を与えた。多くの企業は、国からの要請を受けて、社員の出勤を減ら

し、代わりに在宅勤務を推奨した。だが、内閣府の調査（2021）によれば、在宅勤務ができたのは、一部のものであり、それは正規、管理職、専門職であるという。たとえば、エッセンシャルワーカーといわれる仕事（看護師、保育士、介護関係等）では、在宅勤務が難しく、緊急事態宣言の発令中も出勤することになっていた。まだ、仕事があるものはよいが、特に「飲食サービス業」の場合、営業自粛を要請されたため、仕事をする事自体に制限がかけられた。もちろん、休業に伴い従業員の給与が削減された場合、その補填として様々な給付金（雇用調整助成金、新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金等）が支給される。だが、給付対象者は、ある程度の条件があり、すべての人に給付がいきわたるわけではない。

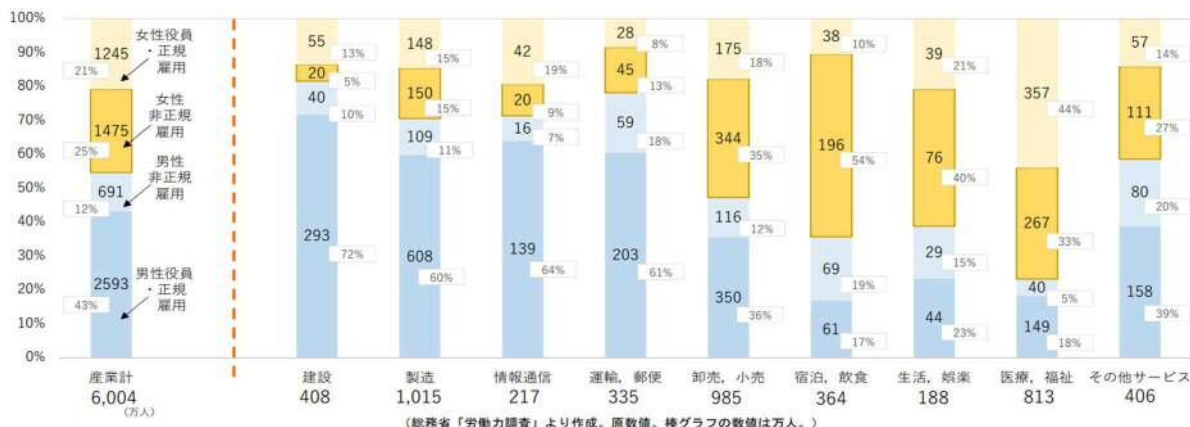
また、多くの産業では、「新型コロナ感染拡大」防止措置・対策のために、前年度と比較して雇用削減状態に陥った（表1）。特に、非正規、「飲食サービス業」で働くものは、そもそも女性雇用者の割合が高く、非正規の割合も高いという2つの傾向が重なり、非正規、女性が大きな打撃を受けた（表2）。そのため、「新型コロナ感染拡大」防止措置・対策の影響を大きく受けたのは、非正規の女性であるといわれるのは、このような現状があるからだ。

図表 産業別就業者の前年同月差（2020年4月から2021年2月の一月あたりの平均）



出所：内閣府（2021）『コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書』。

表2 産業別雇用者の男女別・雇用形態別の割合（2019年）



出所：内閣府（2021）『コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書』。

3. 「非正規職・子どもなし・シングル」の特徴

名古屋市が行った調査では、調査対象者 5254 名のうち 288 名（5.5%）が「非正規職・子どもなし・シングル」として該当した。本節では、その特徴を先に提示し、のちに、雇用に関する問題を中心に学歴別、年齢別にみていくこととする。学歴別、年齢別に検討する理由として、学歴を取り上げるのは、調査対象者全体及び「非正規職・子どもなし・シングル」では、大卒者がもっとも多いからである。また、年齢別に考える理由は、新たに仕事を求める際、これまでの仕事の経験以外に、「年齢」という変えられない壁が、暗黙のうちにみえない大きな壁として影響を与えるからである。以上のような理由から、以下、検討する。

調査回答者の年齢は、20 歳代から 30 歳代前半が多く、学歴は、大卒者（33.2%）がもっとも多い。家族構成は、核家族が半数近くを占め（54.5%）、年収は、「200～300 万円未満」（34.4%）、貯蓄額は「10 万円未満」（28.5%）がもっとも多い。

「新型コロナ感染拡大」前の雇用形態は、ほとんどが非正規（84.0%）であり（正規が 5.6%）、「飲食サービス業」（17.8%）、「卸売業・小売業」（12.1%）で働き、職種は「事務職」（33.7%）、「接客・販売」（32.2%）で働く者が中心だった。

対して、新型コロナ感染拡大後の雇用形態は、同様に非正規（86.3%）であり、「飲食サービス業」（23.0%）、「サービス業（他に分類されないもの）」（14.2%）で働き、職種は「事務職」（39.8%）、「接客・販売」（27.4%）で働く者が中心だった。「新型コロナ感染拡大」防止措置・対策の影響を受け、非正規率が上昇し、「飲食サービス業」で働く者が増加した。

4. 雇用はどうか変わったか～学歴別、年齢別に業種、職種を考える～

コロナ禍において、国からの営業自粛要請を受け、特に、「飲食サービス業」で働く人は、正規・非正規を問わず、その対象となった。

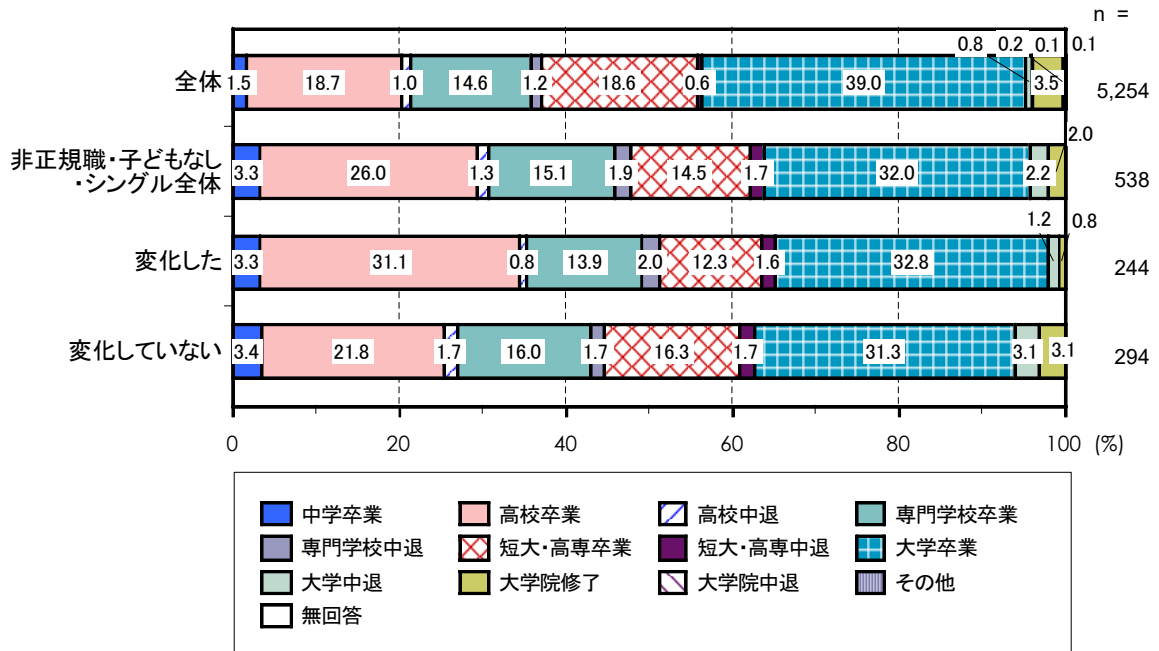
そのことから、「非正規職・子どもなし・シングル」に該当する回答者のうち、仕事が「変化した」のは 45.4%で、半数近くが変化していた。このことは、本調査全体の結果から考えると（「変化した」が 24.6%、「変化してない」が 75.4%）、大きな特徴であると考ええる。

では、仕事が変わったといってもどのように変化したのか。変化した結果として、どのような業種、職種で働いているのかを学歴別、年齢別に検討する。

4-1 学歴別特徴

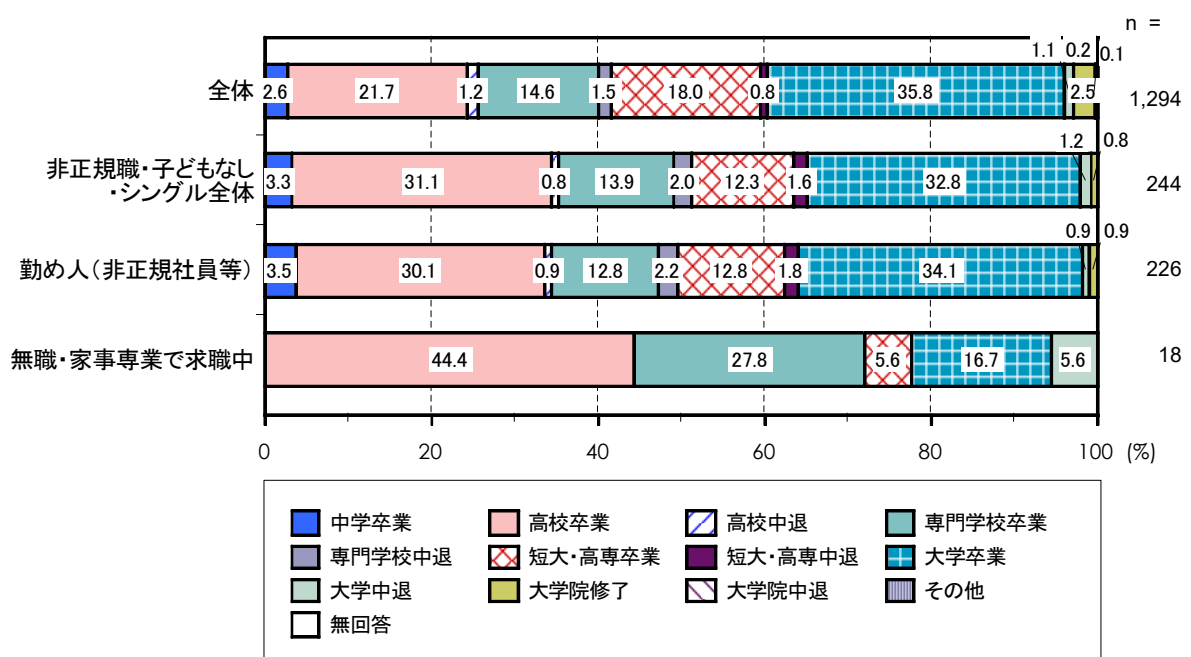
新型コロナ感染拡大時期に仕事の状態が変化した人の学歴をみると、「大学卒業」が32.8%、「高校卒業」が31.1%、「専門学校卒業」が13.9%、「短大・高専卒業」が12.3%、「中学卒業」が3.3%と、大卒、高卒で半数以上を占めた。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの新型コロナウイルス感染症拡大時期の仕事の状態の変化別「学歴」



新型コロナ感染拡大後に非正規となった人の学歴の割合は、「大学卒業」が34.1%、「高校卒業」が30.1%、「短大・高専卒業」が12.8%、「専門学校卒業」が12.8%、「中学卒業」が3.5%であり、同様に、大卒、高卒で半数以上を占めた。

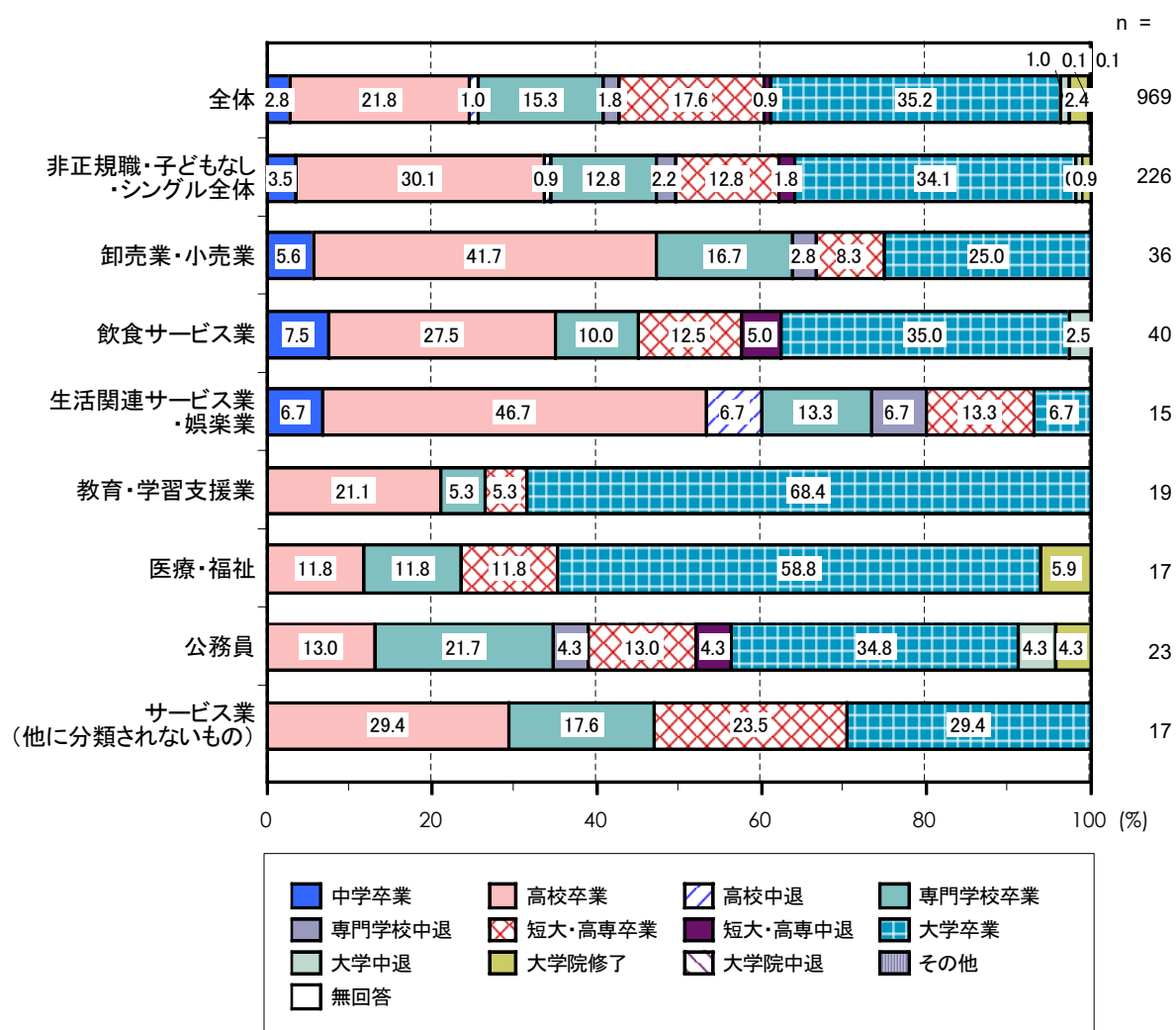
図表 非正規職・子どもなし・シングルの新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の状態別「学歴」



変化した仕事の業種は、「飲食サービス業」17.7%、「卸売業・小売業」15.9%、「公務員」10.2%であった。

内訳の学歴をみると、『飲食サービス業』は、「大学卒業」が35.0%、「高校卒業」が27.5%、「短大・高専卒業」が12.5%、「専門学校卒業」が10.0%、「中学卒業」が7.5%、『卸売業・小売業』は、「高校卒業」が41.7%、「大学卒業」が25.0%、「専門学校卒業」が16.7%、「短大・高専卒業」が8.3%、「中学卒業」が5.6%、『公務員』は、「大学卒業」が34.8%、「専門学校卒業」が21.7%、「高校卒業」が13.0%、「短大・高専卒業」が4.3%、「中学卒業」が4.3%、「大学院修了」が4.3%であった。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の業種別「学歴」



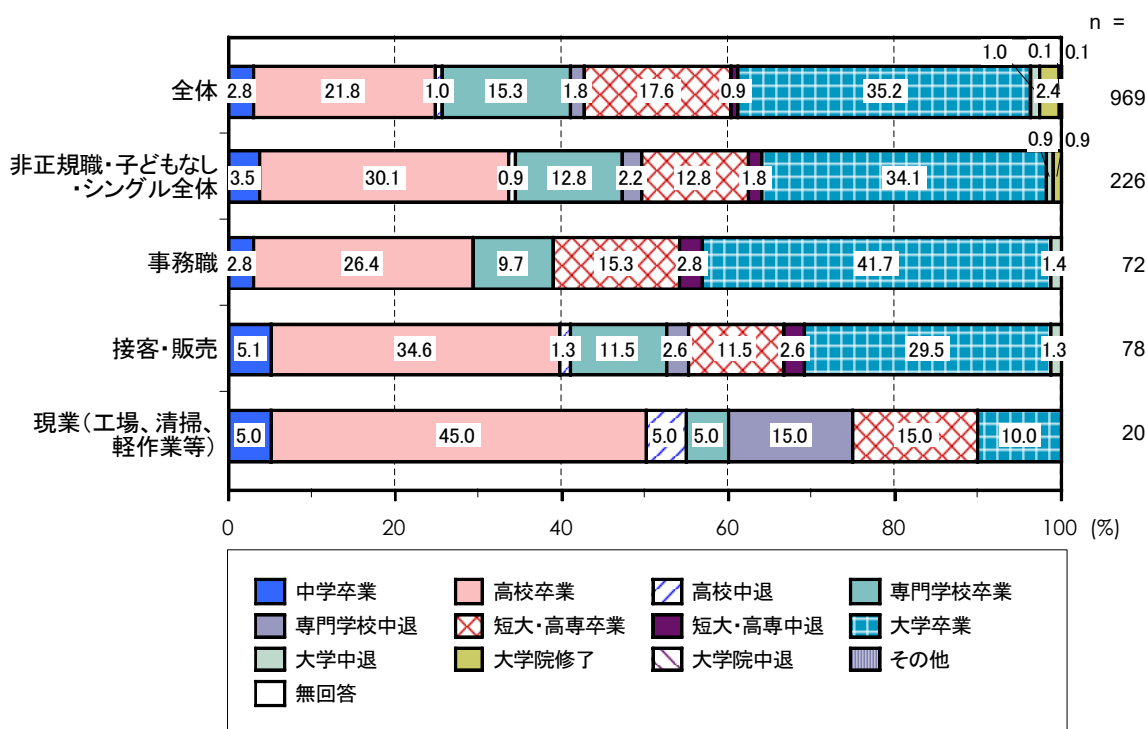
※サンプル数が15以上の業種のみ表記

変化した仕事の職種は、「接客・販売」が34.5%、「事務職」が31.9%、「現業（工場、清掃、軽作業等）」が8.8%であった。

内訳を学歴別にみると、『事務職』は、「大学卒業」が41.7%、「高校卒業」が26.4%、「短大・高専卒業」が15.3%、「専門学校卒業」が9.7%、「中学卒業」が2.8%、『接客・販売』は、「高校卒業」が34.6%、「大学卒業」が29.5%、「短大・高専卒業」「専門学校卒業」がともに11.5%、「中学卒業」が5.1%、『現業（工場、清掃、軽作業等）』は、「高校卒業」が45.0%、「短大・高専卒業」「専門学校中退」がともに15.0%、「大学卒業」が10.0%、「中学卒業」「専門学校卒業」とともに5.0%であった。

このように、コロナ前後における仕事の変化は、同じ業種、職種でも、学歴によって割合が異なっていた。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の職種別「学歴」

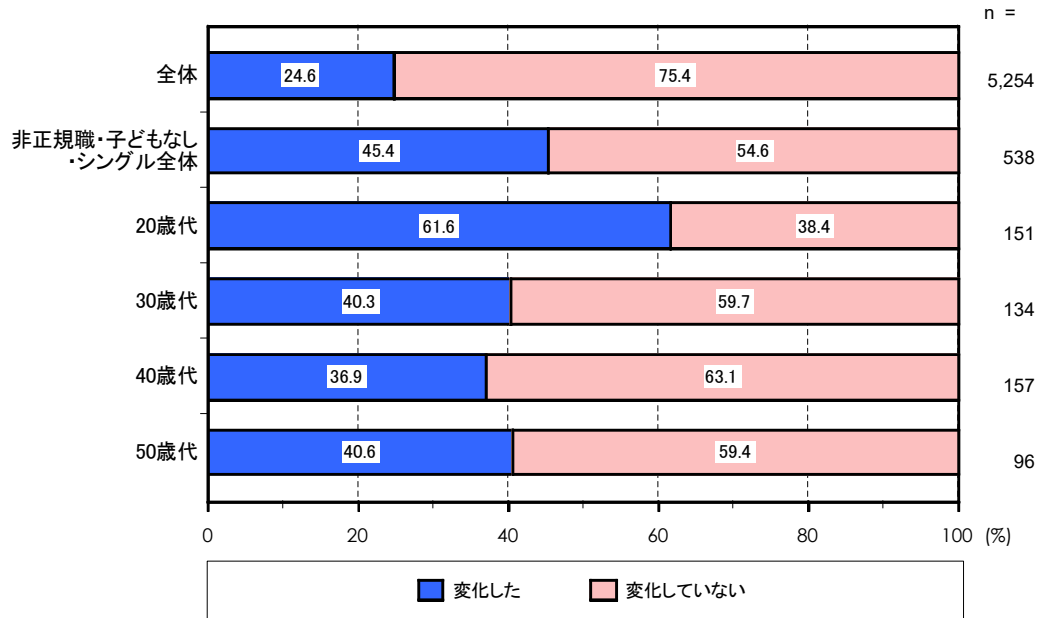


※サンプル数が20以上の職種のみ表記

4-2 年齢別特徴

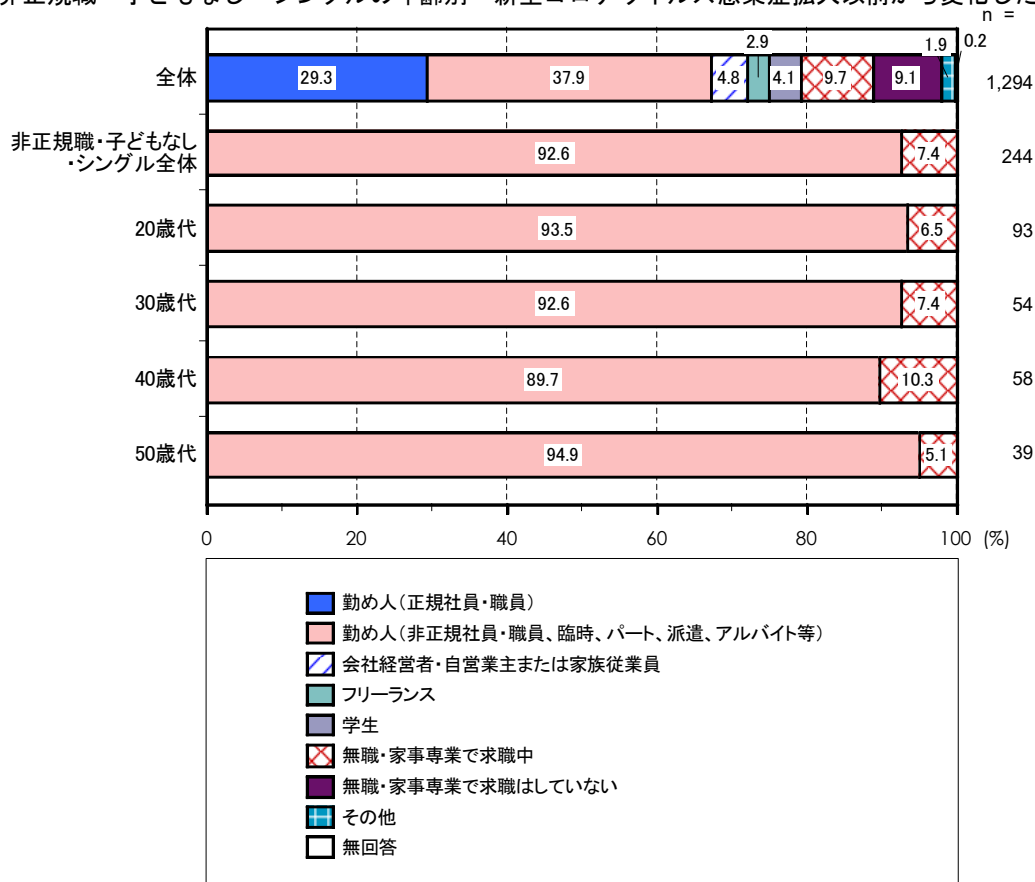
新型コロナ感染拡大以前から変化した仕事を年齢別にみると、変化したのは、20 歳代が 61.6%、30 歳代が 40.3%、40 歳代が 36.9%、50 歳代が 40.6%となっており、20 歳代の割合が 6 割程度と最も高い。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前からの仕事の状態の変化」



コロナ後に非正規となった割合は、50 歳代が 94.9%、20 歳代が 93.5%、30 歳代が 92.6%、40 歳代が 89.7%となっており、50 歳代が若干であるが高かった。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の状態」

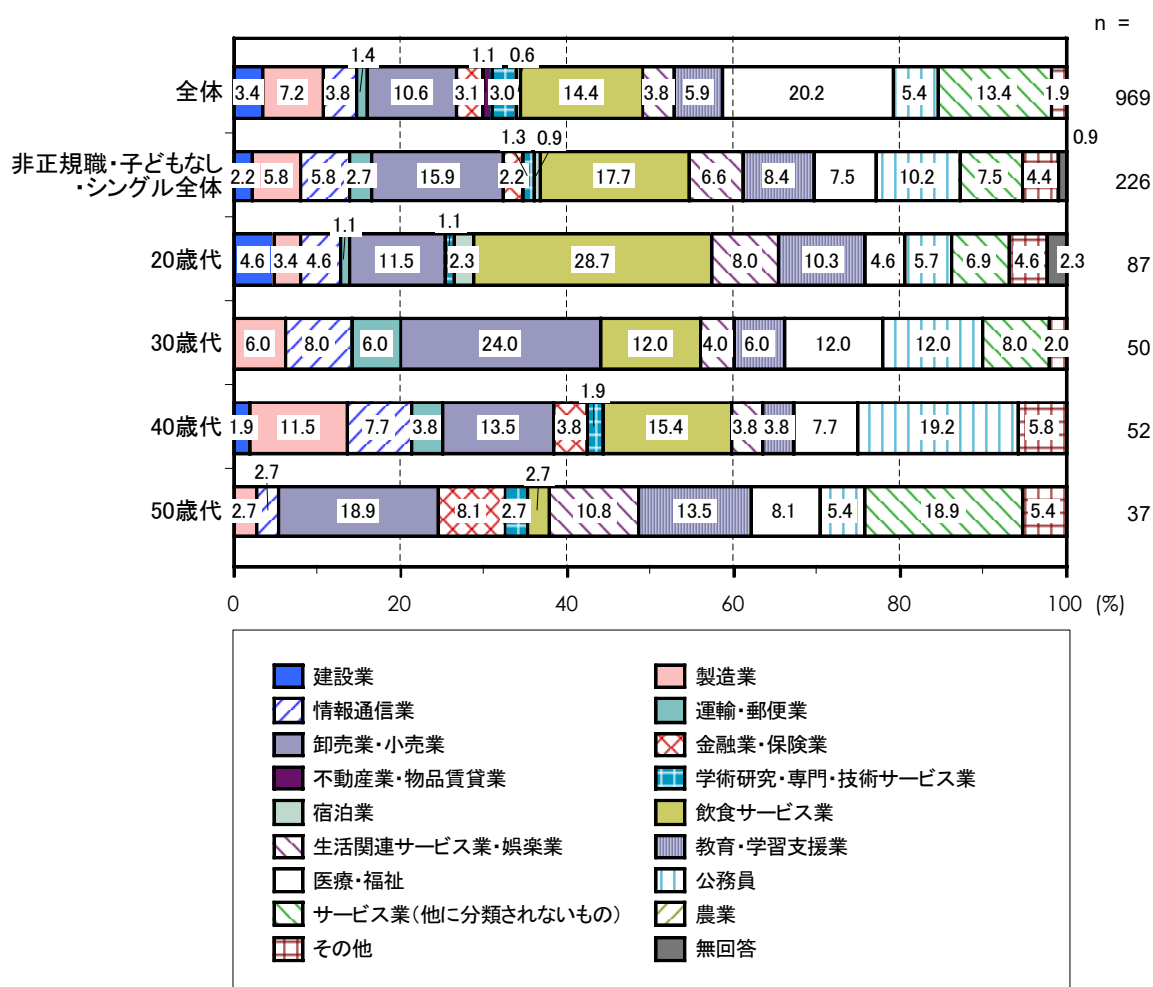


先に確認したように、変化した仕事の業種は、「飲食サービス業」がもっとも多く、次が「卸売業・小売業」、「公務員」と続く。

変化した業種を年齢別にみると、20歳代では、「飲食サービス業」が28.7%、「卸売業・小売業」が11.5%、「教育・学習支援業」が10.5%、30歳代では、「卸売業、小売業」が24.0%、「飲食サービス業」、「医療・福祉」「公務員」各12.0%、40歳代では、「公務員」が19.2%、「飲食サービス業」が15.4%、「卸売業、小売業」が13.5%、「製造業」が11.5%、50歳代では、「サービス業（他に分類されないもの）」「卸売業、小売業」が各18.9%、「教育・学習支援業」が13.5%、「生活関連サービス業・娯楽業」が10.8%であった。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別

「新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の業種」

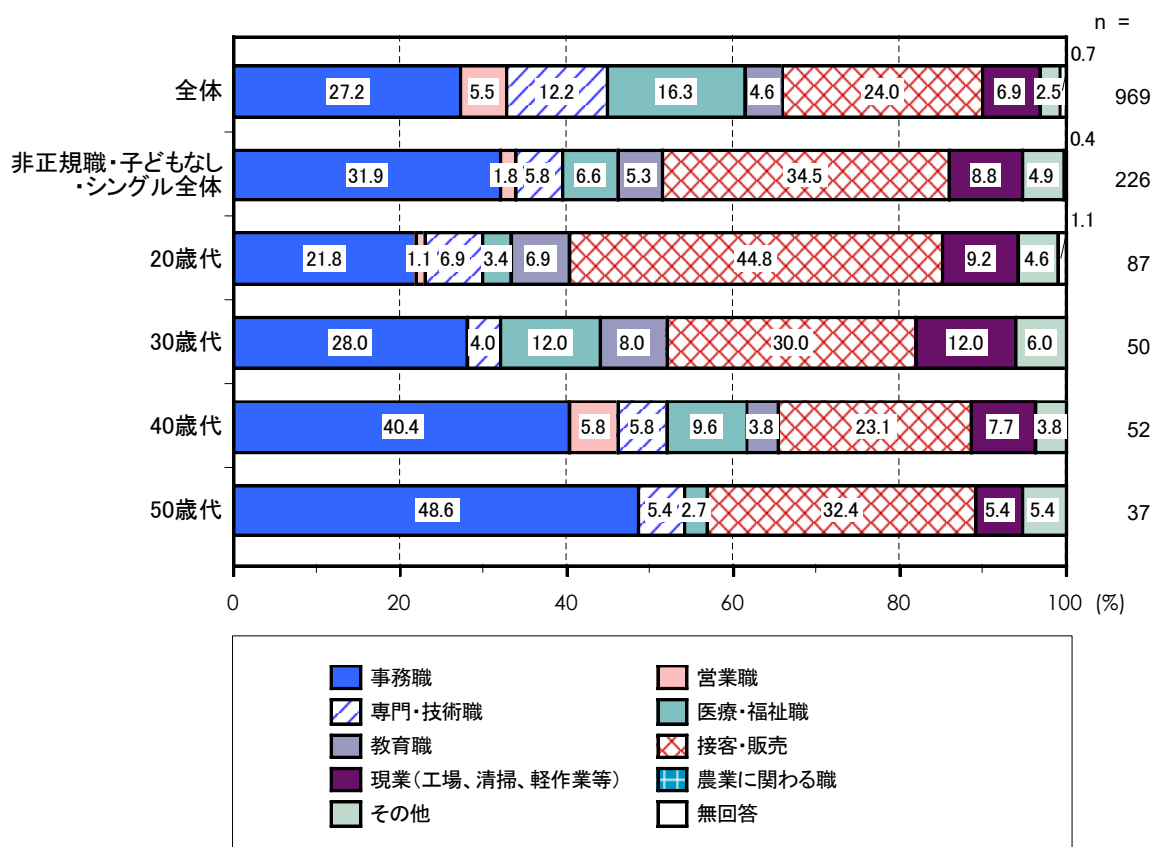


変化した仕事の職種として、「接客・販売」が34.5%、「事務職」が31.9%とこれらで大部分をしめた。内訳を年齢別にみると、20歳代では、「接客・販売」が44.8%、「事務職」が21.8%、30歳代では、「接客・販売」が30.0%、「事務職」が28.0%、40歳代では、「事務職」が40.4%、「接客・販売」が23.1%、50歳代では、「事務職」が48.6%、「接客・販売」が32.4%であった。

このように、コロナ前後における仕事の変化は、同じ「非正規」という雇用形態であっても、各年代によって、どのような仕事に就くのが異なっていた。

図表 非正規職・子どもなし・シングルの年齢別

「新型コロナウイルス感染症拡大以前から変化した後の仕事の職種」



5 考察

5-1 明らかになったこと

調査結果から明らかになることとして、「非正規職・子どもなし・シングル」に該当する回答者の多くは、「飲食サービス業」で働く女性であった。そこで働くものは、大卒女性が半数近くを占めており、このことは、特筆すべきことである。また、働く年代も20歳代がもっとも多かった。

学歴別に検討すると、どの学歴においても「飲食サービス業」で働くものが一定数おり、各学歴における、バッファーとして機能してきた。いいかえれば、「飲食サービス業」は、学歴を問わず、働きたいと思ったときに、仕事に就きやすい業種、職種であることだった。そのため、一時的に、また、すぐに仕事に就きたい人が仕事を得やすかったのである。

逆にいえば、「飲食サービス業」は、「新型コロナウイルス拡大」防止措置・対策のために、雇用削減の影響を大きく受けたが、「飲食サービス業」以外にどのような業種で働くのかが、学歴別にみた特徴だと考えられる。たとえば、大卒の場合、「飲食サービス業」とほぼ近い割合で「教育・学習支援業」で働いていた。

働く職種をみても、中学卒業以外は、「接客・販売」、「事務職」のどちらかで働いていた。職種に関しては、その割合が異なるだけであり、大卒、高卒は事務系が多かった。

つぎに、年齢別に検討すると、50歳代以外では、「飲食サービス業」で働くものが一定数おり、各年代において、先にみた学歴別と同様に、年齢を問わず、働きたいと思ったときに、仕事に就きやすい業種であることだった。さらにいえば、50歳代を除く各年齢で「飲食サービス業」で働くものがあるが、20歳代(36.5%)は、30歳代(18.2%)、40歳代(14.3%)の倍近い割合だった。飲食店は、基本的に立ち仕事であり、繁忙期や営業時間内に来店客の繁閑があり、体力が必要となるため、若い年代の方が仕事の選択肢として考えやすい。

そのことを象徴するように、職種別にみた場合、「接客・販売」、「事務職」のどちらかで働くもので大部分を占めていたが20歳代、30歳代は、「接客・販売」で働く人の割合が多く、反対に、40歳代、50歳代になると、働く業種はさまざまであるが、「事務職」として働く人が半数近くを占めた。

5-2 なぜ、飲食店、事務系なのか

「飲食サービス業」では、「新型コロナウイルス拡大」防止のための取組として、営業時間の短縮、酒類提供の自粛要請を受けた提供メニューの制限等を設けた。そのため、そこで働く人たちは、雇用削減等の影響を大きく受けた。

もともと、「新型コロナウイルス拡大」前においても、「飲食サービス業」では、女性の非正規雇用率が高かった。また、人手不足でもあり、その人手不足解消のために、外国人技能実習生を雇用することを認めており、人工知能技術を駆使して、メニュー提供や繁忙期の人員配置を変える等の工夫をして、対応していた。加えて、仕事がしたいと思ったならば、すぐ、仕事に就くことが可能であった職種でもある。仕事をするにあたり、公的な資格が必要なわけではないため、職に就きやすかった。

このような背景もあり、本調査でも「非正規職・子どもなし・シングル」に該当する回答者が「飲食サービス業」で雇用が失われても、また、同じ「飲食サービス業」で新たな仕事についていたのである。

「事務職」は、業種、職場により異なるが、「新型コロナウイルス拡大」防止のために、対人接触機会

を減らし、企業は、できる限りあらゆる仕事を電子化させたいと考え、そのためには、パソコン操作ができ、即戦力として働くことが可能な人材を求めた。特に現在 50 歳代の人材は、Windows95 が発売され、その後、企業における ICT 化が加速化された 2000 年代の初めあたりに、20 歳代後半から、30 歳代にその情報機器操作技術をある程度習得し、キャリアを構築していたこともあり、そのような情報機器操作が可能なものは、仕事があった。

また、「新型コロナ感染拡大」の影響を受け、各企業にとって、できるだけコストのかかる人件費を抑えたいという考えがある。正規は、正当な理由なくして解雇は難しいため、希望退職を募ったり、人員配置を変えたりして対応する。だが、利益を生み出さない事務職は、決められたことを正確にこなす人材が求められる。主として、企業で正規雇用された人材を一定数配置し、その補助として、実践力のある派遣社員が求められたり、パートが雇用されたりする。

このような結果からみると、年齢別に就いている業種・職種が大きく異なるため、年齢別に適した支援が求められると考える。

6 どのような支援が必要なのか

6-1 高学歴（大卒）女性への支援

調査対象者全体でみても大卒が多く、「非正規職・子どもなし・シングル」も同様に大卒が多く、特に、20 歳代は、正規、非正規を問わずそうであった。

文部科学省の「学校基本調査」（令和 2 年）によれば、高等学校卒業後の進学先として、大学（学部）では、男性が 51.7%、女性が 48.3%と男性の方が進学率が高い。だが、名古屋市に限定したものをみると、男性は 48.2%、女性は 51.8%と女性の進学率が高い。この傾向は、2007 年以降、継続している。つまり、全国統計では、大学進学率は男性の方が高いが、名古屋市に限れば、女性の方が継続して高いことだ。

高学歴女性が多いという事実があるにもかかわらず、「新型コロナ感染拡大」防止措置・対策により、仕事に変化した結果、非正規になったものは、学歴でいえば、大卒者がもっとも多く、年齢も 20 歳代がもっとも多いことがこの調査の結果から明らかにされた。

一般的にいえば、各家庭で子どもを大学に進学させる理由の 1 つに、「（よい会社に）就職するため」があると思うが、大学に進学させ、卒業したにもかかわらず、このような状態であることは、本末転倒であるし、女性活躍という視点から考えても、人材活用がうまくできていないことの象徴であるといえる。

高橋康二の研究によれば（労働政策研究・研修機構 2021）、「宿泊業、飲食サービス業」で働く人の特徴は、女性（68.4%）、年齢の若い人（20～34 歳：36.8%）、非大卒（75.8%）、生計維持者以外（51.6%）、非正規（68.4%）であるという。また、先に見た文部科学省の「学校基本調査」によれば、女性の大学卒業後の就職先を業種別にみると、「医療、福祉」が 19.2%、「卸売業、小売業」が 14.6%、「情報通信業」が 9.3%であり、「宿泊業、飲食サービス業」は 3.3%と産業大分類中 9 番目になる。

公的統計から明らかなことは、全国的にみれば、大卒女性の「飲食サービス業」で働く人は決して多い方ではなく、名古屋市に関しても同様ではあるものの、だからといって、対象者への支援をなお

ざりにしてよいということではない。

なお、名古屋市内にある複数の大学のキャリア支援センターに卒業生へのキャリア支援について聞き取りしたところ、卒業生からの相談等は受けつけるが、大学にくる求人は、あくまで、新卒者が中心であるため、どちらかといえば、再就職に有益な機関やインターネットサイトの紹介等が中心であるということだった。いいかえれば、卒業生への就職支援は、出身大学というよりも、行政側の支援が求められることになる。

6-2 「非正規職・子どもなし・シングル」に向けた年齢別支援の必要性

2007 年施行の改正雇用対策法では、人材募集時に特別な事情がある場合を除き、募集対象年齢を明記することを禁止している。だが、実際には、求人票に募集対象とする年齢を掲げないだけであり、採用側では、ある程度の年齢のものを採用したいという腹づもりをしている企業もある。そのため、年齢別の支援も必要かと思われる。

調査結果で確認したように、20 歳代、30 歳代は、「飲食サービス業」で「接客・販売」で働く人が多く、40 歳代、50 歳代になると、働く業種はさまざまであるが、「事務職」として働く人が半数近くを占めた。

このような結果からみると、年齢別に就いている業種、職種が大きく異なるため、年齢別に適した支援が求められる。20 歳代、30 歳代は、まだ、年齢的には若いため、行政からの支援は多数あるが、中高年層への支援は、国の施策を活用する場合に、就職氷河期世代（35 歳以上 55 歳未満）を対象とする募集というものが、期間限定ではあるが存在し、それ以外は、特段、際立つものがない。

誰にでも平等に訪れる年齢を重ねることが、雇用の場面において、不利ではなく有利になるような政策が望まれる。

7. おわりに

本稿では、「非正規職・子どもなし・シングル」の特徴を学歴別、年齢別という観点から考察した。

「新型コロナ感染拡大」防止に向けた対策は、非正規で働く、女性に大きな打撃を与えた。特に、飲食サービス業で働く非正規の女性は、雇用削減の対象となった。

だが、詳細に検討すると、「非正規職・子どもなし・シングル」は、20 歳代の大卒が多く、女性活躍推進という点から考えても、再度、将来の見通しが立ちやすいような働き方に再チャレンジできるような環境を整え、さらに、豊富なキャリアが構築されている中高年層への手厚い支援が行政の役割の 1 つだと考える。

参考文献

- ・総務省（2021）「労働力調査」.
- ・高橋康二（2021）「飲食・宿泊業労働者の職業生活」労働政策研究・研修機構.
- ・内閣府（2021）「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書」.
- ・名古屋市（2020）「令和 2 年度 学校基本統計（学校基本調査結果）」『名古屋の学校』.
- ・文部科学省（2020）「学校基本調査」.
- ・労働政策研究・研修機構（2021）『コロナ禍における非労働力人口の動向に係る特徴について — リーマンショック前後・コロナ初期・夏以降の直近 4 ヶ月間の比較 —』.

資料編

ウィズコロナにおける女性の生活・就労等実態調査 協力をお願い

日頃は市政にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策にも様々なご協力をいただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動の自粛や「新しい生活様式」の普及等、市民のみなさまの生活にも様々な影響や変化があったことと存じます。特に、女性の生活や就業状況については、様々な影響や課題が指摘されているところです。

そこで、名古屋市では、女性の生活や就業に新型コロナウイルスの感染拡大がどのように影響したのか、どのような支援が求められているのかについて実態やご意見をおうかがいするアンケート調査を実施することとしました。

調査対象は、市内にお住いの20歳～59歳までの女性の中から、無作為に20,000人を選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

ご回答いただいた内容は統計的に処理し、個人情報に関しては公表することは一切ありません。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

【ご回答にあたってのお願い】

- 調査はインターネットを利用して実施します。下記よりIDとパスワードを入力してご回答ください。

回答はこちらから➡



※うまく読み込めない場合は、
「名古屋市男女」と検索して、
名古屋市男女平等参画推進室 HP
よりアクセスしてください。

ログイン ID	«ID01»	パスワード	«PW»
---------	--------	-------	------

- 封筒に宛名のあるご本人がお答えいただくようお願いします。
- ご本人が記入できない場合は、ご本人と相談のうえご家族の方がご回答ください。
- 調査は8月17日（火）までです。

調査に関するお問合せは下記までお願いします。

【実施機関】

名古屋市スポーツ市民局市民生活部男女平等参画推進室

電話：052-972-2234 ※月曜日から金曜日の午前8時45分から午後5時30分まで

【調査委託先】

一般社団法人地域問題研究所

電話：052-232-0022 e-mail：ngydj817@chimonken.or.jp

回答の注意書

- ・新型コロナウイルス感染症拡大以前とは、おおむね 2020 年 1 月以前のことを指しています。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大以降とは、おおむね 2020 年 1 月以降のことを指しています。

・回答時間の目安は、10～15 分です。ご協力お願いいたします。

・回答いただく数は、指定がある場合は（ ）の数に従って回答ください。

特に指示がない場合は、あてはまるもの全てお選びください。

例：（1つ）→1つだけ回答ください。

・回答いただいた選択肢によっては、自動で、次の設問が増えたり減ったりする場合があります。

(1) あなた自身について

Q1. あなたの年齢をお答えください。(1つ)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 20～24歳 | 5. 40～44歳 |
| 2. 25～29歳 | 6. 45～49歳 |
| 3. 30～34歳 | 7. 50～54歳 |
| 4. 35～39歳 | 8. 55歳以上 |

Q2. あなたの住んでいる区をお答えください。(1つ)

- | | | | |
|--------|--------|---------|---------|
| 1. 千種区 | 5. 中村区 | 9. 熱田区 | 13. 守山区 |
| 2. 東区 | 6. 中区 | 10. 中川区 | 14. 緑区 |
| 3. 北区 | 7. 昭和区 | 11. 港区 | 15. 名東区 |
| 4. 西区 | 8. 瑞穂区 | 12. 南区 | 16. 天白区 |

Q3. あなたの最終学歴をお答えください。在学中の場合は卒業と同じ扱いでお答えください。(1つ)

- | | | | |
|---------|------------|------------|-----------|
| 1. 中学卒業 | 4. 専門学校卒業 | 7. 短大・高専中退 | 10. 大学院修了 |
| 2. 高校卒業 | 5. 専門学校中退 | 8. 大学卒業 | 11. 大学院中退 |
| 3. 高校中退 | 6. 短大・高専卒業 | 9. 大学中退 | 12. その他 |

Q3.1 Q3「12.その他」_最終学歴

Q4. あなたには現在、配偶者がいますか。(1つ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 配偶者がいる(事実婚を含む) | 3. いない(離別した・死別した) |
| 2. いない(結婚したことはない) | |

Q5. あなたは子どもがいますか。別居している場合も「いる」に含めてください。(1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. いる | 2. いる |
|-------|-------|

Q6. あなたと同居している方をお答えください。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 1人暮らし(同居している人はいない) | 7. 孫 |
| 2. あなたの親 | 8. 配偶者(パートナー)の親 |
| 3. 兄弟・姉妹 | 9. その他の親戚 |
| 4. 祖父母 | 10. 友人など親戚以外の人 |
| 5. 配偶者(パートナー) | 11. その他 |
| 6. 子ども | |

Q6.1 Q6「11.その他」_同居している方

Q7. 現在、あなたが介助・介護しなければならない人はいますか。

1. いる(同居)
2. いる(別居・電車や自動車で30分未満)
3. いる(別居・電車や自動車で30分以上1時間未満)
4. いる(別居・電車や自動車で1時間以上)
5. いない

Q8. あなたの昨年の年収(税込)をお答えください。(1つ)

※世帯収入ではなく、あなたご自身の年収をお答えください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 50万円未満 | 6. 300～500万円未満 |
| 2. 50～103万円未満 | 7. 500～800万円未満 |
| 3. 103～130万円未満 | 8. 800～1000万円未満 |
| 4. 130～200万円未満 | 9. 1000万円以上 |
| 5. 200～300万円未満 | 10. 収入はない |

Q9. あなたの貯蓄額をお答えください。(1つ)

※世帯の貯蓄額ではなく、あなたご自身の貯蓄額をお答えください。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 10万円未満 | 5. 300万円～500万円未満 |
| 2. 10万円～50万円未満 | 6. 500万円～1000万円未満 |
| 3. 50万円～100万円未満 | 7. 1000万円～1500万円未満 |
| 4. 100万円～300万円未満 | 8. 1500万円以上 |

Q10. あなたの世帯で、家計を主に支えている人をお答えください。(1つ)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. あなた | 4. 子ども |
| 2. 配偶者（パートナー） | 5. 家族と折半している |
| 3. 親 | 6. その他 |

Q10.1 Q10「6.その他」__家計を主に支える人

(2) 仕事について

Q11. 新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020年1月頃）のあなたの仕事の状態をお答えください。(1つ)

1. 勤め人（正規社員・職員）
2. 勤め人（非正規社員・職員、臨時、パート、派遣、アルバイト等）
3. 会社経営者・自営業主または家族従業員
4. フリーランス
5. 学生
6. 無職・家事専業で求職中
7. 無職・家事専業で求職はしていない
8. その他

Q11.1 Q11「8. その他」__コロナ前の仕事の状態

※限定条件1：Q11で1.2.3.4のいずれかに回答された就労者のみ表示

Q12. 新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020年1月頃）の、あなたの主な仕事の「業種」をお答えください。(1つ)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 建設業 | 10. 飲食サービス業 |
| 2. 製造業 | 11. 生活関連サービス業・娯楽業 |
| 3. 情報通信業 | 12. 教育・学習支援業 |
| 4. 運輸・郵便業 | 13. 医療・福祉 |
| 5. 卸売業・小売業 | 14. 公務員 |
| 6. 金融業・保険業 | 15. サービス業（他に分類されないもの） |
| 7. 不動産業・物品賃貸業 | 16. 農業 |
| 8. 学術研究・専門・技術サービス業 | 17. その他 |
| 9. 宿泊業 | |

Q12.1 Q12「17.その他」__コロナ前の業種

※Q11で1.2.3.4のいずれかに回答された就労者のみ

Q13. 新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020年1月頃）のあなたの主な仕事の「職種」をお答えください。(1つ)

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1. 事務職 | 6. 接客・販売 |
| 2. 営業職 | 7. 現業（工場、清掃、軽作業等） |
| 3. 専門・技術職 | 8. 農業に関わる職 |
| 4. 医療・福祉職 | 9. その他 |
| 5. 教育職 | |

Q13.1 Q13「9.その他」__コロナ前の職種																		
Q14. あなたの現在の主な仕事は、新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020年1月頃）から変化しましたか。（1つ） 1. 変化した 2. 変化していない																		
※Q14（職業の変化）で1（変化した）と回答された方のみ Q15. 現在、あなたの仕事の状態をお答えください。（1つ） 1. 勤め人（正規社員・職員） 2. 勤め人（非正規社員・職員、臨時、パート、派遣、アルバイト等） 3. 自営業主または家族従業員 4. フリーランス 5. 学生 6. 無職・家事専業で求職中 7. 無職・家事専業で求職はしていない 8. その他																		
Q15.1 Q15「8. その他」__現在の仕事の状態																		
※1：Q14（職業の変化）で1（変わった）と回答された方のみ ※2：Q15で1.2.3.4のいずれかに回答された方のみ Q16. 現在、あなたの主な仕事の「業種」をお答えください。（1つ） <table border="0"> <tr> <td>1. 建設業</td> <td>10. 飲食サービス業</td> </tr> <tr> <td>2. 製造業</td> <td>11. 生活関連サービス業・娯楽業</td> </tr> <tr> <td>3. 情報通信業</td> <td>12. 教育・学習支援業</td> </tr> <tr> <td>4. 運輸・郵便業</td> <td>13. 医療・福祉</td> </tr> <tr> <td>5. 卸売業・小売業</td> <td>14. 公務員</td> </tr> <tr> <td>6. 金融業・保険業</td> <td>15. サービス業（他に分類されないもの）</td> </tr> <tr> <td>7. 不動産業・物品賃貸業</td> <td>16. 農業</td> </tr> <tr> <td>8. 学術研究・専門・技術サービス業</td> <td>17. その他</td> </tr> <tr> <td>9. 宿泊業</td> <td></td> </tr> </table>	1. 建設業	10. 飲食サービス業	2. 製造業	11. 生活関連サービス業・娯楽業	3. 情報通信業	12. 教育・学習支援業	4. 運輸・郵便業	13. 医療・福祉	5. 卸売業・小売業	14. 公務員	6. 金融業・保険業	15. サービス業（他に分類されないもの）	7. 不動産業・物品賃貸業	16. 農業	8. 学術研究・専門・技術サービス業	17. その他	9. 宿泊業	
1. 建設業	10. 飲食サービス業																	
2. 製造業	11. 生活関連サービス業・娯楽業																	
3. 情報通信業	12. 教育・学習支援業																	
4. 運輸・郵便業	13. 医療・福祉																	
5. 卸売業・小売業	14. 公務員																	
6. 金融業・保険業	15. サービス業（他に分類されないもの）																	
7. 不動産業・物品賃貸業	16. 農業																	
8. 学術研究・専門・技術サービス業	17. その他																	
9. 宿泊業																		
※1：Q14（職業の変化）で1（変化があった）と回答された方のみ ※2：Q15で1.2.3.4のいずれかに回答された就労者のみ Q17. 現在、あなたの主な仕事の「職種」をお答えください。（1つ） <table border="0"> <tr> <td>1. 事務職</td> <td>6. 接客・販売</td> </tr> <tr> <td>2. 営業職</td> <td>7. 現業（工場、清掃、軽作業等）</td> </tr> <tr> <td>3. 専門・技術職</td> <td>8. 農業に関わる職</td> </tr> <tr> <td>4. 医療・福祉職</td> <td>9. その他</td> </tr> <tr> <td>5. 教育職</td> <td></td> </tr> </table>	1. 事務職	6. 接客・販売	2. 営業職	7. 現業（工場、清掃、軽作業等）	3. 専門・技術職	8. 農業に関わる職	4. 医療・福祉職	9. その他	5. 教育職									
1. 事務職	6. 接客・販売																	
2. 営業職	7. 現業（工場、清掃、軽作業等）																	
3. 専門・技術職	8. 農業に関わる職																	
4. 医療・福祉職	9. その他																	
5. 教育職																		
Q17.1 Q17「9.その他」__現在の職種																		

※1：Q14（職業の変化）で1（変化があった）と回答された方のみ

※2：Q15で2.（非正規）と回答された方のみ

※3：Q11で2.（非正規）と回答された方のみ

Q18. あなたが、非正規職になった理由をお答えください。

1. 正規職として働ける会社がなかったから
2. 病気や障がい等の健康面で正規職として働けなかったから
3. 勤務時間や労働日数が少ないから
4. 責任が少ないから
5. 組織や人間関係にしばらくしたくないから
6. 専門的な資格・技能を活かせるから
7. 非正規職の方がより多くの収入を得られるから
8. 自分の都合に合わせて働けるから
9. 他にやりたいことがあるから
10. 家計を補うため
11. 子育てを優先するため
12. 介護を優先するため
13. 家族や知人に紹介されたから
14. 新型コロナウイルス感染症の影響を受けたから
15. その他

Q18.1 Q18「15.その他」__非正規になった理由

※1：Q14（職業の変化）で1（変化があった）と回答された方のみ

※2：Q15で6, 7無職・家事専業）と回答された方のみ

Q19. 現在、あなたが、無職・家事専業になった理由をお答えください。

1. 勤務条件等が合う仕事がないから
2. やりたい仕事がないから
3. 働ける会社がないから
4. 病気や障がい等の健康面で働けないから
5. 働いていた会社から解雇・雇い止めをされたから
6. 働いていた会社が倒産・閉鎖したから
7. 新型コロナウイルス感染症の影響を受けたから
8. 組織や人間関係にしばらくしたくないから
9. 子育てのため
10. 介護のため
11. 結婚したことや配偶者（パートナー）が転勤となったため
12. 他にやりたいことがあったから
13. 働く必要がなかったから
14. その他

Q19.1 Q19「14.その他」__無職・家事専業になった理由

※Q11（コロナ前の就業形態）で 1.2.3.4 と回答された就労者
 and : Q14（職業の変化）で 2（変化はない）と回答された方
 or 限定条件 2 : Q16（職業の変化）で 2（変化した）と回答された方
 and : Q15（コロナ後の就業形態）で 1.2.3.4 でと回答された就労者

Q20. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたの働き方に変化はありましたか。

1. 就業日数が増えた
2. 就業日数が減った
3. 1日の就業時間が増えた
4. 1日の就業時間が減った
5. 在宅勤務（テレワーク）が導入された・増えた
6. 時差出勤が導入された・増えた
7. 自分の都合で仕事を休んだ・休んでいる
8. 会社の都合で仕事を休んだ・休んでいる
9. 就職した
10. 転職した
11. 兼業・副業をはじめた
12. その他
13. 特に変化はなし

Q20.1 Q20「12.その他」__働き方の変化

※Q11で2（非正規）かつQ14（職業の変化）で2（変化はない）と回答された方のみ

Q21. あなたが非正規職の仕事を続けている理由をお答えください。

1. 家族の扶養の範囲内で働きたいから
2. 仕事内容がやりたいことだから
3. 勤務条件に満足しているから
4. 人間関係に満足しているから
5. 家計が苦しいから
6. 正規職の仕事を探しているが採用されなかったから
7. 転職活動をする金銭的・時間的余裕がないから
8. 年齢的に正規職の仕事を探しても採用されないと思うから
9. 自分の経歴では正規職の仕事を探しても採用されないと思うから
10. 正規職に就けてもその後のキャリアを描けないから
11. その他

Q21.1 Q21「11.その他」__非正規職を続ける理由

※限定条件 1 : Q11（コロナ前の就業形態）で 1.2.3.4 でと回答された就労者
and : Q14（就業形態の変化）で 2（変化なし）と回答された方
or 限定条件 2 : Q14（就業形態の変化）で 2（変化なし）と回答された方
and : Q15（コロナ後の就業形態）で 1.2.3.4 でと回答された就労者

Q 2 2. あなたは、現在、仕事に関して困っていることはありますか。

1. 労働時間が長い
2. 労働時間が短い
3. 業務上の負担が大きい
4. 仕事の内容が自分に合わない
5. 収入が少ない
6. 昇進・昇格・昇給ができない
7. 補助的な仕事しかやらせてもらえない
8. 女性だけに決められた役割がある（掃除・お茶くみ等）
9. 職場や取引先との人間関係で困っている
10. 出産・育児についての職場の理解がない
11. 介護についての職場の理解がない
12. パワー・ハラスメント
13. セクシュアル・ハラスメント
14. 雇用継続（解雇・雇止め・会社の倒産・閉鎖）の不安がある
15. 教育・研修を受けたいが機会がない
16. その他
17. 特に困っていることはない

Q22.1 Q22「16.その他」_仕事の困りごと

Q 2 3. 上記の仕事に関する悩みや不安のうち、特に困っていることはどのようなことですか。よろしければ具体的にお書きください。

(3) 生活やご自身の健康について

Q24. 新型コロナウイルス感染拡大前に比べて、現在のあなたの負担が増えたものはありますか。

- | | |
|-------|---------|
| 1. 家事 | 4. 生活費 |
| 2. 育児 | 5. その他 |
| 3. 介護 | 6. 特にない |

Q24.1 Q24「5.その他」_コロナで負担が増えたもの

Q25. 新型コロナウイルス感染拡大後の生活の変化のうち、プラスに感じられることをお答えください。

1. 配偶者（パートナー）との関係が良くなった
2. 子どもとの関係が良くなった
3. あなたが介護している人との関係が良くなった
4. その他の家族との関係が良くなった
5. 自分の時間が増えた
6. 人との交流機会が増えた
7. 人との交流機会が減った
8. 生活のリズムが規則的になった
9. 運動するようになった
10. 貯蓄総額が増えた
11. ストレスが減った
12. その他
13. 特にプラスに感じられる変化はない

Q25.1 Q25「12.その他」_コロナでプラスの変化

Q26. 新型コロナウイルス感染拡大後の生活の変化のうち、マイナスに感じられることをお答えください。

1. 配偶者（パートナー）との関係が悪くなった
2. 子どもとの関係が悪くなった
3. あなたが介護している人との関係が悪くなった
4. その他の家族との関係が悪くなった
5. 自分の時間が減った
6. 人との交流機会が増えた
7. 人との交流機会が減った
8. 旅行や外出の機会が減った
9. 仕事や勉強に集中できなくなった
10. 生活のリズムが不規則になった
11. 運動不足になった
12. 貯蓄総額が減った
13. ストレスが増えた
14. 孤独を感じた
15. その他
16. 特にマイナスに感じられる変化はない

Q26.1 Q26「15.その他」_コロナでマイナスの変化

Q27. あなたが、現在の生活において不安に思っていることをお答えください。

1. あなた自身の健康
2. 家族の健康
3. 配偶者（パートナー）との関係
4. 家族（配偶者・パートナー以外）との関係
5. 友人との関係
6. 家計
7. 子育て
8. 介護
9. 将来や老後の生活
10. 住まい
11. ローン・借金
12. その他
13. 特に不安に思っていることはない

Q27.1 Q27「12.その他」_生活の不安

Q28. Q27 で、最も不安に思っていることはお答えください。よろしければ具体的にお書きください。

(4) 今後に向けて

Q29. あなたは、現在の生活に満足していますか。（1つ）

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. とても満足している | 3. やや不満である |
| 2. ある程度満足している | 4. とても不満である |
| | 5. どちらともいえない |

Q30. あなたが今、望んでいることをお答えください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 生きがいを見つけたい | 9. 転職したい |
| 2. 夢や目標を実現したい | 10. 正規職になりたい |
| 3. 人間関係を豊かにしたい | 11. 起業したい |
| 4. 結婚したい・パートナーと暮らしたい | 12. 少し休みたい・リフレッシュしたい |
| 5. 子どもがほしい・子育てしたい | 13. 自立したい |
| 6. 収入を増やしたい | 14. 住む環境を変えたい |
| 7. 資格を取得したい | 15. その他 |
| 8. 就職したい | 16. 特になし |

Q30.1 Q30「15.その他」_現在の望み

Q30-2.1

（Q34 で A9, 10, 11 を選んだ人）
→どのような仕事につきたいですか（記述）

Q30-2.2

（Q34 で A7 を選んだ人）
→どのような資格を取得したいですか。（記述）

Q31. あなたは、仕事も含め、現在のご自身の生活状況を変えたいと思いますか。（1つ）

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 変えたい | 3. 変えたくない（このままがいい） |
| 2. 変えたいけど、変えられない | 4. わからない |

(5) 女性に対する支援等について

Q32. あなたはこれまでに、次のような経験をしたことがありますか。

1. 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
2. 職場におけるマタニティ・ハラスメント
3. 年齢や結婚等の理由による退職勧奨
4. 就活ハラスメント
5. 配偶者（パートナー）や交際相手からの暴力被害（身体的・経済的・精神的・性的）
6. 上記以外の家族からの暴力
7. その他類似の経験
8. 上記のような経験をしたことはない
9. 答えたくない

Q32.1 Q32「7.その他の経験」__これまで経験したこと

Q33. あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大（2020年1月）以降で、生理用品の入手に苦労したことはありますか。

1. 入手できず苦労したことはない
2. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で生理用品が品薄だったため入手できないことがあった
3. 経済的な理由で入手できないことがあった
4. 親や兄弟姉妹に買ってもらえないことがあった
5. 配偶者（パートナー）や交際相手から生活費を自由に使わせてもらえず、入手できないことがあった
6. その他
7. 答えたくない

Q33.1 Q33「6.その他」__生理用品入手の苦労

Q34. あなたは、仕事や生活の困りごとについて相談できる相手はいますか。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 配偶者（パートナー） | 7. 職場や学校の相談窓口 |
| 2. あなたの親 | 8. 専門家（カウンセラー・医師など） |
| 3. 兄弟・姉妹 | 9. 行政の相談窓口 |
| 4. 配偶者（パートナー）の親 | 10. 支援団体 |
| 5. 友人 | 11. その他 |
| 6. 上司や同僚 | 12. 相談できる相手はいない |

Q34.1 Q34「11.その他」__相談相手

Q35. 名古屋市が行う支援として、あなたが利用してみたい、参加してみたいものをお答えください。 1. 仕事や生活、家庭等に不安がある際の適切な相談窓口 2. DVについての相談窓口 3. 家族関係に関する法律相談 4. 同じ悩みを持つ人同士が交流できる場 5. 仕事のスキルアップにつながるセミナー 6. ライフプランやキャリアプランについての相談窓口 7. 職業訓練や資格取得の支援 8. 企業や仕事とのマッチングの場 9. 新しい生活様式に対応した働き方についての講座等 10. 介護に関する支援 11. 子育てに関する支援 12. 女性の健康（思春期や妊娠、更年期等）についての講座 13. その他 14. 特にない								
Q35.1 Q35「13.その他」__利用したい支援								
Q36. 名古屋市が設置する相談窓口で、仕事や生活で抱えている悩みや不安を相談する際に、どのような方法で相談できるとよいと思いますか。 <table border="0"> <tr> <td>1. 対面</td> <td>5. LINE やチャット等の1対1の文字でのやりとり</td> </tr> <tr> <td>2. 電話</td> <td>6. Zoom 等のビデオ通話</td> </tr> <tr> <td>3. メール</td> <td>7. その他</td> </tr> <tr> <td>4. インターネットの掲示板</td> <td>8. 特になしわからない</td> </tr> </table>	1. 対面	5. LINE やチャット等の1対1の文字でのやりとり	2. 電話	6. Zoom 等のビデオ通話	3. メール	7. その他	4. インターネットの掲示板	8. 特になしわからない
1. 対面	5. LINE やチャット等の1対1の文字でのやりとり							
2. 電話	6. Zoom 等のビデオ通話							
3. メール	7. その他							
4. インターネットの掲示板	8. 特になしわからない							
Q36.1 Q36「7.その他」__相談ツール								
Q37. Q35のような支援をあなたが利用する場合、利用したい曜日や時間帯は、いつですか。 <table border="0"> <tr> <td>1. 平日の午前</td> <td>9. 土日祝日の午後</td> </tr> <tr> <td>2. 平日の午後</td> <td>10. 土日祝日の夜間</td> </tr> <tr> <td>3. 平日の夜間</td> <td>11. その他</td> </tr> <tr> <td>4. 土日祝日の午前</td> <td>12. わからない</td> </tr> </table>	1. 平日の午前	9. 土日祝日の午後	2. 平日の午後	10. 土日祝日の夜間	3. 平日の夜間	11. その他	4. 土日祝日の午前	12. わからない
1. 平日の午前	9. 土日祝日の午後							
2. 平日の午後	10. 土日祝日の夜間							
3. 平日の夜間	11. その他							
4. 土日祝日の午前	12. わからない							
Q37.1 Q37「7.その他」__利用したい日時								
Q38. 名古屋市の女性への支援について、その他、ご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。								

アンケート調査へのご回答・ご協力を誠にありがとうございました。

名前・メールアドレス入力 名古屋市では、今後の女性支援のあり方について、ヒアリング調査を実施する予定です。 ご協力いただける方は下記に連絡のとれるメールアドレスをご入力ください。 ヒアリング調査にご協力をお願いする方には、改めて事務局よりご連絡をさせていただきます。 事務局：名古屋市委託業者：一般社団法人地域問題研究所 ngydj817@chimonken.or.jp
--

コロナ禍における「女性のための総合相談」

～令和２年度コロナに関するアンケート調査・相談統計から～

令和２年４月、初めての新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が発出されて以来、私たちの生活は一変しました。イーブルなごや相談室もセンターの休館に伴い緊急の面接相談以外は電話相談に切り替えたり、延期するなどして対応し、相談員は交代制の勤務で電話相談を続けました。それから１年が過ぎ、ワクチン接種も始まりましたが、変異株の出現など感染の収束はまだ予断を許さない状況は続いています。

内閣府によるコロナ禍による影響についてのデータと分析により、女性がより困難な状況に置かれていることが明らかになりました。社会や家庭におけるケア役割が女性に片寄っていることや非正規で働く女性の割合の大きさなど、「非常時には日常の問題が浮上してくる」ということが、まさに今回のコロナ禍でも起こっています。

そこで、相談室への来談者やセミナー参加者をはじめ、区役所の社会福祉事務所、子ども・若者総合相談センター、仕事・暮らし自立サポートセンターなどの関係機関の協力を得て、それぞれの機関に来所された女性にコロナ禍の影響に関するアンケートを実施しました。２か月間で１２３人の女性の生の声が寄せられました。

また、相談室の「女性のための総合相談」にも様々なコロナ禍に関する相談が寄せられています。感染の不安をはじめ、夫や家族との関係に悩んだり経済的な見通しが見つからないなど、令和２年度に寄せられた総件数３,８１４件のうち、何らかのコロナによる影響があったという相談は５４７件にのぼりました。一人ひとりの女性の声に耳を傾けながら、通常の相談分類だけではなく、別の項目を用いて分類しその相談内容を可視化する試みと合わせて、相談から見たことを明らかにしておきたいと思います。

ご協力をいただきましたすべての方に感謝いたします。

令和４年２月

イーブルなごや相談室（名古屋市男女平等参画推進室）

コロナ禍の女性についての実態調査

1.調査の目的

イーブルなごや相談室に寄せられた相談だけではなく、より多くの女性からコロナ禍での状況を把握し、これからの相談室の事業に活かすために実施

2.調査期間：令和3年9月1日～10月31日

3.調査対象：女性

イーブルなごや相談室来談者、事業（セミナー等）参加者、イーブルなごや来館者の他、以下の関係機関等の利用者に協力を依頼

区役所「女性の悩みごと相談」、子ども・若者総合相談センター、ジョイナス.ナゴヤ、仕事・暮らし自立サポートセンター（名駅・金山・大曾根）、なごやジョブサポートセンター

4.調査方法

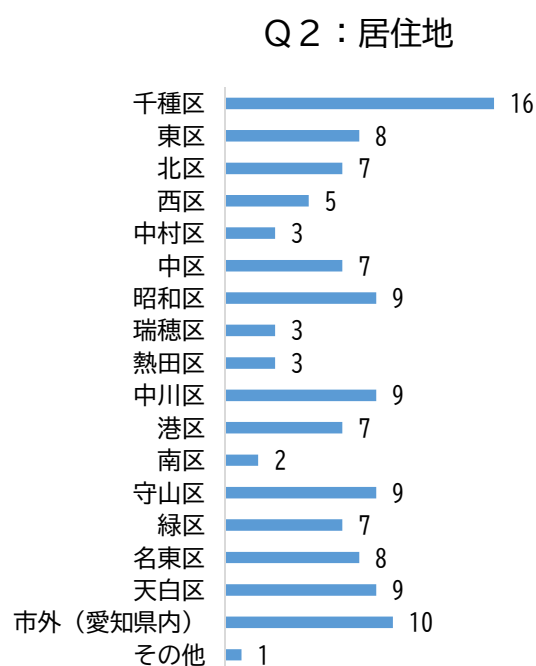
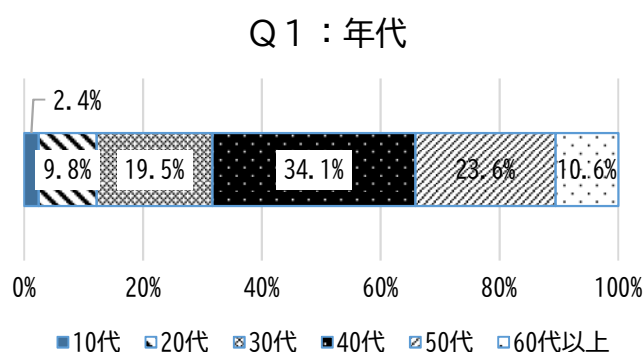
各施設利用者に対する記名式及びWEB調査

5.回答者数：123名

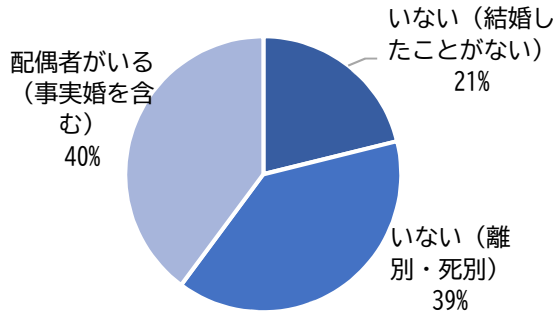
6.調査結果

<回答者の属性>

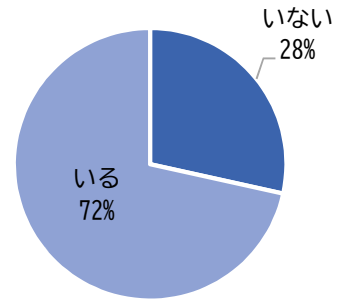
回答者の年代は30歳代～50歳代で全体のおよそ80%を占めています。



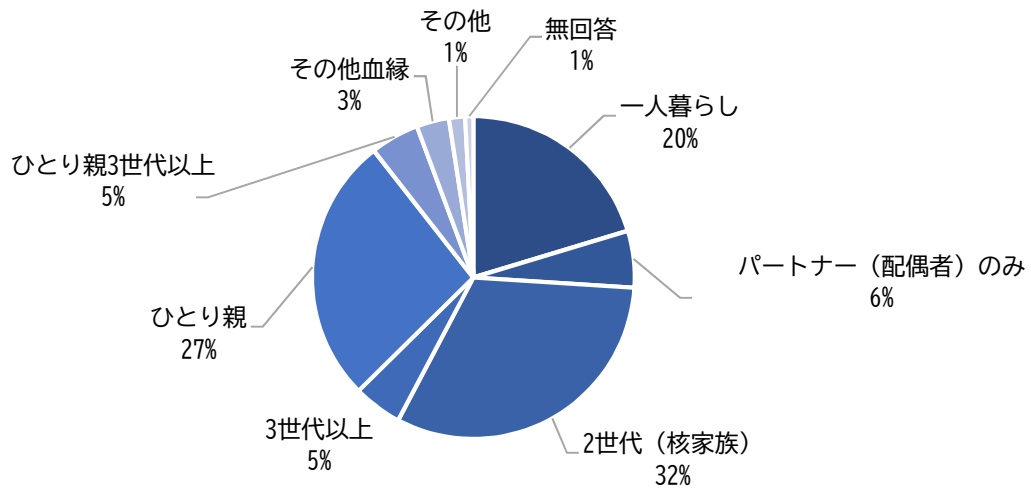
Q3：配偶者の状況



Q4：子どもの状況



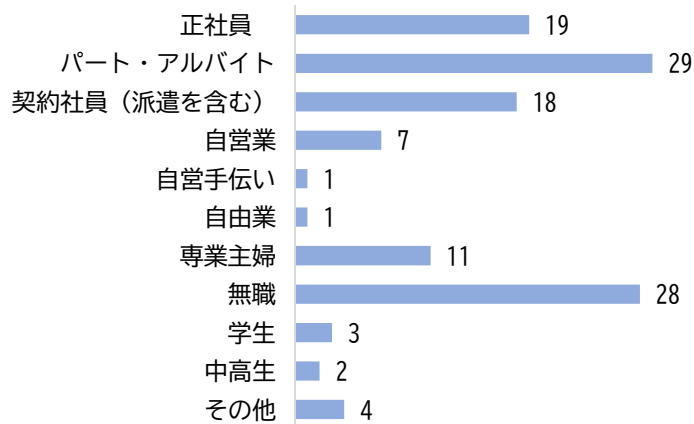
家族のかたち（類型）



*同居している家族を問う設問（Q5）の回答から、どのような家族のかたち（類型）なのかを示したものです

アンケートへの協力依頼した中にひとり親を対象としている機関が含まれていることもあり、夫婦と子どもの2世代（核家族）とひとり親がほぼ同数となっています。

Q6：主な仕事の状態



現在何らかの仕事を持っている回答者は6割いました。

＜コロナ禍での変化＞

コロナ禍での仕事や生活の変化などを尋ねた設問（Q7）の回答からは、具体的な状況が垣間見えます。

仕事に関しては、「解雇された」、「廃業した」といった声が寄せられており、回答者123名中21名の方がコロナ禍において離職していると回答しています。「在宅勤務や授業の生活様式が変化した」といった回答も見られます。

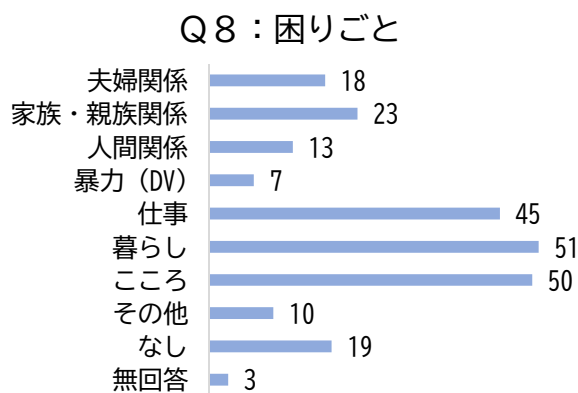
生活については、「子どもなど家族と関われる時間が増えたというプラスの変化があった」、「夫が家庭に積極的に参加するようになった」などの声がある一方で、「自粛要請などで思うように外出ができなかった」、「一人になる時間が持てずにストレスを抱えている」といった声も数多く寄せられました。

また、子どもへの影響を心配したり、「外出自粛で実家などの支援が受けられなくなり子育ての負担が増えた」、「預けにくくなったことで仕事の選択肢も狭くなってしまった」など、子どものことを女性が引き受けざるを得ない状況が浮かび上がっています。

さらに、「生活が苦しい」、「就職が困難」といった経済的な影響を受けている内容も多くありました。

件数は少なかったものの、在宅勤務の夫からのDV被害の相談も寄せられました。暴力までには発展してはいないものの、家庭内の緊張度が高まった内容の記載も見られました。（P.161に抜粋したものを掲載しています）

＜現在の困りごと＞



現在の困りごとを問うこの設問（複数選択）では「暮らし」「ところ（不安や落ち込み）」「仕事」の3つの項目が抜きんで多く、ほぼ並んでいます。コロナ禍が精神的なことも含めて生活全般に大きな影響をあたえていたことが数値の上からも見て取れます。

年代別困りごとの状況

	暮らし	ところ	仕事	夫婦	家族	人間	暴力	その他	なし
10代	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	58.3%	50.0%	58.3%	0.0%	8.3%	16.7%	0.0%	8.3%	8.3%
30代	40.0%	55.0%	40.0%	15.0%	40.0%	15.0%	5.0%	20.0%	15.0%
40代	42.9%	38.1%	42.9%	26.2%	14.3%	14.3%	9.5%	9.5%	16.7%
50代	44.8%	31.0%	44.8%	10.3%	6.9%	0.0%	6.9%	3.4%	24.1%
60代以上	30.8%	30.8%	30.8%	7.7%	30.8%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%

20 歳代の約 6 割が「暮らし」「仕事」を選択しており、30 歳代では不安・落ち込みといった「こころ」を選択した割合が半数を超えました。30 代、40 代では夫婦や家族のことで困っていると答えた割合が多くなっています。

主な職業別困りごと（こころ、暮らし、仕事）の状況（ ）内は人数を示す

	全体の人数	こころ（不安・落ち込み等）	暮らし	仕事
専業主婦	11	72.7%(8)	45.5%(5)	36.4%(4)
パート・アルバイト	29	31.0%(9)	31.0%(9)	20.7%(6)
正社員	19	47.4%(9)	47.4%(9)	52.6%(10)
契約社員（含：派遣）	18	33.3%(6)	33.3%(6)	27.8%(5)
自営業	7	42.9%(3)	42.9%(3)	42.9%(3)
無職	28	32.1%(9)	64.3%(18)	50.0%(14)

職業別に見て特徴的であったのは、専業主婦の 7 割が「こころ」を選択していることです。一人の時間が少なく、家事や子どもなど家族のことでストレスを抱えがちであると思われます。中には、Q 7 の設問で離職して専業主婦になったと回答した方が含まれています。こうした方は仕事の状態の変化により、一人の時間がなくなり、特にストレスを抱えていると考えられます。

また、正社員の約半数が「こころ」「暮らし」「仕事」を選択しており、割合が高くなっています。Q 7 の回答から、正社員であっても（あるいは正社員であるがゆえに）コロナ禍で業務量が増えるに伴って、負担感も増して今後の生活設計を見直すことも考えるといったことも読み取れました。

その他、無職の場合は暮らしに不安を抱え、自営の場合、この先仕事はどうなっていくのか大きな不安を抱えているという現実が数値としても表れています。

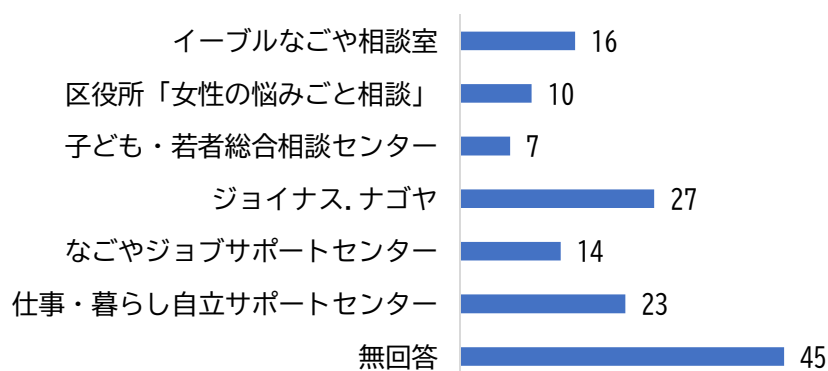
主な家族のかたち（家族類型）別困りごとの状況

	1 人暮らし	パートナーのみ	2 世帯（核家族）	3 世代以上	ひとり親
夫婦関係	0.0%	14.3%	20.3%	7.7%	3.6%
家族・親族関係	10.0%	0.0%	10.9%	15.4%	8.9%
人間関係	8.3%	0.0%	4.7%	7.7%	5.4%
暴力（DV）	11.7%	7.1%	6.3%	7.7%	0.0%
仕事	23.3%	21.4%	9.4%	15.4%	26.8%
暮らし	25.0%	28.6%	15.6%	7.7%	28.6%
こころ	18.3%	21.4%	26.6%	30.8%	17.9%
その他	3.3%	7.1%	3.1%	7.7%	7.1%
なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	1.8%

ひとり親の家庭がコロナ禍の大きな影響を受けたとされています。このアンケートでも、核家族（夫婦と子どもの世帯）と比較では「仕事」を選んだ回答者の割合は2倍以上、そして「暮らし」もひとり親が大きく上回っていることがわかりました。一方、核家族では他の家族の形態の中で最も「こころ」を選択した回答者の割合が多く、「夫婦関係」続いて「暮らし」となっています。閉塞的な空間でのストレスや夫など家族との関係で悩んだり困っている状況がここからもうかがえます。1人暮らしでは「暮らし」「仕事」「こころ」を選んだ回答者が多く、これからの生活の不安や孤独感を抱えている様子が伝わってきます。

＜相談経験のある窓口＞

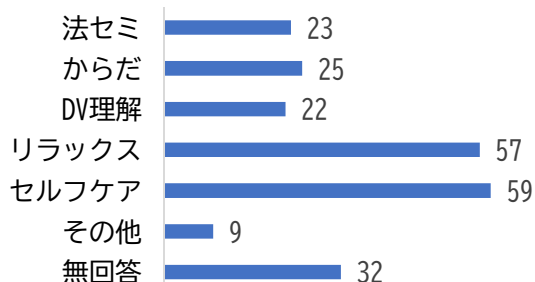
Q 9：相談経験のある窓口



アンケートへの協力を関係機関に依頼したこともあり、相談経験のある窓口（複数回答あり）をあげている方が多くいました。何らかの困っていることがあるにもかかわらず、記載がない無回答のものが33件含まれており、必要な時にすぐにつながれるよう、相談窓口の広報が必要であると思われます。

＜参加してみたいセミナー等＞

Q 10：参加してみたいセミナー等



法セミ：離婚やセクハラなどをテーマにした弁護士による法律セミナー
 からだ：からだをテーマとしたセミナー
 DV理解：DVやモラハラ、トラウマに関する理解を深める講座
 リラックス：心が落ち着いたり、リラックスできる方法を知る講座
 セルフケア：ストレスを減らすためのセルフケア講座

参加してみたいセミナー等を尋ねた設問（Q10）では、心が落ち着いたりリラックスできる方法を知る講座とストレスを減らすためのセルフケアの講座が全体の半数を占めました。

コロナ禍での仕事や生活の変化など（Q7）への回答（抜粋）

①家族との関係、仕事や家庭生活にはどのような変化がありましたか

- ・家庭内のけんかが増えたように感じる。（30代 その他）
- ・主人が在宅で家にいる時間が長くなりストレスが増えました。（30代 専業主婦）
- ・夫がイライラしている。（30代 パート）
- ・夫が今まで以上に粗暴になり、家族関係は乱れている。（40代 契約社員）
- ・正社員で働いていたが解雇され、パートで仕事を探したが続けられなかったため収入の見通しが無い（50代 無職）
- ・パートの仕事が減り収入が不安定となり生活苦。（60以上 パート）
- ・給料が減った（仕事に行きたくても行けない、子供の面倒をみるため）（40代 パート）
- ・子供を預けられる幅が狭くなり、働きたいが時間制限をしなくては対応できなくなってしまい、選択の自由がないのに困った。（40代 契約社員）
- ・休日、公園も使用禁止になり家庭内で過ごすことが多くそれぞれストレスをかかえた。（30代 専業主婦）
- ・子どもと関わる時間が増えた。（30代 パート）
- ・子どもが学校の無い時に家の手伝いをしてくれるようになった。（40代 正社員）
- ・色々細かいことがみえてきて主人と向き合う時間が持てました（50代 その他）
- ・自宅で食事のみになったので、主人が料理を作ってくれたり、子どもの習い事の送り迎えなど、家庭への積極的な参加がみられて助かっている。（40代 契約社員）

②精神的にはどのような影響がありましたか

- ・かなりストレスとなっている。（40代 契約社員）
- ・いつまでコロナが続くのか、気が滅入る。（40代 正社員）
- ・家族間のトラブルにより精神的ストレス大。（40代 契約社員）
- ・常に不安である（40代 正社員）
- ・一人の時間がなく、家事の量、負担も増えたのでストレスがたまる。（40代 専業主婦）
- ・家事をお願いできる日があり助かる。（50代 正社員）
- ・やらなくて良いこと、不要なことが浮き彫りになり、精神的にはラクになった。（50代 契約社員）

③ ①、②のほかに変化や影響は何かありましたか

- ・学校の休校や行事が中止になり子どもたちの生活にも影響あり元の生活に戻れるか不安。（40代 契約社員）
- ・マスクしていない人や考え方が違う人を見るとひどく不安になる。（30代 無職）
- ・病院に行きたいがコロナが心配で通院を延ばしています。（60歳以上 パート）
- ・本当に大切な人や物事がわかり、無駄を省けるようになった。（50代 契約社員）

女性に対するアンケート ～コロナ禍の女性についての実態調査～

イーブルなごや相談室では「女性のための総合相談」を行っています。
令和2年度は相談室にも多くのコロナに関する相談が寄せられました。
このたび、より多くの女性の方にコロナ禍による影響について
お伺いし、これからの相談室のさまざまな事業に活かしていきたい
と思っています。なお、QRコードからでもアクセスが可能です。
お答えしやすい方法でご協力をお願いいたします。



イーブルなごや

検索

<http://e-able-nagoya.jp>

Q1 あなたの年代をお答えください

10代 20代 30代 40代 50代 60代以上

Q2 あなたの居住区をお答えください

() 区 愛知県内 その他 () 市

Q3 あなたには現在配偶者はいますか（あてはまるもの1つ）

- 1 配偶者がいる（事実婚を含む）
- 2 いない（結婚したことがない）
- 3 いない（離別・死別）

Q4 あなたはお子さんをお持ちですか。別居している場合も「いる」に含めてください

（あてはまるもの1つ）

- 1 いる 2 いない

Q5 現在、あなたと同居している方に○をつけてください（あてはまるものすべて）

- 1 一人暮らし（同居している人はいない） 2 パートナー（配偶者） 3 子ども
- 4 自分の親 5 パートナー（配偶者）の親 6 きょうだい 7 祖父母 8 孫
- 9 その他 ()

Q6 現在あなたの主な仕事の状態についてお答えください（あてはまるもの1つ）

- 1 専業主婦 2 パート・アルバイト 3 正社員 4 契約社員（派遣を含む）
- 5 自営業 6 自営手伝い 7 自由業 8 内職 9 無職 10 学生
- 11 中高生 12 その他 ()

Q7 コロナ禍でのことについてお答えください

- ① 家族との関係、仕事や家庭生活にはどのような変化がありましたか
- ② 精神的にはどのような影響がありましたか
- ③ ①、②のほかに変化や影響は何かありましたか

Q8 現在どのようなことに困っていますか（あてはまるものすべて）

- 1 夫婦関係 2 家族・親族関係 3 人間関係
- 4 暴力（DV） 5 仕事 6 暮らし（家計、経済困難等）
- 7 ところ（不安、落ち込み等） 8 その他 ()
- 9 困っていることはない

Q9 以下の相談窓口を利用したことはありますか（あてはまるものすべて）

- 1 イーブルなごや相談室 2 区役所「女性の悩みごと相談」
- 3 子ども・若者総合相談センター 4 ジョイナスナゴヤ
- 5 なごやジョブサポートセンター
- 6 仕事・暮らし自立サポートセンター

Q10 イーブルなごや相談室では、様々なセミナー等を行っています。あなたが参加してみたいセミナー等はどのようなものですか（あてはまるものすべて）

- 1 離婚やセクハラなどをテーマにした弁護士による法律セミナー
- 2 からだをテーマとしたセミナー
- 3 DVやモラハラ、トラウマに関する理解を深める講座
- 4 心が落ち着いたり、リラックスできる方法を知る講座
- 5 ストレスを減らすためのセルフケア講座
- 6 その他 ()

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。



名古屋市スポーツ市民局男女平等参画推進室
電話 052-972-2234
FAX 052-972-4206

コロナ禍における相談統計

ここからは令和2年度のイーブルなごや相談室「女性ための総合相談」におけるコロナ禍を見ていきたいと思います。

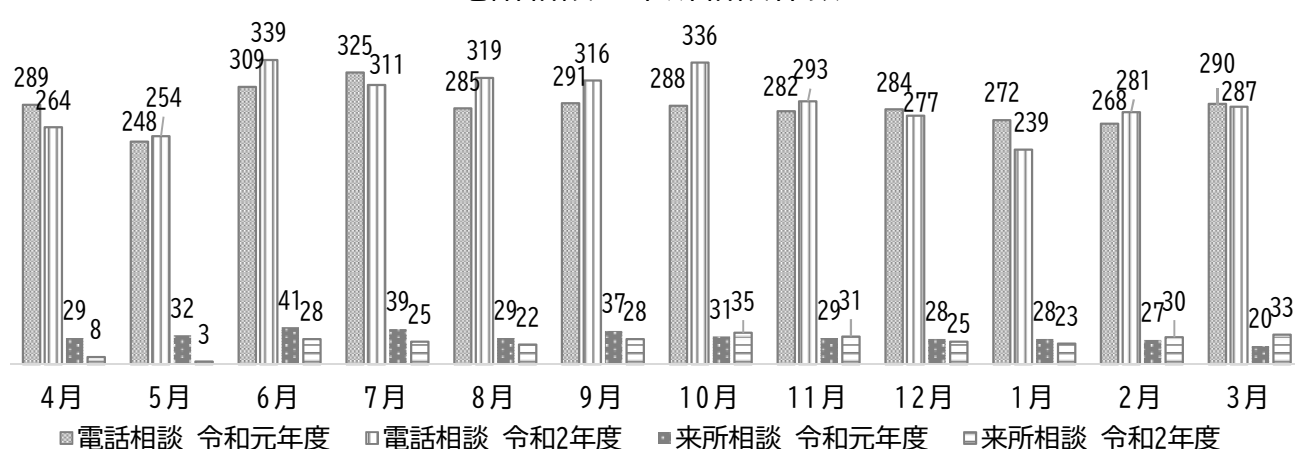
相談総件数は前年度に比べて若干増加しましたが、月別では第1回緊急事態宣言下（令和2年4月7日～5月25日）の4月、5月は電話相談件数が前年度より減少しました。宣言下での休校や自粛対応により家族が自宅にいる時間が増え、家事・育児の負担が増すなど電話相談が利用しにくい状況であったとも考えられます。逆に宣言解除後の6月には前年度より増加し、ストレスの高さなどが推察されます。また、ようやく以前の生活のペースが戻りつつある中で家族など身近な他者以外とのつながりを求める気持ちも大きかったのではないかとわれ、前年度を上回る傾向は8月～10月も続きました。

第1回緊急事態宣言下ではセンターの閉鎖に伴い、緊急ケース以外の面接相談を中止し、電話相談に切り替えるか、宣言解除まで延期するか選択してもらいました。延期したケースの中にはもう相談は必要なくなったとのことで再開に至らなかったケースもありました。

また感染への不安は消えることはなく、足を運んでの面接相談へのハードルが上がったままの状況から、面接相談の減少傾向は9月ごろまで続いたと思われます。

一方で電話相談は緊急事態宣言解除後の6月や8月～10月に前年度を1割上回り、総件数は85件増加しています。

電話相談・来所相談件数



相談内容別の相談件数は前年度と大きな変化はありませんが、「こころ」「人間関係」「夫婦関係」の相談件数が増加しています。コロナ禍での不安感やストレスの増大、自粛等で同居する人とは距離が近くなりすぎる一方で、離れて暮らす家族とは会えずに疎遠になってしまったなどが要因と考えられます。「夫とコロナ感染に関する考え方に差があって言い争いが多くなった」「夫の在宅勤務でストレスが増えた」「宣言が出ているのに休校中の子どもが外出しようとして困っている」「施設入所している親に会えず、つらい」といった相談が複数寄せられました。

「暴力」の相談のうち、DVは約8割を占めていますが、令和2年度はDVに関する相談件数は減少しました。中には「以前から暴力をふるう夫なので、在宅勤務になり毎日が緊張の連続」「夫に出ていけと言われた。離婚したいが仕事が見つからない。がまんする

しかないのか」といった深刻な相談も寄せられました。

また「仕事」「暮らし」の相談では、コロナ禍で「夫の収入が減ったが、パートを増やすことはできず不安」「人員が減られ、休み時間が取れない」「十分な感染予防対策が取られず不安」といった就業や労働問題、経済的な不安を訴える相談も含まれています。

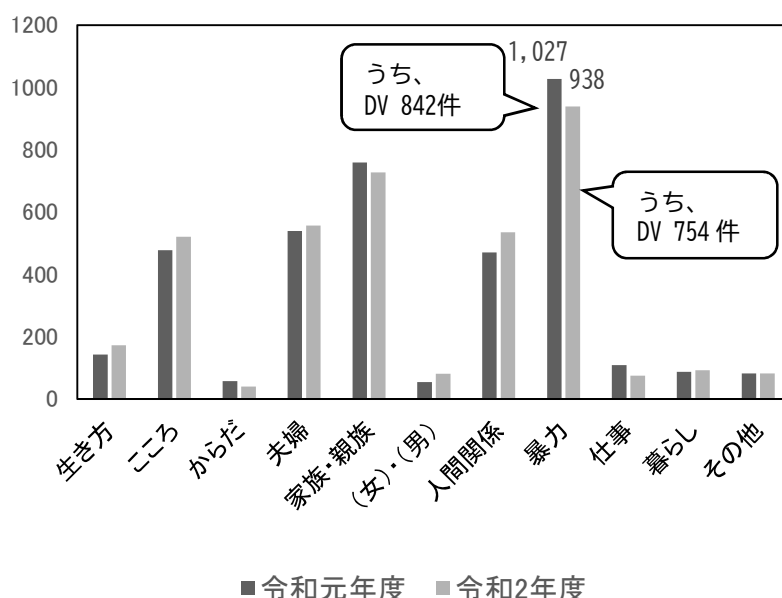
個別相談内容別件数

	R 元年度	R2 年度
生き方	142	172
こころ	477	520
からだ	57	39
夫婦	539	556
家族・親族	759	727
(女)・ (男)	54	80
人間関係	470	535
暴力 (うち DV)	1,027 (842)	938 (754)
仕事	108	74
暮らし	87	92
その他	81	81
合計	3,801	3,814

<参考>

項 目	項 目 の 説 明
生き方	価値観・自分らしさの問い直し、セクシュアル・マイノリティー、ライフプランニングなど
こころ	不安・落ち込み、抑うつ、摂食障害など
からだ	妊娠・出産、性に関することなど
夫婦	対等でない関係、夫婦の性、離婚・別居に関することなど
家族・親族	親との関係、介護の不安・負担、子どもとの関係など
(女)・(男)	男女間の諸問題。男女の関係性や性、男女の法律など
人間関係	職場、隣人、友人・知人等の人間関係など
暴力	DV、家族関係での暴力、性的虐待、セクハラ（職場、学校、地域）など
仕事	就職・転職、労働条件・労働問題など
暮らし	家計・経済困難、福祉制度・施設、法律・制度など
その他	各種問い合わせ、要望、苦情、その他

個別相談内容別件数



令和2年度に寄せられた総件数3,814件の相談のうち、相談内容にコロナの影響が考えられるもの（コロナに関する相談）は547件（14%）でした。それらの相談内容に焦点を当てて実態を明らかにするには、既存の分類だけでは不十分であると思われます。そこで相談室では次ページの10項目を設定し、分類をしていきました。1件の相談の中に複数の項目があげられるものもありましたが、選択は3項目とし、主となるもの1項目について分類しました。具体的な相談の内容をイメージできるよう、多く寄せられた内容を記載しています。

コロナに関する相談の分類項目と主な相談内容

	項 目	主な相談内容
1	関係性への変化	夫や子どもなどの家族や友人など他者との関係性が変化した - 外出は控えたいのに、夫は二人で出かけたがる。行く・行かないでいつもケンカになって疲れてしまった。 - 夫との関係が悪化。離婚を具体的に考えるようになった。 - 休校になった子どもがゲームばかりしているのが気になる。注意することが多くなって常にとげとげした感じの会話になってしまう。 - 感染拡大で法事を欠席したところ、親戚に電話で責められてしまい、今後つきあいたくない。 - お互い在宅勤務で顔を合わせる時間が増え、ケンカが多くなった。 - 実家に帰ってきている娘。離れて暮らしていたため生活時間が異なり何かとぶつかる。
2	DV を含む暴力や虐待	コロナが原因の DV や虐待が起こったり、それが悪化した - 以前からモラハラがあった。夫はこれから家にいる時間が増えるので不安。 - これまでも暴力をふるわれてきた。在宅勤務の夫に家事を頼んだら「仕事をしているのに」と怒り、物を投げてきた。
3	性別役割の強要・強化、負担増	夫や周囲からの性別役割の押し付けや、負担が増加した - 夫婦とも働いているが在宅勤務になった。夫は昼食を作ってもらって当然のような態度で自分が作るなどと少しも考えていない。 - 子どもが休校になり、どちらが仕事を休むかでもめ、結局私が休むことになったが、すっきりしない。
4	感染への不安	感染への恐怖感や外出による感染が不安だ - 感染したらどうしようかと思い、家から出られない。 - 感染のリスクのある職場にいる。感染したらどうしようといつも不安を感じている。
5	経済面への影響	仕事がなくなった、経済面での減収などの影響を受けている - 夫は自営で収入が激減。支払いを滞納しているものもある。何から手をつけたらいいのかわからない。 - 離婚した夫から収入が減り養育費の支払いが難しくなったと言われた。
6	仕事への影響	解雇や待遇の悪化などの労働問題や仕事に関する影響があった - 妊娠中なので在宅勤務を希望したのに無理と言われた。 - 感染リスクの高い職場に回された。これまでもパワハラを受けていたので、今回のこともパワハラだと思う。 - 閉店するので解雇された。
7	ストレスや精神面への影響（感染不安以外）	自分自身や夫、子どもなどの在宅時間が増えるなどしてストレスが増えた - 夫も子どもも家にいて、外出もできない。息抜きができずつらい。 - 誰のせいでもないのだが、気が滅入ってうんざりしている。 - レジに並んだら後ろの人が距離を取らない。何を考えているのかとイライラする。
8	社会活動の制限	遠方の家族に会えない、裁判や調停、挙式などが延期・中止になった - 定期的に訪ねていた施設入所中の親に会いに行けなくなり、さびしい。 - 子どもの挙式をどうするかでもめている。参列する人のことも考えて延期せざるを得ないのではないか。
9	定額給付金に関する内容	特別定額給付金に関すること - 夫とは DV もあって別居中。住民票は動かしていないがどのような手続きをすればよいか。 - 夫との関係が悪い。自分の口座に入金してもらうことはできないか。
10	ワクチンに関する内容	ワクチン接種に関すること - ワクチンの有効性や副作用が不安。 - いつ打てるのが心配。

コロナに関する相談件数の月別推移（内容別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1 関係性の変化	13	10	10	13	3	1	7	4	10	7	4	8	90
2 DV 等の増加	4	1	2	0	4	4	2	0	0	0	1	1	19
3 性別役割	1	0	2	0	0	2	1	1	1	2	1	1	12
4 感染不安	16	13	3	5	11	7	11	8	10	7	8	2	101
5 経済面への影響	16	11	3	8	4	1	9	1	6	5	7	5	76
6 仕事面への影響	2	1	6	0	4	5	0	5	0	2	3	1	29
7 ストレス	26	11	18	4	11	13	9	12	9	9	9	4	135
8 社会活動制限	5	5	3	3	7	7	1	4	5	10	19	5	74
9 給付金	2	2	1	2	2	1	0	0	0	0	1	0	11
10 ワクチン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	85	54	48	35	46	41	40	35	41	42	53	27	547

年間を通じてストレスに分類されるものが最も多くなりました。特に4月当初は初めての緊急事態宣言ということもあり、コロナに関する相談件数も多く、さまざまな場面でストレスを抱えた生活を余儀なくされたことがわかります。経済面への影響を訴える相談も多く寄せられました。

また、令和2年1月からは社会活動の制限に分類される件数が高くなっており、いわゆるコロナ疲れの状況が表れているものともいえます。ワクチンに関する相談を第一項目にあげるものではありませんでしたが、令和3年度以降は多くなっていくことが予想されます。

こうした状況から、P160の参加したいセミナー等としてリラックスやセルフケアを回答した方の割合が高くなったと思われます。

相談室では、この結果を受け、家庭の中で他者との精神的な距離について考えたり、後回しにしがちな自身の心身をケアする方法など、今後の講座の企画につなげていきたいと思います。

ウィズコロナにおける女性の生活・就労等実態調査
結果報告書

令和4年2月

発行：名古屋市

編集：名古屋市スポーツ市民局市民生活部男女平等参画推進室
〒450-8508

名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

TEL 052-972-2233
